

同勅奏官勲族等犯罪取扱方ノ儀ニ對シ御裁令ノ趣モ有之儀ヲ民事ニ於テモ同様帶助者ハ勲六等有位者ハ從六位以下ニ限リ其時々奏聞可致儀ト心得可然哉此段相伺候也
明治十六年六月四日 司法卿大木喬任

太政大臣三條實美殿

乙號 伺之通 (明治十八年一月廿四日)

◎恩給ニ關スル部

○官吏恩給令 (十七年一月四日) (第壹號達)

- 第一條 官吏恩給ハ文官勅任官奏任官判任官其本官奉職ノ年數及ヒ其年齡ニ依リ退官後之ヲ支給ス但出任ハ本官ニ準ス
- 第二條 恩給ハ官吏滿十五年以下奉職シ年齡六十歳ニ至リテ退官ヲ許シタル者又ハ年齡六十歳ニ至ラスト雖モ滿十五年以上奉職シタル後廢官廢廳若シハ不治ノ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘサル確證アル者ニ終身之ヲ給ス
大臣(參議各省卿)元老院議長(參事院議長)ハ滿二年以上奉職シタルノ後退官スル時ハ特旨ヲ以テ終身恩給ヲ支給スルコトアル可シ
- 第三條 在職滿十五年以内ト雖モ公務ニ依リ不治ノ病ニ罹リ又ハ重傷ヲ負ヒ其職ニ堪ヘズ退官セシメタル者又終身恩給ヲ支給ス
- 第四條 公務ニ依リ重傷ヲ負ヒ若シハ不治ノ病ニ罹リ開業醫ノ診斷書ヲ具ヘテ其職ニ堪ヘ

サル旨ヲ證明スルコトヲ得ルキハ其退官ヲ許シ在職年數ニ拘ハラズ終身恩給ヲ支給ス

第三條及ヒ前項ノ場合ニ於テ盲聾或ハ一肢以上ノ用ヲ失ヒ不治ノ症ニ罹リタル者ハ其退官ヲ命シタルト又ハ退官ヲ許シタルトニ拘ハラズ其情狀ニ依リ特旨ヲ以テ現官相當恩給ノ外ニ猶其最下金額十分ノ七迄ヲ増給スルコトアル可シ

開業醫ノ診斷書ニ就キ疑フヘキモノアルトキハ本屬長官ハ更ニ醫員ヲ派遣シ其診斷ニ依リ事實ノ當否ヲ判定ス可シ

第五條 恩給ハ退官現時ノ俸額ニ依ル其給額ハ奉職滿十五年ニシテ俸給年額ノ四分ノ一即チ二百四十分ノ六十トシ爾後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿三十五年ニ至リ二百四十分ノ八十即チ俸給年額三分ノ一ニ至ツテ止ム但非職中退官スル者ト雖モ恩給ハ其在職俸給ノ年額ニ照シテ之ヲ支給ス

第二條ノ第二項並ニ第三條第四條ニ掲グル所ノ十五年未滿ノ奉職者ニ恩給ヲ支給スルコトアルトキハ其給額ハ俸給年額百四十分ノ六十ニ當ルノ額ヲ以テス

進級後一年未滿ニシテ退官シタル者ハ前官ノ俸給ニ依リ恩給ヲ支給ス但公務ニ起因スル傷痍疾病ノ爲メ退官シタル者ハ此限ニアラス

第六條 奉職滿十五年ニ超ル者ト雖モ年齡未ダ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官ヲ請フ者又ハ服務紀律ニ違ヒタル者ノ諭旨退官及ヒ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官セシ者ハ恩給ヲ支給セス

(發賣門) (官吏恩給令)

第七條 奉職年數ノ計算ハ明治四年八月ヨリ起算ス其以後任官ノ者ハ其拜命ノ日ヨリ起算
ス但年齢二十歳未満ノ奉職年數ハ算入セス

明治四年八月以前ヨリ奉職シタル者ハ明治四年七月ノ現官等ニ對スル月俸ノ半額ヲ以テ
奉職年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スルノ金額ヲ以テ別ニ一時賜金トシテ給與ス第十七年
五號通ヲ以テ(金額ヲ以テ)ノ下
(恩給支給ノ際)ノ六字ヲ刪ル

第八條 武官ヨリ文官ニ轉シ若クハ退官後再ヒ任官シタル者ハ前官後官ノ奉職年數ヲ通算
ス但御用滞在中ノ年月及ヒ嘗テ滿年賜金若クハ退官一時賜金ヲ受ケタル者ノ前官年數ハ
算入セス

第九條 恩給ヲ受ケル者再ヒ官ニ就キ爾後退官ノ節其俸額前官ヨリ少キトキハ仍ホ前官ノ
俸額ニ依リ恩給ヲ支給ス

第十條 勅委任官奉職中既ニ恩給ヲ受ケ可キ期ニ至リタル者及ヒ其退官恩給ヲ受ケル者死
去セシトキ又ハ其期ニ至ラズト雖モ公務ニ依リ死去セシトキハ其情狀ニ依リ特旨ヲ以テ
其寡婦ニ扶助料トシテ死者生存中ノ恩給年額四分ノ二以内ヲ終身支給スルコトアル可シ
寡婦ナケレハ其繼嗣ノ孤兒男女并ニ實子
養子ヲ間ハス滿二十歳ニ至ル迄之ヲ給スルコトアル可シ但寡
婦ハ其本夫ノ在官中ニ入籍シタル者ニ限ル
判任官ハ公務ニ依リ死去セシトキニ限リ其情狀ニ依リ特旨ヲ以テ本條及第十二條第十三
條第十四條ニ準スルコトアルヘシ

但其扶助料ハ轉給セス十八年七月第四十一號
通ヲ以テ木項ヲ改正ス

第十一條 寡婦復籍若クハ再嫁シ又ハ死去シタルトキハ其扶助料ハ更ニ繼嗣ノ孤兒二十歳
未満ノ
者ニ給ス

扶助料ヲ受ケル孤兒既ニ嫁娶シ若クハ官廳ニ奉職シ俸給ヲ受ケ又ハ諸官立學校ノ官費生
徒ニ爲リタルトキハ其扶助料ヲ給セス

第十二條 扶助料ヲ受ケ可キ寡婦孤兒ナシ又ハ扶助料ヲ受ケタル寡婦復籍若クハ再嫁シテ
孤兒ナシ尙ホ從來死者ニ依リテ生活セル父母又ハ祖父母アリテ他ニ之ヲ奉養スルノ子孫
ナキトキハ其情狀ニ依リ特旨ヲ以テ寡婦ニ相當セル扶助料三分ノ二以内ヲ終身支給スル
コトアル可シ

第十三條 其扶助料ハ父母祖父母共ニ存在スルトキハ先ツ之ヲ父ニ給シ其父死歿若クハ其
恩典ヲ失フコトアレハ轉シテ之ヲ母ニ給ス以下其母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ順次此例
ニ依リ之ヲ轉給スヘシ

但父及ヒ祖父ハ年齢五十歳以上其未滿ハ廢疾又ハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサ
ル者又母及祖母ハ夫ナキ者孰レモ本人死歿ノ際年齢五十歳以上ニシテ其戶籍ニ在リ
シ者ニ限ル

第十四條 扶助料ヲ受ケ可キ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナシテ從來死者ニ依リ生活セル二
十歳未滿又ハ二十歳以上ト雖モ廢疾不具ノ兄弟姉妹アリテ之ヲ教育スルノ親族ナキ者ハ

(發賣門)

(官廳恩給令)

其情狀ニ依リ特旨ヲ以テ寡婦ニ相當セル扶助料一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カ
ラサル額ヲ一時限り支給スルコトアル可シ

第十五條 恩給ハ在官者退官ノ翌月ヨリ支給ス扶助料ハ恩給ヲ受ケ又ハ受ク可キ者死去ノ
翌月ヨリ支給ス其轉給スル者亦同シ

第十六條 恩給及ヒ扶助料ノ給否ハ本屬長官若シハ其所管地方長官ノ證明ニ依リ恩給局ノ
審査ヲ經テ太政大臣之ヲ裁定ス

恩給及ヒ扶助料ノ給與ニ關シ若シ穩當ナラザル限アルコトヲ覺知シタル者ハ之ヲ其本屬
長官若シハ地方長官ニ請願シ而シテ猶ホ穩當ノ指令ヲ得サルトキハ本人ヨリ直ニ之ヲ太
政官恩給局ニ請願スルコトヲ得

但之ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ許サス

第十七條 恩給若シハ扶助料ヲ給スル本人ニハ太政官ヨリ其證書ヲ下付ス

第十八條 恩給ヲ受クル者公權ヲ剝奪セラレタルトキハ全ク之ヲ止メ又左ノ各項ニ該ルト
キハ其時間ノミ之ヲ停ム

- 一 公權ヲ停止セラレタル時
- 二 再ヒ官ニ就キ俸給ヲ受クル時
- 三 事故アリテ日本人タルノ分限ヲ失フ時
- 四 政府ノ許可ナクシテ日本國外ニ出タル時

第十九條 扶助料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレトキ又ハ第十八條ノ第三項若クハ

第四項ニ該ルトキハ之ヲ止ム

第二十條 恩給ヲ支給ス可キ退官者アルトキハ本屬長官ハ本人ノ履歷書其傷痍疾病ニ起因
スルモノハ其證書ヲ具シ且事實ヲ證明シテ之ヲ太政官ニ進達シ以テ恩給ノ下付ヲ請求ス
可シ

第二十一條 扶助料ヲ願ハントスル者ハ本人主名ヲ以テ親族二名後見人アレハ其親族ナキ

トキハ同郷ノ戸主二名運署セシ願書ニ其戸籍ノ寫恩給若クハ扶助料給與又公務ニ依リ死

亡セル者ハ其原因症候等照査ニ供ス可キ證據書ヲ添ヘ之ヲ所管地方廳ニ出願ス可シ地方

長官ハ其事實ヲ證明シテ之ヲ太政官ニ進達シ以テ扶助料ノ下付ヲ請求ス可シ

但一箇年經過ノ後出願スル者ハ之ヲ受理セス

第二十二條 恩給若シハ扶助料ノ支給ヲ止ムルトキハ恩給局ヨリ所管地方廳ニ達シ二週日

以内ニ其給與ノ證書ヲ收メシム又恩給若クハ扶助料ヲ受クル者死去又ハ除籍シ扶助料ヲ

繼受スル者ナキトキハ遺族若シハ親族ヨリ其死亡又ハ除籍ノ證書ヲ添ヘ一箇月以内ニ之

ヲ所轄地方廳ニ届出テ該長官ハ事由ヲ具シ其證書ト共ニ之ヲ恩給局ニ進達ス可シ

第二十三條 恩給及ヒ扶助料ノ金額ハ毎年六月十二月ニ於テ其前半年分半年ニ滿タサルモ

スヲ大藏省ヨリ本人所在ノ地方廳ヲ經由シテ之ヲ交付ス

第二十四條 恩給若クハ扶助料ノ金額ヲ受領セントスル者ハ其證書及ヒ本人生存證書ヲ表

(實地門) (官吏恩給令伺指令)

證シ別ニ受領證書ヲ差出ス可シ

第二十五條 恩給若クハ扶助料ヲ受クル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスルトキハ金額交付期月ノ三箇月前ニ其所在ノ地方廳ニ願出可シ若シ其期ヲ過クル者ハ仍ホ元所在地ニ於テ之ヲ交付ス

第二十六條 恩給並ニ扶助料ハ一箇年以上其受領ヲ請求セザルトキハ其時間ノ金額ハ支給セス

第二十七條 恩給並ニ扶助料ニ關スル願書ハ郡區長戸長證書ハ戸長ノ與印ヲ要ス

第二十八條 盜難若クハ水火災等ニテ恩給若クハ扶助料給與ノ證書ヲ失ヒタルトキハ速ニ所管地方廳ヲ經テ恩給局ニ其旨届出可シ

第二十九條 官吏滿五年以上奉職ノ者十一年未滿ニシテ退官セシ時ハ現俸給三ヶ月分ヲ給シ其滿十一年以上十五年未滿ニシテ同上ノ者ニハ現俸給四ヶ月分ヲ給ス

但恩給ヲ受ル者并ニ自己ノ便宜ニ依リ退官ヲ請フ者又ハ服務紀律ニ違ヒタル者ノ諭旨退官及懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官セシ者ニハ總テ之ヲ給セス

○文部省ヨリ官吏恩給令第二十九條疑義ノ儀ニ付太政官ヘ伺(十七年五月二十日)本年四月第三十五號ヲ以テ御達相成候官吏恩給令追加第二十九條中疑義ニ涉リ候左ノ件々相伺候

一官吏滿五年以上云々
右官更トハ御用掛モ含有候儀ト心得可然哉
但等外吏ハ勿論月俸規則第二十三條ニ據ルヘキ儀ト存候事

一自己ノ便宜ニ依リ退官ヲ請フ者
右ハ依病辭職ヲ請フ者ノ如キハ本文ノ限りニアラサル儀ト心得可然哉

一服役紀律ニ違ヒタル者ノ諭旨退官
右ハ省務ノ都合ニヨリ諭旨退官セシムル者或ハ本官ヨリ更ニ御用掛ヲ命スルニ際シ退官セシムル者ノ如キハ勿論本條ニ照シ給與方可然哉

明治十七年六月二日 指令

第一項 御用掛ハ含有セス 但書同ノ通

第二項 不治ノ病ニ罹リ其職ニ堪ヘサル確證アル者ニ限り本條ニ依リ支給スヘシ

第三項 前段伺ノ通り後段ハ本官ヨリ更ニ御用掛ヲ命スルニ際シ退官セシムル者ハ其御用掛ヲ免スル時ニ於テ前本官ニ對スル一時賜金ヲ給シ其本官ニ再任スル者ハ前後通算スヘシ

第三十條 官吏在官中死去ノ者ハ現俸給三ヶ月分ヲ給ス

○官吏恩給令附則(明治十八年三月二十七日)第七拾五號

第一條 本令第二條第三條及第四條ニ該ル者退官スルハ同時ニ其恩給願書(第一式)及證據書類ヲ本屬長官ニ差出スヘシ

但廢官廢廳ニ係ル者ハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル長官ニ之ヲ差出スヘシ

第二條 本令第十條第十一條第十二條第十三條及第十四條ニ該ル者ハ其扶助料願書(第二式)及證據書類ヲ本籍地方長官ニ差出スヘシ

(要覽門) (官吏恩給令附則)

第三條

恩給願書若シハ扶助料願書ヲ受領セシ長官ハ查覈ノ上轉給願書ヲ除クノ外其計算書(第三式)ヲ製シ本令第二十條ニ據リ該書類ヲ太政官ニ進達スヘシ

第四條

恩給願書ニ添フヘキ證據書類ハ左ノ如シ
一 履歷書
二 戶籍寫
三 診斷書(病者ニ要ス)

第五條

本令第四條ニ掲クル最下金額十分ノ七迄ノ増給差等ハ左ノ如シ
一 二肢ヲ亡シ或ハ兩眼ヲ盲スル者 十分ノ七
二 前項ニ等シキ傷痕或ハ疾病ヲ受ケシ者 十分ノ六
三 一肢ヲ亡シ或ハ全ク二肢ノ用ヲ失フ者 十分ノ五
四 前項ニ等シキ傷痕或ハ疾病ヲ受ケシ者 十分ノ四
五 全ク一肢ノ用ヲ失フ者 十分ノ三
六 前項ニ等シキ傷痕或ハ疾病ヲ受ケシ者 十分ノ二
第六條 本令第三條ニ掲クル公務ニ依リ不治ノ病ニ罹リ又ハ重傷ヲ負フトハ一肢以上ノ用ヲ失ヒ或ハ失フニ均シキ者ニ限ル
第七條 公務ニ依リ不治ノ病ニ罹リ又ハ負傷シ恩給ヲ受ケタル者仍ホ重症ニ趨キシトキ左

ノ期限内ニ出願スレハ查覈ノ上更ニ増加恩給ヲ下賜スヘシ

一 一肢ノ用ヲ失ヒ或ハ一肢ノ用ヲ失フニ等シキ者ハ二箇年

二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者及之ニ等シキ者ハ三箇年

第八條

前條ニ該當シ増加恩給ヲ願ハントスル者ハ其願書(第五式)ニ診斷書及恩給證書ヲ添ヘ之ヲ本籍地方長官ニ差出スヘシ

第九條 年齢六十歳未滿ト雖モ滿十五年以上奉職シ服務紀律違犯ノ故ニ非スレテ諭旨退官ノ者若シハ非職滿期免官ノ者ハ本令第二條廢官廢職ノ例ニ依ル

第十條 官吏滿五年以上奉職ノ後本官ヲ免シ直ニ御用掛或ハ准官吏等ニ採用ノ者ハ其際恩給或ハ本令第二十九條ノ一時賜金ヲ給セス其御用掛或ハ准官吏退職ノトキニ於テ前官ニ對スル恩給若シハ一時賜金ヲ下賜ス

但御用掛或ハ准官吏奉職中自己ノ便宜ニ依リ其職ヲ辞スル者及服務紀律ニ違ヒ諭旨退職ノ者又ハ懲戒處分若シハ刑事裁判ニ依リ免職ノ者ハ恩給或ハ一時賜金支給ノ限ニ在ラス

第十一條 奉職年數ハ月ヲ以テ計算スヘシ

但退官同月内ニ再任セシ者ハ其月ヲ二箇月ニ算スルヲ得ス

第十二條 非職中ノ年月ハ奉職年數ニ算入スヘシ

(要覽門) (官吏恩給令附則)

但官吏非職條例第七條ニ該ル者ニシテ非職俸ヲ受ケサルノ年月ハ之ヲ除算ス

第十三條 本令第七條第二項ニ掲クル月俸トハ明治四年六月東京淺草米蔵ノ平均相場ニ依

リ當時ノ官祿一箇月分ニ相當スル金額ヲ云フ

第十四條 本令第二十九條及第三十條ノ一時賜金ハ非職中退官或ハ死去スル者ト雖モ其本

俸ノ額ニ照シテ之ヲ支給ス

第十五條 自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ服務紀律ニ違ヒ諭旨退官ノ者及懲戒處分若

クハ刑事裁判ニ依リ死官ノ者再ヒ任官スルコトアルモ其前官年數ハ之ヲ通算セズ

第十六條 公務ニ依リ死去ノ者アルトキハ其事實ヲ保證シタル書面(見証人アレハ)及履

歷書又恩給ヲ受クルノ期ニ達シタル者死去セントキハ其履歷書ヲ本屬長官ヨリ遺族ニ下

付スヘシ

第十七條 扶助料願書ニ添フヘキ證據書類ハ左ノ如シ

一 死者履歷書(在官中死去シタ)

二 戶籍寫

三 恩給證書(轉給ノトキニ要ス)

四 醫師ノ死亡届書若シハ檢案書(公務ニ依リ死去シタルトキニ要ス)

五 本屬長官保證書(公務ニ依リ死去シタルトキニ要ス)

第十八條 本令第十三條及第十四條ニ掲クル廢疾又ハ不具ノ者扶助料ヲ願ハントスルトキ

ハ前條書類ノ外仍ホ其診斷書ヲ添フヘシ

第十九條 本令第十條ニ掲タル恩給年額四分ノ二以内ノ差等ハ公務ニ依リ死去セシ者ノ寡

婦ニハ四分ノ二其他ノ寡婦ニハ四分ノ一トス

第二十條 本令第十條ニ掲クル恩給ヲ受クヘキ期ニ至ルトキハ奉職滿十五年以上ヲ云フ

第二十一條 扶助料ヲ受ケタル寡婦其支給ヲ止メラル、トキハ轉シテ之ヲ繼嗣ノ孤兒ニ給

ス

第二十二條 扶助料ヲ受ケタル寡婦死去シテ孤兒ナク又ハ扶助料ヲ受ケタル孤兒死去シ仍

ホ其亡夫或ハ亡父ノ父母又ハ祖父アルトキハ本令第十二條ノ例ニ依ル

第二十三條 本令第十三條ニ掲クル母及祖母廢疾又ハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハス他

ニ之ヲ奉養スル者ナキトキハ同條但書父及祖父ノ例ニ依ル

第二十四條 恩給或ハ扶助料ノ出願ヲ許可セシトキ恩給許可令ハ本屬長官ヲ經テ直ニ本人

ニ下付シ扶助料許可令ハ内務省ニ交付シ内務省ハ本籍地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下付ス

恩給證書ハ總テ内務省ニ交付シ内務省ハ本籍地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下付ス

第二十五條 本令第十六條第二項ニ掲クル請願ノ期限ハ恩給證書受領ノ日ヨリ三箇月トス

其期限ヲ過ルモノハ受理セズ

第二十六條 本籍地方廳ニ於テ本令第二十五條ノ出願ヲ許可シタルトキハ直ニ大藏省ニ届

出テ且本人移住ノ地方廳ニ通牒スヘシ

(附則) (官吏恩給令附則)

第二十七條

一五六

恩給ヲ受クル者賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルトキハ本令第十八條第一項ニ準シ扶助料ヲ受クル者同上ノトキハ本令第十九條ニ準ス

第二十八條

恩給若クハ扶助料ヲ受ケタル者本令第十一條第二項第十八條第三項第四項ニ該ルトキハ其本籍地方廳ヨリ直ニ恩給局ニ届出ツヘシ

本令第十八條ニ掲グル再ヒ官ニ就キ俸給ヲ受クルトキハ准官吏以上ヲ云フ

第二十九條

恩給若クハ扶助料ヲ下賜シ又ハ其支給ヲ止メ若クハ停メタル時ハ恩給局ヨリ之ヲ大藏省及會計検査院ニ通牒スヘシ

官吏恩給令附則諸書式

第一書式甲

恩給願書

免官廢職ハ元ノ官者
記名ハ姓名ヲ
スヘシ

某儀

何年何月間奉職罷在候處(年齢六十歳以上ノ老體ト相成退官出願候ニ付御許可ノ上ハ)(何々)(何々)相當ノ恩給下賜度證據書類相添此段奉願候也

年月日

本屬長官宛

官氏名印

第二書式乙

恩給願書

某儀

何年何月間奉職罷在候處何年何月何日何地ニ於テ何服務中何ニ依リ(何ノ部ニ何ノ傷痕ヲ負ヒ)(何々)爾來治療仕候得共途ニ(何々)(何々)退官相願候ニ付御許可ノ上ハ(相當ノ恩給)(相當ノ恩給并ニ増加恩給)下賜度證據書類相添此段奉願候也

年月日

本屬長官宛

官氏名印

第二書式甲

扶助料願書

夫(父)氏名箇

明治何年何月ヨリ恩給下賜相成居候處(何年何月間奉職罷在候處)何年何月何日死亡仕候ニ付某ハ相當ノ扶助料下賜度證據書類相添此段奉願候也

何府(縣)國郡(區)町村番地

何族(平民)

故何某(孤兒)

年月日

氏名印

(要貫門)

(官吏恩給令附則書式)

第二書式乙

地方長官宛

同	親族(後見人)	氏名印
同	親族	氏名印
戸長	氏名印	氏名印
郡(區)長	氏名印	氏名印

扶助料願書

夫(父)官某儀

何年何月何日何地ニ於テ何服務中何ニ依リ(何ノ部ニ何ノ傷痕ヲ負ヒ)(何々)何年何月何日死亡仕候就テハ某ニ相當ノ扶助料下賜度證據書類相添此段奉願候也

年月日

何府(縣)國郡(區)町(村)番地
何族(平民)
故何某寡婦(孤兒)
氏名印

第二書式丙

地方長官宛

同	親族(後見人)	氏名印
同	親族	氏名印
戸長	氏名印	氏名印
郡(區)長	氏名印	氏名印

扶助料願書

故官氏名某儀

明治何年何月ヨリ扶助料下賜相成居候處何年何月何日(復籍)(再婚)(何々)仕候ニ付更ニ某ニ扶助料轉給相成度證據書類相添此段奉願候也

年月日

何府(縣)國郡(區)町(村)番地
故何某孤兒
同
氏名印

(様式四)

(官更恩給令附則様式)

第三書式

明治四年八月以
前ノ任官ナレハ
四年八月ノ官ヲ
茲ニ記ス

地方長官宛

親族(後见人)
氏名印

同
親族
氏名印

戸長
氏名印

郡(區)長
氏名印

何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年	何年
何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月
何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日
退官	退官	退官	退官	退官	退官	退官	退官
何年何箇月				何年何箇月			
明治何年何月何年何箇月							

寡婦孤兒扶助料
計算書ナレハ本
額四分ノニ若ク
ハ一此年額若干
圓

第四書式

見認ノ實況及其
理由ヲ極メテ詳
悉スルヲ要ス

見認々書

明治何年何月 何官廳 取調主 任官氏名印

滿州年(前官)(現官)俸給或百四拾分ノ若干
此年額 若干圓

第五書式

(要旨明)

(官定証給合附録)

見認々書

右明治何年何月何日ニ何地ニ於テ何服務中何ニ依リ何ノ部ニ何ノ傷痕ヲ負ヒ候テ其何ノ際見認候也

年月日 見證人 氏名印

同 同 同

明治何年何月何年何箇月

增加恩給願書

某 儀

何年何月何日何地ニ於テ何服務中何ニ依リ何ノ部ニ何ノ傷痕ヲ負ヒ候ニ付何年何月何日退官御許可ノ上恩給下賜ノ處該傷痕漸次重症ニ變シ(何々)候ニ付增加額(下賜)(變更)相成候様御詮議ヲ被遂度願據書類相添此段奉願候也

何府(縣)國郡(區)町(村)番地

何族

元何官

年月日

地方長官宛

戶長

郡(區)長

氏名印

氏名印

氏名印

○陸軍恩給令(明治十六年九月十一日第三)

十七號官省院廳府縣(達)

第一章 總則

第一條 陸軍恩給ハ陸軍諸種ノ勤勞ニ依リテ之ヲ給スル者ナリ其種類別テ左ノ五項トス

一 退職者恩給

二 免除恩給

三 寡婦(孤兒)扶助料

四 賑恤金

五 給助金

第二條 退職恩給免除恩給寡婦扶助料ハ本人ノ終身孤兒扶助料ハ男女共ニ二十歳ニ至ル迄之ヲ給シ賑恤給金ハ一時限リ之ヲ給ス

第三條 軍人ハ定限ノ年齢ニ達スレハ現役ヲ辭シテ恩給ヲ受クルヲ例トス其定限左ノ如シ

會計監督 軍醫監 藥劑監 六 十

憲兵大中佐 會計副監督 軍醫正 藥劑正 馬醫監 五 十 七

步騎砲工輜重兵大中佐 憲兵少佐 會計監督補 會計一等軍吏 五 十 四

一等軍醫 一等刺官 一等馬醫 會計二等軍吏 二等軍吏 五 十 一

步騎砲工輜重兵少佐 憲兵大尉 砲工兵上等監護 二等軍醫 五 十 一

二等軍醫 二等刺官 二等馬醫 砲工兵上等監護 會計三等軍吏 三等軍醫 四 十 八

步騎砲工輜重兵大尉 憲兵中少尉 會計三等軍吏 三等軍醫 四 十 八

三等刺官 三等馬醫 軍樂長 砲工兵監護 砲兵監守 砲兵監查 四 十 八

諸工長 諸工下長 四 十 八

(要賞門)

(陸軍恩給令)

- 歩騎砲工輜重兵中少尉 憲兵下士 會計書記 看護長
 - 馬醫生 軍樂次長 軍樂手
 - 步騎砲工輜重兵下士 憲兵卒 雜卒 諸工
 - 步騎砲工輜重兵卒
- 一六四
四十五
四十
三十五

第四條 軍人定限ノ年齢ニ達スト雖モ前途尙ホ任用ニ堪ヘ若クハ材能特抜又ハ老練者ヲ要スル職務ニ在ル者ハ仍ホ留任ヲ命スルコトヲ得但強テ現役ヲ辭スル者ハ此限ニアラス

第五條 上長官士官准士官未ダ定限ノ年齢ニ達セスト雖モ服役實期十一年以上ノ者ニシテ服役ニ堪ヘサルヲ認メタル時ハ士官以上ハ陸軍卿準士官ハ其所管長官旨ヲ諭シテ現役ヲ退キ恩給ヲ願ハシムルコトアル可シ

第六條 恩給ハ公權剝奪ノ時ハ全ク之ヲ止メ左ノ各項ニ該ル時ハ其時間ノミ之ヲ停ム

- 一 公權停止ノ時
- 二 事故アリテ日本人タルノ分限ヲ失フ時
- 三 政府ノ許可ナクシテ日本國外ニ出タル時

第七條 恩給ヲ受ケタル者再ヒ現役ニ就キ若クハ文官ニ任シ俸給ヲ受クル時ハ其間該恩給ヲ停ム

第八條 但其負傷増加恩給ハ仍ホ之ヲ給ス

第八條 寡婦(孤兒)扶助料ハ當該軍人死歿ノ日戰地等ニテ死歿ノ者ハヨリ一箇年間願出サ陸軍官憲ヨリ報告ノ日ヨリ一箇年間願出サ

ル者ハ其權利消絶ス

恩給及ヒ扶助料ハ一箇年以上其金額ノ受領ヲ怠ル時ハ其怠リタル年間ノ金額ハ之ヲ給セズ

第九條 恩給及扶助料ノ金額計算ニ就キ違算アリト思惟スル時ハ初メテ金圓ヲ受領セシ日ヨリ三箇月以内ニ管轄地方廳ヲ經テ陸軍卿ニ上申スヘシ若シ此期限ヲ過クル時ハ之ヲ受理セズ

第二章 恩給及ヒ増加

第十條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ傷病ヲ受ケ若シハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若シハ陸軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給スハ年一月第四號達ヲ以テ(又ハ)ノ下ハ字ヲ加フ

戰闘及ヒ戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メニ傷瀆若クハ疾病ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ或ハ之ヲ失フニ等シト認ムル者又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ヒルコト能ハスシテ非常ノ勞動及ヒ困苦ヲ忍ヒ勤務ニ從事シ爲メニ健康ヲ妨害シ全ク職務ニ堪ヘサルニ至リ其證據明亮ニシテ退職スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖モ亦之ヲ給ス同上(傷病)ノ下(又ハ)ノ下ハ字ヲ加フ

其退職恩給ノ額ハ十一年ヨリ三十九年ニ至リ年々差等アルコト甲號表面ノ如シ但十一年未滿者ニ給ス可キ恩給ハ其十一年ニ等シキ額ニ依ル

(總賞典) (陸軍恩給令)

第十一條 免除恩給ハ下士及ヒ卒服役實期十一年以上ニシテ年限ニ達シ或ハ服役滿期トナリ或ハ傷痕若クハ疾病ノ爲メ免官若クハ免役スル者ニ之ヲ給ス同上(或ハ)ノ下(傷痕若クハ)ノ五字ヲ加フ前條第二項ニ掲グルカ如キ傷痕疾病ヲ受ケ永久健康ヲ妨害シ全ク兵役ニ堪ヘス其證據明亮ニシテ免官若クハ免役スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖モ亦之ヲ給ス其免除恩給ノ額ハ十一年ヨリ三十九年ニ至リ年々差等アルコト乙號表面ノ如シ但十一年未滿者ニ給ス可キ恩給ハ十一年ニ等シキ額ニ依ル

第十二條 准士官以上傷痕ヲ受ケルト雖モ尙ホ奉職セシメ後日退職スル者ハ現官等ニ依リ恩給ヲ給ス但負傷増加恩給ハ負傷當時ノ官等ニ依リ之ヲ給ス

第十三條 傷痕疾病ニ起因シ恩給ヲ願出ル者ハ其原因症候トモ詳細之ヲ開陳ス可シ

第十四條 傷痕疾病ヲ受ケシ事故及ヒ其原因ハ見證々書又ハ公文若クハ查問會議口供書ノ寫ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

第十五條 傷痕疾病不治ノ狀ハ陸軍病院長及ヒ主任醫官(地方病院ニ於テ治療ヲ受ケシ者ハ其院長並ニ主任醫師)ノ診斷證書ヲ以テ之ヲ證ス可シ其診斷證書ハ傷痕疾病ノ原因症候及ヒ其治療方法ヲ述ヘ以テ不治ノ狀ヲ詳悉ス可シ病院ニ就キ治療ヲ受ケサル者ト雖モ陸軍病院長若クハ地方病院長ノ診斷書ヲ要ス

第十六條 傷痕疾病不治ノ狀ハ軍醫若クハ地方醫師ノ證書ニ依ルト雖モ其軍務ニ堪ヘサル

ヤ否ヤハ當該所管ニ於テ檢査判定シ所管長官ヨリ之ヲ陸軍卿ニ呈ス可シ陸軍卿ハ更ニ軍醫本部ニ下シテ覆覈セシメ以テ之ヲ決定ス十七年四月第三十七號達ヲ以テ(制定ヒ)ノ下(尙達ヲ以テ)尙ホ檢閱監軍部長ノ審査ヲ經テ之ヲ陸軍卿ニ移ス)ヲ所管長官ヨリ之ヲ陸軍卿ニ呈ス)ニ更ニ

第十七條 恩給ハ軍人ノ現官階ニ依リ之ヲ給ス但下士以上其官階ニ進ヨ未タ進級條例ノ停年最下限ノ半ニ至ラズシテ退職免官ヲ願フ時ハ前官ニ準シテ之ヲ給ス其戰闘若クハ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ或ハ戰地ニ於テ受ケケル疾病ノ爲メ恩給ヲ給スルハ此限ニアラス

第十八條 准士官以上退職恩給ヲ願フ時所管長官ハ陸軍卿ニ呈スル進達書ノ日ニ於テ直ニ休暇ヲ命ス下士卒免除恩給ヲ願フ時亦該長官同上ノ日ニ於テ直ニ免官若クハ免役ス可シ

第十九條 戰闘及ヒ戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ左ノ各項ニ該ル者ハ恩給ノ外更ニ丙號表面ノ金額ヲ加給ス但公務ノ爲メ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナル者モ亦本條ニ準ス

- 一 兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者
- 二 前項ニ等シキ傷痕ヲ受ケシ者
- 三 一肢ヲ亡シ或ハ至ク二肢ノ用ヲ失フニ至ル者
- 四 前項ニ等シキ傷痕ヲ受ケシ者
- 五 至ク一肢ノ用ヲ失フ者

(第五項) (陸軍恩給令)

六 前項ニ等シキ傷痕ヲ受ケシ者

第二十條 傷痕疾病ニ依リテ恩給ヲ受ケ引續キ重症ニ趨キ或ハ現役ヲ離レシ後重症ニ趨キタル者左項ノ期限内ニ願出ル時ハ検査ノ上事實相違ナキニ於テハ更ニ恩給ヲ給シ或ハ負傷増加恩給ヲ給ス可シ

但更ニ恩給ヲ願フハ現役ヲ離ル、ノ際其傷痕ノ爲メ服役シ難キ確定ヲ得タル者ニ限ル

- 一 一肢ノ用ヲ失ヒ或ハ一肢ノ用ヲ失フニ等シキ者ハ現役ヲ離レシ日ヨリ二箇年
- 二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ或ハ兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者現役ヲ離レシ日ヨリ三箇年

第三章 寡婦(孤兒)扶助料

第二十一條 寡婦扶助料ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス其給額ハ當該軍人ノ官階ト死没ノ緣故トニ依リテ差アリ

- 一 戰闘或ハ公務ノ爲メ死没シ或ハ之ニ依リテ受ケタル傷痕ニ原因シテ死没シ又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ健康ニ有害ナル感動ヲ受ケルヲ願ヨルコト能ハズシテ非常ノ勞動及ヒ困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ發病死没シ又ハ平時當務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染シ死没シタル軍人ノ寡婦
- 二 退職若シハ免除恩給ヲ受ケタル後或ハ之ヲ受ケ可キ權ヲ有シテ死没シタル軍人ノ

寡婦

其扶助料ノ額第一項ニ該ル者ハ丁號表面ニ依リ第二項ニ該ル者ハ戊號表面ニ依ル

第二十二條 戰闘及ヒ公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケタル雖モ其傷痕ニ原因セザル他病ニテ死没シタル軍人ノ寡婦ハ扶助料ヲ給セス

第二十三條 戰闘中踪跡ヲ失フ者其死亡公務ニ原因セシニ相違ナキヲ確認スル時ハ第二十一條第一項ヲ適用ス

第二十四條 寡婦ハ陸軍簿籍ニ登記セシ者ニシテ其夫ノ現役ヲ去ルノ時ヨリ一ヶ年以前ニ嫁レタル者ニ限ル可シ

但前妻若シハ現時ノ妻ニ生レタル兒子アレハ嫁時年月ノ查駁ヲ要セス又戰死或ハ傷痕疾病ニ原因シテ死シタル軍人ノ寡婦ハ嫁時ノ年月ニ關セス負傷又ハ發病前ニ婚配セル者ニ限ル

第二十五條 寡婦其家ヲ去リ若シハ再婚スルハ扶助料ヲ受ケルノ權消絶ス

第二十六條 寡婦死去シ或ハ前條ノ事故アリテ扶助料ヲ受ケルノ權消絶スル時ハ當該軍人ノ孤兒(嫡子庶子養子)ヲ論セス戶籍ニ登記セシ者

但養子ハ死傷前ノ養子ニシテ男女ニ拘ハラヌ家名ヲ繼襲スル者ニ限ル)ニシテ其家名繼襲ノ者ニハ寡婦ト等シキ扶助料其他ノ者ニハ其額ノ三分ノ二ヲ給ス又當該軍人ノ死シタル時孤兒ノ母在ラサル者ハ直ニ其孤兒ニ給ス

(被賞門) (陸軍恩給令)

第二十七條 孤兒扶助料ハ數子アル時ハ其年長ナル者ニ給シ權利消絶ノ期ニ至レハ順次年少者ニ及フ

但二十歳未満ト雖モ官署ニ奉職シ俸給ヲ受ケ或ハ其戸籍ヲ去リ或ハ男女共ニ嫁娶シタル時ハ其權消絶ス

第二十八條 扶助料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレ、時ハ之ヲ止メ更ニ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第二十九條 軍人死歿シ扶助料ヲ受ク可キ寡婦孤兒ナク又ハ扶助料ヲ受クル寡婦再嫁若クハ復籍シテ兒孤ナシ尙ホ從來死者ニ依ツテ生活セル父母又ハ祖父母アリテ他ニ之ヲ奉養スルノ子孫ナキ時ハ其情狀ニ依リ寡婦ニ相當セル扶助料三分ノ二ヲ終身給スルコトアル可シ

其扶助料ハ父母祖父母共ニ存在スル時ハ先ツ之ヲ父ニ給シ其父死没若クハ權利消絶スルコトアレハ轉シテ之ヲ母ニ給ス以下其母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ順次此例ニ依リ之ヲ轉給ス可シ

但父及ヒ祖父ハ年齢五十歳以上其未滿ハ癡疾又ハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者又ハ母及ヒ祖母ハ夫ナキ者ニシテ且孰レモ軍人死歿ノ際年齢五十歳以上ニシテ其戸籍ニ在ル者ニ限ル

第三十條 扶助料ヲ仰カントスル時ハ本人主名ヲ以テ親族二名及ヒ後見人アレハ其後見人

若シ親族ナキ時ハ同郷ノ戸主二名連署シ其郡區長戸長ノ奥印セル願書ヲ以テ之ヲ地方廳ニ呈ス可シ

其夫若クハ父戰死其他公務ノ爲メ直ニ死亡セシ者ハ見證書若クハ公文ノ内其一ヲ證據ニ供シ其傷痕疾病ニ基ク者ハ該書類ノ外尙ホ軍醫若クハ地方醫師ノ診斷證書ヲ證據ニ供ス可シ

但地方醫師ノ診斷ヲ受ケタル時ハ尙ホ地方官吏ノ檢視證書ヲ添附シ死没ノ原因ヲ證明スヘシ

第四章 役服年算則

第三十一條 服役年ノ始期及ヒ終期ノ例ハ左ノ各項ニ依ル可シ

- 一 明治四年八月ヲ以テ始期トス故ニ其以前ヨリ勤仕ノ者ト雖モ總テ同月ヲ以テ始トス 但明治四年八月以前ヨリ勤仕シタル者ハ明治四年七月ノ現官等ニ對スル俸給ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一ケ年ニ當テ其年數ニ應スルノ金額ヲ以テ恩給支給ノ際別ニ一時賜金トシテ給與ス
- 二 下士以上ハ其初任當日ヨリ起算ス
- 三 徴兵ハ入營初日即チ毎年四月二十日ヨリ起算ス
- 四 壯兵其他諸種ノ方法ヲ以テ軍籍ニ入りタル者ハ其就役ノ當日ヨリ起算ス
- 五 上長官士官准士官ハ退職恩給ノ願書該長官ヨリ陸軍卿ニ呈スル進達書ノ日ヲ以テ

(養實門)

(陸軍恩給令)

六 下士卒ハ免官免役ノ日ヲ以テ終期トス

第三十二條 十七歳未満ハ恩給服役年ノ計算ニ算入セス
士官以上待命及ヒ非職中ノ月日ハ服役實期ニ算入ス
但非職中地方病院學校及ヒ其他ノ事業ニ從事シ其恩給ヲ受ケ非職俸ヲ給セサル時間ハ之ヲ除算ス

第三十三條 海軍軍人轉テ陸軍々人トナル者ハ海軍服役務ノ年月ヲ通算ス又文官轉レテ陸軍々人トナリタル者並ニ陸軍々人ノ現役ニ在ラスシテ文官ヲ兼任シ文官ノ俸給ヲ受クル者恩給ヲ受クルノ期ニ至ル迄ハ其文官奉仕中ノ年月ハ十六箇月ヲ以テ一年トシ之ヲ通算ス

第三十四條 豫備後備ニ在ル月日ハ服役實期ニ算セスト雖モ復習ノ外現役ニ徵集スルコトアル時ハ前後ノ現役ヲ通算ス

第三十五條 退職免役ノ後再ヒ現役ニ就ク者ハ前後ノ現役ヲ通算ス

第三十六條 逃亡ノ者其逃亡以前ノ現役ハ其歸營以後ノ現役ニ通算ス

第三十七條 處刑中ノ日數ハ現役年數中ヨリ除算ス

第三十八條 戰時虜獲ニ遭ヒ俘囚トナリタル月日ハ猶ホ平時現役ニ在ルト同シク之ヲ算ス

第五章 從軍年算則

第三十九條 從軍年ハ服役實期外ノ年月ト爲レ之ヲ其服役年數ニ加算スル者トス

但其服役實期十一年未満ニシテ退身スル者ニハ之ヲ加算セス

第四十條 從軍年加算ノ法ハ左ノ各項ニ依ル可シ
一 日本國外ノ戰地ニ於テ服役スル時ハ二箇年ヲ増加ス
二 出征軍ニ編入セラレ或ハ合圍若クハ臨戰地境內ニ於テ服役セシ時又戰時平時ヲ論セス日本國外ノ地ニ於テ鎮戍ノ軍隊ニ在リシ時及ヒ海戰ニ當リ其船中ニ在リシ時ハ一箇年ヲ増加ス

三 海戰ニ當リ海岸防禦ニ從事セシ時ハ半箇年ヲ増加ス

第四十一條 出征軍ノ定メニアラスシテ一時出兵ノ時ト雖モ出征軍ト視做ス可キ場合ニ於テハ陸軍卿上請シテ從軍年ヲ算入スルコトヲ決定ス

第四十二條 從軍年ヲ算スルノ法ハ十二箇月間數回ノ戰役ニ從フト雖モ重複シテ之ヲ算セス 但其一年以上ニ跨リ十二箇月ニ餘ル所ノ分數ハ前條ニ依リ之ヲ計算ス

第六章 恩給支給順序

第四十三條 恩給ノ願書ハ所管長官ヨリ陸軍卿ニ呈シ陸軍卿之ヲ太政官ニ上申ス
ヲ以テ檢閱陸軍部長ヲ經テノ九字ヲ削ル
扶助料ノ願書ハ居住地方廳ヨリ陸軍卿ニ呈シ陸軍卿之ヲ太政官ニ上申ス
十八年十二月第六十四號達ヲ以テ本項ヲ改ム

(從軍年) (陸軍總給令)

第四十四條 太政官ニ於テハ之ヲ審査シタル後恩給許可令及ヒ恩給登錄寫帖ヲ内務大藏陸軍三卿ニ下シ内務卿ヨリ管轄地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下シ依テ以テ年々金圓受領ノ證トナサシム

恩給登錄寫帖ヲ下付スルノ前ニ於テ陸軍卿ハ其恩給ヲ受ク可キ本人ニ計算書ヲ下シ以テ其算則ヲ示ス

第四十五條 退職及ヒ免除恩給并ニ扶助料下賜ノ始期ハ左ノ各項ニ依ル

- 一 准士官以上ハ計算書日附ノ翌日
- 二 下士卒ハ免官免役ノ翌日
- 三 寡婦孤兒扶助料ハ當該軍人死去ノ翌日

第四十六條 恩給及ヒ扶助料ハ一月四月七月十月ニ前三箇月分ノ金額ヲ大藏省ヨリ本人所在ノ地方廳ヲ經テ之ヲ下付ス

但其交付者ハ恩給登錄寫帖ヲ披閱ノ上戸長ノ證セル本人生存書及ヒ金額受領證書ト引替ニ其金額ヲ交付ス

恩給若シハ扶助料ヲ受クル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスルハ金額交付期月ノ三箇月前ニ其所在ノ地方廳ニ願出可シ若シ期日ヲ過シタル者ハ仍ホ元所在地ニ於テ交付ス

第四十七條 恩給若シハ扶助料ヲ受クル者權利消絶ニ屬スル時ハ地方廳其恩給登錄寫帖ヲ收メテ内務省ニ出シ内務省ハ之ヲ太政官ニ還付シ其旨ヲ大藏省陸軍省ニ報告ス

但扶助料移轉ス可キ者アル時ハ恩給登錄寫帖ヲ收メス更ニ扶助料請願ノ證トナサシム
第四十八條 恩給登錄寫帖ヲ受領セシ者盜難水火災等ノ爲メ之ヲ失亡スル時ハ速ニ其旨ヲ届出可シ此場合ニ於テハ内務卿ヨリ證明書ヲ下付ス

第七章 賑恤金

第四十九條 賑恤金ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス

- 一 下士卒職階或ハ戰地ニ於テ公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ服役ニ堪ヘス免官除隊スト雖モ第十九條末項ヨリ輕傷ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者ハ其官階ニ應スル負傷増加表第五項ノ一箇年分ヨリ少カラス十箇年分ヨリ多カサル金額ヲ給ス
- 二 下士卒平時公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ前項ト等シキ者ハ其官階ニ應スル負傷増加表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラス十箇年分ヨリ多カラスナル金額ヲ給ス
- 三 下士卒服役實期滿五年以上十一年未滿ノ者公務ノ故ニアラスシテ傷痍疾病ヲ受ケ全ク服役ニ堪ヘス其營業ヲ妨クルニ至ル者及ヒ其五年未滿ト雖モ一肢以上ノ切斷ヲ受ケ若シハ兩眼ヲ盲スル者ハ其官階ニ應スル負傷増加表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラスナル金額ヲ給ス
- 四 扶助料ヲ受ク可キ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ從來死者ニ依リ生活セル二十歳未滿又ハ廿歳以上ト雖モ癱疾ノ兄弟姉妹アリテ之ヲ教育スルノ親族ナキ者ハ其寡婦ニ相當セル扶助料一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラスナル金額ヲ給ス

(要覽門)

(陸軍恩給令) (全恩給金額表)

第五十條 前條ノ賑恤金ハ本人ノ請願又ハ所管長官ノ申請ニ依リ陸軍卿之ヲ詮議シ太政官特別ノ裁可ヲ以テ之ヲ下賜ス其金額ハ大藏省ヨリ地方廳ヲ經テ之ヲ下付ス

第八章 給助金

第五十一條 給助金ハ下士以上現役中死歿シ又ハ五年以上勤績キノ後罷役或ハ免官トナリ恩給ヲ賜ハラサル者ニ之ヲ給ス其給額ハ已號表面ニ依ル

但懲戒ノ爲メ免官或ハ刑名宣告ニ至ラサルモ不正ノ所業確認ノ者ニハ之ヲ給セズ(十年四月第三十七號達ヲ以テ(恩給)ノ下(若クハ扶助料)ノ六字ヲ削ル)

陸軍恩給金額表

官等	甲號 退職恩給表									
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
十一年	千五百四十	千二百四十	千五百四十	千七百五十	千九百六十	千四百五十	千三百五十	千二百五十	千一百五十	千八十
十二年	千五百五十	千二百五十	千五百五十	千七百六十	千九百七十	千四百六十	千三百六十	千二百六十	千一百六十	千九十
十三年	千五百六十	千二百六十	千五百六十	千七百七十	千九百八十	千四百七十	千三百七十	千二百七十	千一百七十	千九十五
十四年	千五百七十	千二百七十	千五百七十	千七百八十	千九百九十	千四百八十	千三百八十	千二百八十	千一百八十	千九十五
十五年	千五百八十	千二百八十	千五百八十	千七百九十	千一百	千四百九十	千三百九十	千二百九十	千一百九十	千九十五
十六年	千五百九十	千二百九十	千五百九十	千八百	千一百一十	千五百	千四百	千三百	千二百	千九十五
十七年	千六百	千三百	千六百	千八百一十	千一百二十	千五百一十	千四百	千三百	千二百	千九十五
十八年	千六百一十	千三百一十	千六百一十	千八百二十	千一百三十	千五百二十	千四百一十	千三百一十	千二百一十	千九十五

十九年	千七百	千三百六十	千七百	千九百一十	千一百四十	千五百四十	千四百	千三百	千二百	千九十五
二十年	千七百一十	千三百七十	千七百一十	千九百二十	千一百五十	千五百五十	千四百一十	千三百一十	千二百一十	千九十五
二十一年	千七百二十	千三百八十	千七百二十	千九百三十	千一百六十	千五百六十	千四百二十	千三百二十	千二百二十	千九十五
二十二年	千七百三十	千三百九十	千七百三十	千九百四十	千一百七十	千五百七十	千四百三十	千三百三十	千二百三十	千九十五
二十三年	千七百四十	千四百	千七百四十	千九百五十	千一百八十	千五百八十	千四百四十	千三百四十	千二百四十	千九十五
二十四年	千七百五十	千四百一十	千七百五十	千九百六十	千一百九十	千五百九十	千四百五十	千三百五十	千二百五十	千九十五
二十五年	千七百六十	千四百二十	千七百六十	千九百七十	千二百	千六百	千四百六十	千三百六十	千二百六十	千九十五
二十六年	千七百七十	千四百三十	千七百七十	千九百八十	千二百一十	千六百一十	千四百七十	千三百七十	千二百七十	千九十五
二十七年	千七百八十	千四百四十	千七百八十	千九百九十	千二百二十	千六百二十	千四百八十	千三百八十	千二百八十	千九十五
二十八年	千七百九十	千四百五十	千七百九十	千	千二百三十	千六百三十	千四百九十	千三百九十	千二百九十	千九十五
二十九年	千八百	千四百六十	千八百	千	千二百四十	千六百四十	千五百	千四百	千三百	千九十五
三十年	千八百一十	千四百七十	千八百一十	千	千二百五十	千六百五十	千五百一十	千四百一十	千三百一十	千九十五
三十一年	千八百二十	千四百八十	千八百二十	千	千二百六十	千六百六十	千五百二十	千四百二十	千三百二十	千九十五
三十二年	千八百三十	千四百九十	千八百三十	千	千二百七十	千六百七十	千五百三十	千四百三十	千三百三十	千九十五
三十三年	千八百四十	千五百	千八百四十	千	千二百八十	千六百八十	千五百四十	千四百四十	千三百四十	千九十五
三十四年	千八百五十	千五百一十	千八百五十	千	千二百九十	千六百九十	千五百五十	千四百五十	千三百五十	千九十五
三十五年	千八百六十	千五百二十	千八百六十	千	千三百	千七百	千五百六十	千四百六十	千三百六十	千九十五
三十六年	千八百七十	千五百三十	千八百七十	千	千三百一十	千七百一十	千五百七十	千四百七十	千三百七十	千九十五
三十七年	千八百八十	千五百四十	千八百八十	千	千三百二十	千七百二十	千五百八十	千四百八十	千三百八十	千九十五
三十八年	千八百九十	千五百五十	千八百九十	千	千三百三十	千七百三十	千五百九十	千四百九十	千三百九十	千九十五
三十九年	千九百	千五百六十	千九百	千	千三百四十	千七百四十	千六百	千五百	千四百	千九十五
四十年	千九百一十	千五百七十	千九百一十	千	千三百五十	千七百五十	千六百一十	千五百一十	千四百一十	千九十五

(陸軍恩給金) (全恩給金額表)

乙號		免除恩給表(十七年第三十七號公達ヲ以テ(奉)ノ上ニ(階)ノ一字ヲ加フ)			
年數	官等	十	十一	十二	十三
十一年	一	六	五	四	三
十二年	一	六	五	四	三
十三年	一	六	五	四	三
十四年	一	六	五	四	三
十五年	一	六	五	四	三
十六年	一	六	五	四	三
十七年	一	六	五	四	三
十八年	一	六	五	四	三
十九年	一	六	五	四	三
二十年	一	六	五	四	三
二十一年	二	七	六	五	四
二十二年	二	七	六	五	四
二十三年	二	七	六	五	四
二十四年	二	七	六	五	四
二十五年	二	七	六	五	四
二十六年	二	七	六	五	四
二十七年	二	七	六	五	四
二十八年	二	七	六	五	四
二十九年	二	七	六	五	四
三十年	二	七	六	五	四
三十一年	三	九	八	七	六
三十二年	三	九	八	七	六
三十三年	三	九	八	七	六
三十四年	三	九	八	七	六
三十五年	三	九	八	七	六
三十六年	四	百	九	八	七
三十七年	四	百	九	八	七
三十八年	四	百	九	八	七
三十九年	四	百	九	八	七
四十年	四	百	九	八	七

丙號	負傷増加恩給表
三十五年	五
三十六年	五
三十七年	五
三十八年	五
三十九年	五
四十年	五
百二十	百八
百八十	九十六
二百	七十二

丁號		戊號	
戰闘及ヒ公務ニ因リ死亡者ノ寡婦(孤兒)扶助料表(十七年第三十七號公達ヲ以テ(死)ノ下(者)ノ一字ヲ加フ)		寡婦孤兒扶助料表	
一	八	一	五
二	七	二	四
三	六	三	三
四	五	四	二
五	四	五	一
六	三	六	〇
七	二	七	九
八	一	八	八
九	〇	九	七
十	九	十	六
十一	八	十一	五
十二	七	十二	四
十三	六	十三	三
十四	五	十四	二
十五	四	十五	一
十六	三	十六	〇
十七	二	十七	九
十八	一	十八	八
十九	〇	十九	七
二十	九	二十	六
二十一	八	二十一	五
二十二	七	二十二	四
二十三	六	二十三	三
二十四	五	二十四	二
二十五	四	二十五	一
二十六	三	二十六	〇
二十七	二	二十七	九
二十八	一	二十八	八
二十九	〇	二十九	七
三十	九	三十	六
三十一	八	三十一	五
三十二	七	三十二	四
三十三	六	三十三	三
三十四	五	三十四	二
三十五	四	三十五	一
三十六	三	三十六	〇
三十七	二	三十七	九
三十八	一	三十八	八
三十九	〇	三十九	七
四十	九	四十	六
四十一	八	四十一	五
四十二	七	四十二	四
四十三	六	四十三	三
四十四	五	四十四	二
四十五	四	四十五	一
四十六	三	四十六	〇
四十七	二	四十七	九
四十八	一	四十八	八
四十九	〇	四十九	七
五十	九	五十	六

(後賞門) (陸軍恩給令)(全恩給金額表)

己號 給助金表

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三
千五百	四百	三百	二百	一百	五十	三十	二十	十	五	三	二	一

○海軍恩給令(十六年九月十一日第三十號官省院廳府縣へ達)

第一章 總則

第一條 海軍恩給ハ海軍諸種ノ勤勞ニ依リテ之ヲ給スル者ナリ其種類別テ左ノ五項トス

- 一 退職恩給
- 二 退役恩給
- 三 寡婦(孤兒)扶助料
- 四 賑恤金
- 五 給助金

第二條 退職恩給退役恩給寡婦扶助料ハ本人ノ終身孤兒扶助料ハ男女共ニ二十歳ニ至ル迄之ヲ給シ賑恤金給助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第三條 軍人ハ定限ノ年齢ニ達スレハ退職退役シテ恩給ヲ受クルヲ例トス其定限左ノ如シ

- 軍醫大監 主計大監(十八年十二月第六十四號達ヲ以テ) 六十
- 機關大監 機關中監 軍醫中監 軍醫少監 主計中監 主計少監 六十

- 大佐 中佐 機關少監 大軍醫 中軍醫 大主計 中主計 兵曹上長 五十五
- 木工上長 機關工上長 兵曹長 木工長 機關工長 樂長
- 少佐 大機關士 中機關士 少軍醫 少主計 下士 五十
- 大尉 中尉 少機關士 卒 四十五
- 少尉 軍醫補 主計補 四十
- 少尉補 機關十補 三十

第四條 軍人定限ノ年齢ニ達スト雖モ前途尙ホ任用ニ堪ヘ若シハ材能特拔又ハ老練者ヲ要スル職務ニ在ル者ハ仍ホ留任ヲ命スルコトアル可シ

但強テ現役ヲ辭スル者ハ此限コアラズ

第五條 軍人未ダ定限ノ年齢ニ達セスト雖モ服役實期十一年以上ノ者ニシテ服役ニ堪ヘザルヲ認メタル時ハ海軍卿旨ヲ諭シテ現役ヲ退キ給恩ヲ願ハシムルコトアル可シ

第六條 恩給ハ公權剝奪ノ時ハ全ク之ヲ止メ左ノ各項ニ該ル時ト其時間ノミ之ヲ停ム

- 一 公權停止ノ時
- 二 事故アリテ日本人タルノ分限ヲ失フ時
- 三 政府ノ許可ナクシテ日本國外ニ出タル時
- 第七條 恩給ヲ受ケタル者再ヒ現役ニ就キ若シハ文官ニ任シ俸給ヲ受クル時ハ其間該恩給ヲ停ム但其負傷增加恩給ハ仍ホ之ヲ給ス

(返賞金) (海軍恩給令)

第八條 寡婦若シハ孤兒扶助料ハ當該軍人死歿ノ日（戰地等ニテ死歿ノ者ハ海軍官憲ヨリ報告ノ日）ヨリ一箇年間願出サル時ハ其權利消絶ス

恩給及ヒ扶助料ハ一箇年以上其金額ノ受領チ怠リタル時ハ其怠リタル間ノ金額ハ之ヲ給セス

第九條 恩給及ヒ扶助料ノ金額計算ニ就キ違算アリト思惟スルトキハ初メテ金圓ヲ受領セシ日ヨリ三箇月以内ニ管轄地方廳ヲ經テ海軍卿ニ上申ス可シ若シ此期限ヲ過クル時ハ之ヲ受理セス

第二章 恩給及ヒ増加

第十條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ傷痍ヲ受ケ若シハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若シハ海軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス（又ハ）ノ下ハ字ヲ加フ

ハ之ヲ失フニ等シト認ムル者又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ航海中若シハ戰時ニ於テ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顯ミルコト能ハスシテ非常ノ勞働及ヒ困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ健康ヲ妨害シ至ク職務ニ堪ヘサルニ至リ其證據明亮ニシテ退職スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖モ又之ヲ給ス（同上）五字ヲ加フ

其退職恩給ノ額ハ十一年ヨリ三十九年ニ至リ年々差等アルコト甲號表面ノ如シ

但十一年未滿ノ者ニ給ス可キ恩給ハ其十一年ニ等シキ額ニ依ル

第十一條 退職恩給ハ下士退役恩給ハ卒服役實期十一年以上ニシテ定期ノ年齢ニ對シ或ハ服役滿期トナリ或ハ傷痍若シハ疾病ノ爲メ退職若シハ退役スル者ニ之ヲ給ス（同上）或ハ前條第二項ニ掲クルカ如キ傷痍疾病ヲ受ケ永久健康ヲ妨害シ至ク兵役ニ堪ヘス其證據明亮ニシテ退職若シハ退役スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖モ亦之ヲ給ス

其退職退役恩給ノ額ハ十一年ヨリ三十九年ニ至リ年々差等アルコト乙號表面ノ如シ

但十一年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十一年ニ等シキ額ニ依ル

第十二條 軍人傷痍ヲ受クルト雖モ尙ホ奉職セシメ後日退職若クハ退役スル者ハ現官等ニ依リ恩給ヲ給ス

但負傷増加恩給ハ負傷當時ノ官等ニ依リ之ヲ給ス

第十三條 下士以上ノ恩給願書ハ所管長官ヲ經テ海軍卿ヘ卒ハ所管長官ヘ其履歷書ヲ副呈ス可シ

第十四條 傷痍疾病ニ起因シ恩給ヲ願出ル者ハ其原因症候等詳細之ヲ開陳ス可シ

第十五條 傷痍疾病ヲ受ケシ事故及ヒ其原因ハ見附ケ書又ハ公文若クハ査問會議口供書ノ寫ヲ以テ之ヲ證明ス可シ

第十六條 傷痍疾病不治ノ狀ハ海軍病院長並ニ主任醫官（地方病院ニ於テ治療ヲ受ケシ者ハ其院長並ニ主任醫師）ノ診斷證書ヲ以テ之ヲ證ス可シ

（海軍恩給令）

其診斷證書ハ傷疾疾病ノ原因症候及ヒ其治療方法ヲ述ヘ以テ不治ノ狀ヲ詳悉ス可シ

病院ニ就キ治療ヲ受ケサル者ト雖モ海軍病院長若クハ地方病院長ノ診斷證書ヲ要ス

第十七條 傷疾疾病不治ノ狀ハ軍醫若クハ地方醫師ノ證書ニ依ルト雖モ其軍務ニ堪ヘサルヤ否ヤヲ當該ノ所管ニ於テ檢査判定シ之ヲ海軍卿ニ呈スヘシ海軍卿ハ臨時調查委員ヲ選定シ更ニ覆覈セシメ以テ之ヲ決定ス

第十八條 下士以上恩給ヲ願フ時ハ所管長官其海軍卿ニ呈スル進達書ノ日ニ於テ直ニ休暇ヲ命シ卒恩給ヲ願フ時亦所管長官同上ノ日ニ於テ直ニ免役ス可シ

第十九條 凡ソ恩給ハ軍人ノ現官階ニ依リ之ヲ給ス

但其官階ニ進ミ未ダ滿十八箇月ニ至ラズシテ退職若クハ退役ヲ願フ時ハ前官ニ準シテ之ヲ給ス其戰闘又ハ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ或ハ戰地若クハ航海中ニ於テ受ケタル疾病ノ爲メ恩給ヲ給スルハ此限ニアラス

第二十條 戰闘及ヒ戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ左ノ各項ニ該ル者ハ恩給ノ外更ニ丙號表面ノ金額ヲ加給ス

但公務ノ爲メ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナル者モ亦本條ニ準ス

- 一 両眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者
- 二 前項ニ等シキ傷疾ヲ受ケン者

三 一肢ヲ亡シ或ハ全ク二肢ノ用ヲ失フニ至ル者

四 前項ニ等シキ傷疾ヲ受ケン者

五 全ク一肢ノ用ヲ失フ者

六 前項ニ等シキ傷疾ヲ受ケン者

第二十一條 傷疾疾病ニ依リテ恩給ヲ受ケ引續キ重症ニ趨キ或ハ現役ヲ離レシ後重症ニ趨キタル者左ノ期限内ニ願出ル時ハ檢査ノ上事實相違ナキニ於テハ更ニ恩給ヲ給シ或ハ負傷増加恩給ヲ給ス可シ

但更ニ恩給ヲ願フハ現役ヲ離ル、ノ際其傷疾ノ爲メ服役シ難キ確定ヲ得タル者ニ限ル

- 一 一肢ノ用ヲ失ヒ或ハ一肢ノ用ヲ失フニ等シキ者ハ現役ヲ離レシ日ヨリ二箇年
- 二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ或ハ兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者ハ現役ヲ離レシ日ヨリ三箇年

第三章 寡婦(孤兒)扶助料

第二十二條 寡婦扶助料ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス其給額ハ當該軍人ノ官階ト死没ノ緣故トニ依リテ差アリ

- 一 戰闘或ハ公務ノ爲メ死歿シ或ハ之ニ依リテ受ケタル傷疾ニ原因シテ死歿シ又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ航海中若クハ戰地ニ於テ非常ノ勞動及ヒ困苦ノ勤務ニ服シ爲メニ健康ヲ害セラレ發病終ニ死歿シ又ハ平時當務ニ依リ傳染病者ニ接シ該

(寡婦) (海軍恩給令)

病毒ニ感染死致シタル軍人ノ寡婦

二 退職若クハ退役恩給ヲ受ケタル後或ハ之ヲ受ク可キ權ヲ有シテ死致シタル軍人ノ寡婦

其扶助料第一項ニ該ル者ハ丁號表面ニ依リ第二項ニ該ル者ハ戊號表面ニ依ル

第二十三條 戰闘若クハ公務ノ爲メ傷痕ヲ受クルト雖モ其傷痕ニ原因ヒサル他病ニテ死致シタル軍人ノ寡婦ハ扶助料ヲ給セス

第二十四條 戰闘中踪跡ヲ失フ者其死亡公務ニ原因セシニ相違ナキヲ確認スル時ハ第二十二條第一項ヲ適用ス

第二十五條 寡婦ハ海軍簿籍ニ登記セシ者ニシテ其夫ノ現役ヲ去ルノ時ヨリ一箇年以前ニ嫁シタル者ニ限ル可シ

但前妻若クハ現時ノ妻ニ生レタル兒子アレハ嫁時年月ノ查覈ヲ要セス又戰死或ハ傷痕疾病ニ原因シテ死シタル軍人ノ寡婦ハ嫁時ノ年月ニ關セス負傷又ハ發病前ニ婚配セシ者ニ限ル

第二十六條 寡婦其家ヲ去リ若クハ再婚スル時ハ扶助料ヲ受クルノ權消絶ス

第二十七條 寡婦死去シ或ハ前條ノ事故アリテ扶助料ヲ受クルノ權消絶スル時ハ當該軍人ノ孤兒孀子庶子養子ヲ論セス戸籍ニ登記セシ者(但養子ハ死傷前ノ養子ニシテ男女ニ拘ハラズ家名ヲ繼襲スル者ニ限ル)ニシテ其家名繼襲ノ者ハ寡婦ト等シキ扶助料其他ノ者ニ

ハ其額三分ノ二ヲ給ス又當該軍人ノ死シタル時孤兒ノ母在ラサル者ハ直ニ其孤兒ニ給ス
第二十八條 孤兒扶助料ハ數子アル時ハ其年長ナル者ニ給シ權利消絶ノ期ニ至レハ順次年少ナル者ニ及フ

但二十歳未滿ト雖モ官署ニ奉職シ俸給ヲ受ケ或ハ其戸籍ヲ去リ或ハ男女共ニ嫁娶シタル時ハ其權消絶ス

第二十九條 扶助料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラル、時ハ之ヲ止メ更ニ其轉給ヲ受ク可キ者ニ之ヲ給ス

第三十條 軍人死没シ扶助料ヲ受ク可キ寡婦孤兒ナク又ハ扶助料ヲ受クル寡婦再嫁若クハ復籍シテ孤兒ナク尙ホ從來死者ニ依リテ生活セル父母又ハ祖父母アリテ他ニ之ヲ奉養スルノ子孫ナキ時ハ其情狀ニ依リ終身寡婦ニ相當セル扶助料三分ノ二ヲ給スルコトアル可シ

其扶助料ハ父母祖父母共ニ存在スル時ハ先ツ之ヲ父ニ給シ其父死致若クハ權利消絶スルコトアレハ轉シテ之ヲ母ニ給ス以下其母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ順次此例ニ依リ之ヲ轉給スヘシ

但父及ヒ祖父ハ年齢五十歳以上其未滿ハ廢疾及ヒ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者又母及ヒ祖母ハ夫ナキ者ニシテ其孰レモ軍人死致ノ際年齢五十歳以上ニシテ其戸籍ニ在ル者ニ限ル

(遺言門) (海軍恩給令)

第三十一條 扶助料ヲ仰カントスル時ハ本人主名ヲ以テ親屬二名及ヒ後見人アレハ其後見人若シ親屬ナキ時ハ同郷ノ戸主二名連署シ其郡區長戸長ノ奥印セシ願書ヲ以テ地方廳へ進達ス可シ

但恩給登錄寫帖アレハ之ヲ添附スヘシ

其夫若シハ父戰死其他公務ノ爲メ共ニ死亡セシ時ハ死亡報告若シハ死亡證書若シハ他ノ公文ノ内其一ヲ證據ニ供シ其傷痕疾病ニ起因スル者ハ該書類ノ外尙ホ軍醫若シハ地方醫師ノ診斷書ヲ證據ニ供ス可シ

但地方醫師ノ診斷ヲ受ケタル時ハ尙ホ地方官吏ノ檢視證書ヲ添付シ死歿ノ原因ヲ詳細證明ス可シ海軍卿ハ之ヲ調査委員ニ下シ其事實ヲ調査セシメ以テ決定ス

第四章 服役年算則

第三十二條 服役年ノ始期及終期ノ例ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 一 准士官以上ニテ三上長三長及樂長ヲ除ク外ハ初任ノ日三上長三長及ヒ樂長以下ハ四等卒及ヒ樂生タルノ日ヲ以テ服役年ノ始期トス十七年第七十六號達ヲ以テ(四上長四長)ヲ(三上長三長)ニ改ム
- 但准士官以上ハ明治四年八月以前下士以下ハ明治二年五月以前准卒ハ海軍定員ニ准セサル以前ノ服役年ニ算入セス然レモ其以前ヨリ勤仕シタル者ハ其算入期ノ前月ニ於ケル現官等ニ對スル體給ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スルノ金額ヲ以テ恩給支給ノ際別ニ一時賜金トシテ給與ス

一 下士以上ハ退職恩給ノ願書ヲ所管長官ヨリ海軍卿ニ呈スル進達書ノ日卒ハ退役ノ日ヲ以テ終期トス

第三十三條 十七歳未滿ハ恩給服役年ノ計算ニ算入セス
士官以上待命及ヒ非職中ノ月日ハ服役實期ニ算入ス但非職中地方病院學校及ヒ其他ノ事業ニ從事シ其給料ヲ受ケ非職俸ヲ給セサル時間ハ之ヲ除算ス

第三十四條 陸軍々人轉シテ海軍々人トナル者ハ陸軍服役ノ年數ヲ通算ス又文官轉シテ海軍々人トナリタル者並ニ海軍々人ノ現役ニ在ラスシテ文官ヲ兼任シ文官ノ俸給ヲ受クル者恩給ヲ受クルノ期ニ至ル迄ハ其文官奉仕中ノ年月ハ十六箇月ヲ以テ一年トシ之ヲ通算ス

第三十五條 退職若シハ退役ノ後再々現役ニ就ク者ハ前後ノ現役ヲ通算ス

第三十六條 逃亡ノ者其逃亡以前ノ現役ハ其復歸以後ノ現役ニ通算ス

第三十七條 處刑中ノ日數ハ現役年數中ヨリ除算ス

第三十八條 戰時虜獲ニ遭ヒ俘囚トナリタル月日猶ホ平時現役ニ在ルト同シ之ヲ算ス

○第五章 從軍年算則

第三十九條 從軍年ハ服役實期外ノ年月ト爲シ之ヲ其服役年數ニ加算スル者トス但其服役實期十一年未滿ニシテ退身スル者ニハ之ヲ加算セス

第四十條 從軍年加算ノ法ハ左ノ各項ニ依ル可シ

(百五十四) (海軍恩給令)

一 日本國外ノ戰役ニ從事中ハ三箇年ヲ増加ス
 二 出征艦隊ニ編入中及ヒ合圍若シハ臨戰地境內ニ服役中ハ一箇年ヲ増加ス
 三 戰時平時ヲ論セス外國航海中ハ半箇年ヲ増加ス

第四十一條 出征軍ノ定メニアラスシテ一時出兵ノ時ト雖モ出征軍ト視做ス可キ場合ニ於テハ海軍卿上請シテ從軍年ニ算入スルコトヲ決定ス

第四十二條 從軍年ヲ算スルノ法ハ十二箇月間數回ノ戰役ニ從フト雖モ重複シテ之ヲ算セズ 但其一年以上ニ跨リ十二箇月ニ餘ル所ノ分數ハ前條ニ依リ之ヲ計算ス

第六章 恩給支給順序

第四十三條 恩給ノ願書ハ所管長官ヨリ海軍卿ニ呈シ海軍卿之ヲ太政官ニ上申ス

扶助料ノ願書ハ居住ノ地方廳ヨリ海軍卿ニ呈シ海軍卿之ヲ太政官ニ上申ス第十八年十二月ヲ以テ本項ヲ改正ス

第四十四條 太政官ニ於テハ之ヲ審査シタル後恩給許可令及ヒ恩給登錄寫帖ヲ內務大藏海軍ノ三卿ニ下シ內務卿ヨリ管轄地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下シ依テ以テ年々金圓受領ノ證ト爲サシム

恩給登錄寫帖ヲ下附スルノ前ニ於テ海軍卿ハ其恩給ヲ受ク可キ本人ニ計算書ヲ下シ以テ其算則ヲ示ス

第四十五條 退職及ヒ退役恩給並ニ扶助料下賜ノ始期ハ左ノ各項ニ依ル可シ

一 下士以上ハ計算日付ノ翌日

二 卒ハ免役ノ翌日

三 寡婦若シハ孤兒扶助料ハ當該軍人死歿ノ翌日

第四十六條 恩給扶助料ハ一月四月七月十月ニ於テ前三箇月分ノ金額ヲ大藏省ヨリ本人所在ノ地方廳ヲ經テ下付ス

但其交付者ハ恩給登錄寫帖ヲ披閱ノ上戸長ノ證セル本人生存書及ヒ金額受領證書ト引替ニ其金額ヲ交付ス可シ

恩給若シハ扶助料ヲ受ケル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスル時ハ金額交付期月ノ三箇月前ニ其所在ノ地方廳ニ願出可シ若シ其期ヲ過ケル者ハ仍ホ元所在地ニ於テ之ヲ交付ス

第四十七條 恩給若シハ扶助料ヲ受ケル者權利消絶ニ屬スル時ハ地方廳其恩給登錄寫帖ヲ收メテ內務省ニ出シ內務省ハ之ヲ太政官ニ還付シ其旨ヲ大藏省海軍省ニ報告ス

但扶助料移轉ス可キ者アル時ハ恩給登錄寫帖ヲ收メス更ニ扶助料請願ノ証ト爲サシム

第四十八條 恩給登錄寫帖ヲ受領セシ者盜難水火災等ノ爲メ之ヲ亡失スル時ハ速ニ其旨ヲ届出可シ此場合ニ於テハ內務卿ヨリ証明書ヲ下付ス

第七章 賑恤金

第四十九條 賑恤金ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス

一 下士卒戰闘或ハ戰地ニ於テ公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ服役ニ堪ヘス免官免役スト

(發賣門) (海軍恩給令)

雖モ第二十條末項ヨリ輕傷ニシテ退職非役恩給ヲ受ケサル者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第五項ノ一箇年分ヨリ少カラズ箇十年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス(免役上ニ改ム)

二 下士卒平時公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ前項ト等シキ者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラズ十箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

三 下士卒服役實期滿五年以上十一年未滿ノ者公務ノ爲メ非シテ傷痍疾病ヲ受ケ全ク服役ニ堪ヘス其營業ヲ妨グルニ至ル者及ヒ其五年未滿ト雖モ一肢以上ノ切斷ヲ受ケ若クハ兩眼ヲ盲スル者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラズ五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

四 軍人死歿シ扶助料ヲ受シ可キ其寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナシテ從來死者ニ依リ生活セル二十歳未滿又ハ二十歳以上ト雖モ廢疾ノ兄弟姉妹アリテ之ヲ救育スルノ親族ナキ者ハ其寡婦ニ相當セル扶助料一箇年分ヨリ少カラズ五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

第五十條 前條ノ賑恤金ハ本人ノ請願又ハ所管長官ノ申請ニ依リ海軍卿之ヲ詮議シ太政官特別ノ裁可ヲ以テ之ヲ下賜ス其金額ハ大藏省ヨリ地方廳ヲ經テ下付ス

第八章 給助金 第五十一條 給助金ハ下士以上現役中死歿シ又ハ五年以上勤績キノ後罷役或ハ免官トナリ

恩給ヲ賜ハラサル者ニ之ヲ給ス其給額ハ已號表而ニ依ル
但懲戒ノ爲メ免官或ハ刑名宣告ニ至ラサルモ不正ノ所業確認ノ者ニハ之ヲ給セス
(三十八號達ヲ以テ(恩給)ノ下
(若クハ扶助料)ノ六字ヲ削ル
海軍恩給金額表

官等	甲號	退職恩給表
一等	一	一
二等	二	二
三等	三	三
四等	四	四
五等	五	五
六等	六	六
七等	七	七
八等	八	八
九等	九	九
第十等	十	十
十一	十一	十一
十二	十二	十二
十三	十三	十三
十四	十四	十四
十五	十五	十五
十六	十六	十六
十七	十七	十七
十八	十八	十八
十九	十九	十九
二十	二十	二十
二十一	二十一	二十一
二十二	二十二	二十二
二十三	二十三	二十三
二十四	二十四	二十四

(後賞門) (海軍恩給金)

年	級	退職及退役恩給表
二十五年	十一等	千八百五十四圓 千四百八十圓 千二百九十五圓 九百三十五圓 七百四十四圓 五百五十五圓 三百七十四圓 二百二十二圓 百八十五圓
二十六年	十二等	千八百七十五圓 千五百圓 千三百三十二圓 九百五十七圓 七百六十四圓 五百七十七圓 三百八十八圓 二百三十一圓 百九十四圓
二十七年	十三等	千九百圓 千五百四十圓 千三百三十四圓 九百五十七圓 七百七十四圓 五百九十二圓 三百九十五圓 二百三十七圓 百九十七圓
二十八年	十四等	千九百二十五圓 千五百六十圓 千三百六十五圓 九百七十五圓 七百九十四圓 六百零五圓 四百零五圓 二百五十四圓 百九十九圓
二十九年	十五等	千九百七十五圓 千五百八十圓 千三百八十五圓 九百九十四圓 八百一十四圓 六百二十五圓 四百二十五圓 二百七十四圓 百九十九圓
三十年	十六等	千九百七十五圓 千五百八十圓 千三百八十五圓 九百九十四圓 八百一十四圓 六百二十五圓 四百二十五圓 二百七十四圓 百九十九圓
三十一年	十七等	千九百七十五圓 千五百八十圓 千三百八十五圓 九百九十四圓 八百一十四圓 六百二十五圓 四百二十五圓 二百七十四圓 百九十九圓
三十二年	十八等	千九百七十五圓 千五百八十圓 千三百八十五圓 九百九十四圓 八百一十四圓 六百二十五圓 四百二十五圓 二百七十四圓 百九十九圓
三十三年	十九等	千九百七十五圓 千五百八十圓 千三百八十五圓 九百九十四圓 八百一十四圓 六百二十五圓 四百二十五圓 二百七十四圓 百九十九圓
三十四年	二十等	千九百七十五圓 千五百八十圓 千三百八十五圓 九百九十四圓 八百一十四圓 六百二十五圓 四百二十五圓 二百七十四圓 百九十九圓
三十五年	二十一等	千九百七十五圓 千五百八十圓 千三百八十五圓 九百九十四圓 八百一十四圓 六百二十五圓 四百二十五圓 二百七十四圓 百九十九圓
三十六年	二十二等	千九百七十五圓 千五百八十圓 千三百八十五圓 九百九十四圓 八百一十四圓 六百二十五圓 四百二十五圓 二百七十四圓 百九十九圓
三十七年	二十三等	千九百七十五圓 千五百八十圓 千三百八十五圓 九百九十四圓 八百一十四圓 六百二十五圓 四百二十五圓 二百七十四圓 百九十九圓
三十八年	二十四等	千九百七十五圓 千五百八十圓 千三百八十五圓 九百九十四圓 八百一十四圓 六百二十五圓 四百二十五圓 二百七十四圓 百九十九圓
三十九年	二十五等	千九百七十五圓 千五百八十圓 千三百八十五圓 九百九十四圓 八百一十四圓 六百二十五圓 四百二十五圓 二百七十四圓 百九十九圓
四十年	二十六等	千九百七十五圓 千五百八十圓 千三百八十五圓 九百九十四圓 八百一十四圓 六百二十五圓 四百二十五圓 二百七十四圓 百九十九圓

乙號

退職及退役恩給表

(十八年一月第五號追加ス以テ)

退任ノ上ニ三三三ヲ追加ス

年	級	恩給額
十一年	十一等	六十圓
十二年	十二等	五十四圓
十三年	十三等	四十八圓
十四年	十四等	四十四圓
十五年	十五等	四十圓
十六年	十六等	三十六圓
十七年	十七等	三十二圓
十八年	十八等	二十八圓

年	級	恩給額
十七年	二級	七十五圓 六十七圓 六十圓 五十五圓 五十圓 四十五圓 四十圓 三十五圓
十八年	三級	九十圓 八十一圓 七十二圓 六十六圓 六十圓 五十四圓 四十八圓 四十二圓
十九年	四級	百五圓 九十四圓 八十四圓 七十七圓 七十圓 六十三圓 五十六圓 四十九圓
二十年	五級	百二十圓 百八圓 九十六圓 八十八圓 八十圓 七十二圓 六十四圓 五十六圓

丙號

負傷増加恩給表

年	級	恩給額
二十五年	十一等	千八百五十四圓
二十六年	十二等	千八百七十五圓
二十七年	十三等	千九百圓
二十八年	十四等	千九百二十五圓
二十九年	十五等	千九百七十五圓
三十年	十六等	千九百七十五圓
三十一年	十七等	千九百七十五圓
三十二年	十八等	千九百七十五圓
三十三年	十九等	千九百七十五圓
三十四年	二十等	千九百七十五圓
三十五年	二十一等	千九百七十五圓
三十六年	二十二等	千九百七十五圓
三十七年	二十三等	千九百七十五圓
三十八年	二十四等	千九百七十五圓
三十九年	二十五等	千九百七十五圓
四十年	二十六等	千九百七十五圓

丁號		戊號		己號	
一等	二等	一等	二等	一等	二等
千五百四十二	千二百五十一	千五百四十二	千二百五十一	千五百四十二	千二百五十一
...

戰鬪及公務ニ因リ死亡者ノ寡婦(孤兒)扶助料表 (十七年第三十七號公達ヲ以テ)

寡婦(孤兒)扶助料表

給助金表

○賞與取調書式 (十八年十二月十八日內務省甲)

明治十七年一內務省農商務省兩省乙第壹號達賞與取調書式左ノ通改正候條此旨相達候事

明治何年自至十二月賞與施行表

賞品	褒章飾版	金杯		銀杯		木杯		金圓賞狀		褒詞
		三組一個	三組一個	三組一個	三組一個	甲	乙	甲	乙	
人命救助										
德行ノ者										
公益ヲ起ス者										
金穀寄附										
合簡敷										
計寄附金										
總人員										
計寄附金										
右之通候也										

○文官傷痍疾病等差例 (十八年三月二十七日)

(賞與取調書式)

公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナリ
官吏恩給令附則第五條ニ掲グル各項ニ該當スル者ニ等蓋チ付スルコト概チ左ノ如シ
第一條 偏眼チ盲スル者全鼻チ失スル者ハ共ニ第五項トシ之ニ偏耳ノ官能チ併セ廢スル者
ハ第四項トス

第二條 兩耳チ聾スル者ハ第四項トス

第三條 偏眼兩耳ノ官能チ併セ廢スル者ハ(輕重ヲ酌) 第二項或ハ第三項トス

第四條 一眼チ失ヒ他ノ一眼暗味シ僅ニ自己ノ用ヲ辨スルチ得ル者ハ第二項トス

第五條 咀嚼言語ノ兩機能チ併セ廢スル者ハ(輕重ヲ酌) 第一項或ハ第二項トス

第六條 咀嚼ノ用チ廢スル者ハ(輕重ヲ酌) 第二項或ハ第三項トシ幾分ノ障礙アル者ハ第
五項其輕キ者ハ第六項トス

第七條 精神亡失或ハ錯亂シテ常ニ看護ヲ要セサル者ハ第一項トス

第八條 癡呆若シハ健忘症チ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌) 第三項若シハ第五
項トス

第九條 神経痛チ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌) 第五項或ハ第六項トス

第十條 言語ノ機能チ廢スル者ハ第三項トシ言語ノ機能チ妨ケラレタル者ハ(輕重ヲ酌)

第五項又ハ第六項トス

第十一條 胃腸膀胱等ニ癥管チ遺ス者ハ(輕重ヲ酌) 第二項或ハ第三項トス

第十二條 腸歌爾尼亞チ遺ス者ハ(輕重ヲ酌) 第五項或ハ第六項トス

第十三條 陰莖或墨丸チ全失スル者ハ第三項トス

第十四條 陰莖チ半失スル者偏墨丸チ失スル者ハ共ニ第六項トス

第十五條 頸項背腰諸筋ノ運用チ妨クル者ハ(輕重ヲ酌) 第五項或ハ第六項トス

第十六條 一肢チ失ヒ且他肢ノ用チ全廢スル者ハ第一項トス

第十七條 一上肢チ失フ者ハ肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ハ何レノ部位チ論セス第三項トス

第十八條 肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ノ關節作用チ廢スルモ全肢ノ用チ廢スルニ至ラサル
者ハ第六項トス

第十九條 一手ニ於テ四指以上チ失スル者ハ第四項トシ五項癒着若クハ強硬等ノ爲メニ把
握指ノ用チ廢スル者ハ第五項トス

第二十條 一手ニ於テ四指或ハ五指ノ各指ノ各一部チ失スル者ニシテ尙把握ノ用チ爲シ得
ル者ハ第六項トス

第二十一條 一手ニ於テ拇指示指チ併セ失スル者或ハ拇指示指チ除キ他ノ三指チ失スル者
ハ第六項トス

第二十二條 一下指ヲ失スル者ハ腕關節ヨリ踝關節ニ至ルノ間ハ何レノ部位チ論セス第三
項トス

第二十三條 腕關節ヨリ踝關節ニ至ルノ間ノ作用チ妨ケラレタル者ハ(輕重ヲ酌) 第五項或
ハ第六項トス

(腰背門) (文官傷痍疾病等差例)

ハ第六項トス

第二十四條 跗骨ヨリ蹠骨ニ至ルノ部ヲ失スル者ハ何レノ部位ヲ論セス第四項トス
第二十五條 一足ニ於テ五指ヲ失スル者ハ第五項トシ第一指ヲ併セテ指ヲ失スル者ハ第六項トス

第二十六條 不治病ノ爲ノ常ニ看護ヲ要スル者ハ(輕重ヲ酌)第一項或ハ第二項トス
第二十七條 不治病前項ヨリ輕キモ歩行スル能ハサル者ハ第三項トス
第二十八條 不治病前項ヨリ輕キモ自己ノ用辨ニ妨害アル者ハ第四項トス
第二十九條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ヲ爲シ難キ者ハ第五項トス
第三十條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ニ妨ケアル者ハ第六項トス

○恩給扶助料ヲ受ル者受領地轉換轉籍等ノ取扱順序(明治十八年九月二日內務省甲第廿八號府縣ニ達)

陸海軍恩給令并官吏恩給令ニ依リ恩給若クハ扶助料ヲ受ル者其受領地轉換又ハ轉籍等ノ時取扱順序左ノ通知定候條此旨相達候事

但明治十二年^{六月}內務大藏兩省乙第三十號達ハ廢止ス

- 一 恩給若クハ扶助料ヲ受ル者成規ニ從ヒ其受領地ヲ轉換セントスルトキ現授受ノ管廳ニ於テ其願ヲ受クル節ハ聞届タル上速ニ其旨轉換先キノ管廳ニ通知スヘシ又轉換先キ管廳ニ於テ先ツ其願ヲ受タル節ハ現授受ノ管廳ニ照會ノ上聞届クヘシ

- 一 寄留地管廳ニ於テ恩給若クハ扶助料ヲ受ル者其受領ノ權利消絶(死亡者ヲ除ク)ニ至リ又ハ轉籍及改姓名等ノ如キ本人ニ異動ヲ生スルトキハ其旨直ニ本籍局長ヨリ本管廳ニ届出共管廳ハ之ヲ速ニ寄留地ノ管廳ニ通知スヘシ
- 一 前各項ニ係ルモノハ其處分ヲ爲シタル管廳ヨリ其族籍姓名金額及聞届并異動届出ノ年月日等ヲ詳記シ速ニ內務大藏兩省ニ届出ヘシ
- 一 明治八年第四十八號公達陸軍武官傷病扶助概則并同年第四百四十八號公達海軍退隱令ニ依リ退隱料及扶助料ヲ受ル者モ右同様取扱フヘシ

救恤門

◎救恤規則

明治七年十二月八日
第百六拾貳號府縣ニ達

濟貧恤窮ハ人民相互ノ情誼ニ因テ其方法ヲ設クヘキ筈ニ候得共目下難差置無告ノ窮民ハ自今各地ノ遠近ニヨリ五十日以内ノ分左ノ規則ニ照シ取計置委曲內務省ニ可伺出此旨相達候事

恤救規則

一 極貧ノ者獨身ニテ癡疾ニ罹リ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ケ年米一石八斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ

(救恤門) (救恤規則)

但獨身ニ非スト雖ヒ餘ノ家人七十年以上十五年以下ニテ其身癱疾ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一同獨身ニテ七十年以上ノ者重病或ハ老衰シテ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ケ年米一石八斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖ヒ餘ノ家人七十年以上十五年以下ニテ其身重病或ハ老衰シテ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一同獨身ニテ疾病ニ罹リ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一日米男ハ三合ノ割ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖ヒ餘ノ家人七十年以上十五年以下ニテ其身病ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一同獨身ニテ十三年以下ノ者ニハ一ケ年米七斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖ヒ餘ノ家人七十年以上十五年以下ニテ其身窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一救助米ハ該地前月ノ下米相場ヲ以テ石代下ケ渡スヘキ事

○三子出產困窮ニシテ孳養行届兼候向養育料給與方(明治六年三月三日 第七拾九號開拓使府廳)

三子出產ノ者其家困窮ニテ孳養行届兼候向ハ以來養育料トシテ一時金五圓給與政候間地方官ニ於テ速ニ施行致シ追テ請取方大藏省ヘ可申出候事

◎救助筋申請ノ砌調査稟議箇條(明治八年七月三日 内務省第七拾八拾五號府廳)

窮民恤救ノ儀ニ付テハ昨七年第百六十二號ヲ以テ御達ノ趣モ有之候處爾後右等ノ者共救助筋申請ノ砌ハ左ノ箇條ニ照シ篤ト調査ノ上可伺出此旨心得トシテ相違候事

第一條 恤救規則ニヨル可キモノハ獨身老幼癱疾疾病等ニテ何等ノ業モ爲ヌ能ハス事實赤貧ニシテ曾テ他ニ保育スル者モ無之全ク無告ノ窮民而已ニ限ルヘシ然ルニ唯年癱疾等ノ名義ニヨリ救助伺出ル等ノ儀有之テハ恤救規則ノ趣旨ニモ乖戾可致ニ付假令七十年以上又ハ癱疾ノ者タリモ其案ニヨリテハ生産ノ道可相立者ナシトモサレハ篤ト現場ノ實況ヲ査定シ眞ニ不得已者而已具狀致スヘシ

第二條 同上ニヨリ是迄其市村内或ハ隣保ノ情誼ニヨリ互ニ協救仕來ル如キハ別段官ノ給與ヲ乞ハサルヲ以テ本旨トスヘシ

第三條 同上ニヨリ互ニ協救スルト雖モ若シ其手當不足ニシテ其内幾分ヲ官ヨリ仰カサレハ補助スル能ハサル等ノ如キハ其幾分救助ノ次第及ヒ石員金員ニ至ル迄詳悉記載申出ツヘシ

第四條 同上ニヨリ十三年以上七十年以下ノ者疾病中救助米賜ルト雖モ全快ノ期ヲ篤ト

(救恤門)

(救助筋申請ノ件)

調査シ在舊支給等無之様注意致スヘシ

第五條 同上ニヨリ疾病或ハ病者トノニ記載申請ノ向モ有之候得共爾後左ノ離形ニ準シ
詳悉記載別紙ニ製シ具申致スヘシ

但規則脇書ニコレアル餘ノ家人アラハ本文離形ニ記載スル本人名前ノ左傍ニ委詳書
記スヘシ

第六條 同上ニヨリ五十日以内給與シ申請ノ節同月幾日ヨリ何日分ト記載伺出ヘシ

第七條 同上ニヨリ伺濟ノ上其石割ヲ以テ給與セシムルハ勿論ナレト雖ヘハ一ヶ年一石
八斗ヲ目途ニ立テ其以内ヲ以テ足レリトスルカ如キハ其數量實地至當ニ斟酌シ適宜ノ
處分ハ不苦候間其旨精細具狀致スヘシ

第八條 老幼癱疾疾病等ニテ獨身ニ非スト雖ヒ餘ノ家人七十年以上十五年以下タレハ本
人ノミヘ獨身ニ準シ給與スヘキ成規ノ處若シ餘ノ家人癱廢疾病老幼ニテ事實難捨置情
故アラハ其者共ヘモ救助セシムルモアルヘキニ付其旨趣ヲ以テ具狀スヘシ併シ右様
ノ場合ニ於テ一家數人ノ救助ニ及フトキハ各自給與ヲ致サストモ其適度ニ斟酌シ可成
丈減省ヲ見込ニ伺出ツ可シ

(名簿離形略之)

◎士族平民ヲ論セス救助施行方(明治十一年十二月二十日 內務省乙第百八拾五號府縣へ達)

從來有祿士族之儀ハ平民同一之救助不相成規ニ候處先般第三十五號ヲ以テ金祿公債證
書書入質入賣買不苦旨公達相成候ニ付テハ向後士族平民ヲ論セス裸寡孤獨癱疾等之者ハ
明治七年第百六十二號同八年第百二十二號公達ニ照準夫々救助施行候儀ト可相心得此旨
相達候事

○棄兒養育米被下方(明治四年六月二十日)

從來棄兒救育ノ儀所預リノ分ハ養育米被下質受人有之分ハ不被下候所自今預リ質受ニ拘ラ
ス棄兒當歲ヨリ十五歲迄年々米七斗ツ、被下候間實意養育可致事

○棄兒養育米被下年限及年齡見定方(明治六年四月二十五日)

棄兒養育米ノ儀辛未六月中相達候通十五歲迄年々米七斗宛下渡候處自今滿十三年ヲ限リ
被下候條生年月日見定ノ儀ハ其所戶長等立合身體骨格等篤ト檢査シ本年第三十六號布告
ニ照シ年齡相定候條可致事(同年第三拾四號布告ヲ
以テ但世取消ニ依リ除ク)

○棄兒養育米全月未滿端日數ノ分支給方(明治九年六月十七日內務大藏)

年額月額有之御手當金渡方之儀ニ付テハ明治七年一月第十五號公達ノ趣モ有之候處棄兒
養育米ノ儀ハ來ル七月一日ヨリ全月未滿端日數ノ分ハ日割ヲ以テ支給可致此旨相達候事

(救恤門)

(救恤施行方及棄兒養育ノ件)

但病死等ノ節渡過相成候分ハ明治八年四月兩省乙第六拾三號達但書ノ通可相心得事

○寄留人へ養育米下渡方(明治十年五月十四日 內務省乙第五拾貳號府縣へ達)

棄兒養育致候寄留人へ養育米渡方ノ儀自今寄留地ノ管轄廳ヨリ可下渡此旨相達候事

○恤救米及棄兒養育米等渡前月相場調難成向ハ前々月平均相場ヲ用フ

(九年三月二十四日大藏省乙第三十二號府縣へ達 內務卿達啓)

昨八年四月中大藏省乙第六拾三號ヲ以テ恤救米及ヒ棄兒養育米等渡前月ノ平均相場ヲ以テ石代給與ノ旨相達置候處地方ノ都合ニ依リ實際交付ノ節迄ニ前月相場調難成難相成事實差間候向ハ渡前々月ノ下米平均相場相用不苦候條豫テ大藏省へ届濟可致施行此旨相達候事

●岡山縣伺

●愛媛縣伺

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

●十六年十一月

○例規適當ノ分不及同施行濟恤救取計及救助金受取方(九年四月廿一日 內務省乙第四拾九號府縣へ達)

明治七年第六拾貳號ヲ以テ恤救規則御頒布ニ付五十日以内ノ分規則ニ照シ取計置委曲當省へ可伺出旨御達相成候處自今例規ニ適當ノ分ハ別段不及同施行濟ヲ以テ恤救ノ事故給與ノ起日米額金員又ハ至愈死致等ニ因リ救助差止ノ期日ヲ詳記シ三ヶ月分取束テ金額受取方可申出尤明治八年當省乙第八拾五號達之通相心得不相當無之標注意可致此旨相達候事

○濟貧恤救濟届出施行方(十五年十一月十七日 內務省乙第六拾貳號府縣へ達)

濟貧恤救施行濟届方之儀昨十四年乙第四十四號ヲ以テ相達置候處別紙之通改正候條本年ヨリ半年毎ニ取調前半年分ハ八月限り後半年分ハ翌年二月限り兩度ニ有無トモ可届出此旨相達候事

但十四年度之分ハ從前之例ニ依リ此節届出候儀ニ有之候得共猶調査ノ都合モ有之ニ付本年前半分ヨリ本文之通相心得此分ニ限り來二月中後半分ト同時ニ可差出事

別紙

〔用紙美濃判紙格適宜ナルヘシ〕

明治何年前(後)半年濟貧恤救施行表 府縣名

(救恤門) (濟貧救恤施行ノ件)

十日限差出サシメ埋葬地戸長ニ送付スヘシ若シ其家赤貧ニシテ償辦シ能ハサルキハ其本籍地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條 死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルキ戸長ハ其相貌狀附屬シタル物品場所年月日等ヲ詳記シ三十日間最寄掲示場ヘ掲示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ公告ノ日ヨリ九十日ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルキハ該費用ハ地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條 死亡人所持ノ金錢ハ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ニ供スヘシ又所持ノ物品ハ前條ノ期限ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルキハ之ヲ公賣シ同上ノ費用ニ充ツヘシ

但本籍氏名詳ナル者其家赤貧ニシテ費用ヲ辨償スルヲ能ハサルキハ直ニ其物品ヲ公賣スルモ妨ケナレ

第五條 死亡人ノ遺財前條ノ費用ニ充テ餘贏アルキハ之ヲ本籍ヘ送付スヘシ其本籍氏名詳ナラサルモノハ之ヲ五ヶ年間戸長役場ニ保管シ仍ホ本籍氏名詳ナラサルキ於テハ地方稅雜收入ニ組入ルヘシ

○行旅死亡人埋葬表(明治十五年十一月十七日 內務省第七拾壹號府縣へ達)

今般第四十九號布告ヲ以テ行旅死亡人取扱規則被定候ニ付テハ明治十年五月當省乙第五十號達ヲ廢シ表式別紙之通相定候條右ニ照準半年分宛取廻メ毎年八月限り進達可致尤モ届出ツヘキ事項無之向ハ其旨同期限迄ニ可申出此旨相達候事

但當半季分ノ儀ハ第四十九號布告前後ヲ以テ區分チ立テ以前ノ分ハ最前表式ニ依リ以後ノ分ハ本達表式ニ依リ各表進達可致儀ト心得ヘシ

(別紙略之)

- 三重縣同 行旅死亡人ノ遺金餘贏ハ地方稅雜收入ニ組入ルヘシ
- 十五年二月 行旅死亡人ノ所持品ニシテ買受人ナキ汚穢物ハ其儘放棄スルモ苦シカラ
- 福島縣同 行旅死亡人ノ所持品ニシテ買受人ナキ汚穢物ハ其儘放棄スルモ苦シカラ
- 十八年十月

●軍人行旅中死亡ノ節取扱方ニ付廣島縣ヨリ海軍省へ伺 十六年八月十日

客年第四拾九號ヲ以テ行旅死亡人取扱規則公布有之並本年三月廿四日附ヲ以テ行旅人ニシテ重症飢餓等ニ迫リ目下難捨置者ハ戸長役場ニ於テ適宜救護ヲ加ヘ其費用ハ本人家元ヨリ辨償セシメ家元赤貧ニシテ辨償難相成有籍者ハ本籍無籍者ハ救護地地方稅ヲ以テ支辨スヘキ旨內務省ヨリ訓示有之候處海軍下士兵卒ニシテ單身旅行中萬一右等ノ場合ニ於テ假埋葬又ハ一時救護スヘキハ勿論ナレモ其者引渡方及之ニ係ル諸費辨償ノ儀ハ御省軍務局又ハ鎮守府へ照會可然哉身分管轄一般人民ト異ナル廉有之爲念此段相伺候也

指令 十六年八月十五日 伺之趣單ニ東海鎮守府へ照會候儀ト可相心得申

●海軍下士兵卒等旅行中死亡ノ節取扱方ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ海軍省へ伺 十六年十一月廿二日

第一條 明治十五年第四拾九號公布ヲ以テ行旅人死亡取扱規則被定候處海軍下士兵卒等ニテ單身旅行中死亡スルモノ有之ハ總テ該規則ニ準シ可取扱ハ勿論ノ儀ト相考候得共其死體引渡方及入費償却方ノ儀ハ滿役歸郷等ノモノニ在テハ右規則第一條ニ依リ本籍戸長へ照會セシメ其他ノ者ハ東海鎮守府へ照會シ可然哉

第二條 前條採シテ然ラハ埋葬其他ノ費用(食料、藥費、醫師診斷料、檢案料、逆信費等)ハ東

海軍守府ヨリ恐若償却相成ル儘乎或ハ其幾分ヲ償却相成儘ニ候哉果シテ然ルハ其不足分ハ家元ヨリ償却爲致可然哉

第三條 本年三月二日附ヲ以テ内務卿ヨリ行旅人ニシテ重症飢餓等ニ迫リ目下難圃モノハ適宜救護ヲ加ヘ右ニ風スル費用ハ自辨タルヘク若シ本人又ハ家元亦貧ニシテ辨償スル能ハサルハ地方稅救育費(無籍者ハ救護地有籍者ハ其本籍)ヲ以テ支拂フヘキ旨達有之候ニ付テハ下士兵卒等ニシテ萬一右等ノ場合ニ於テハ一時救護ヲ加ヘ其費用償却ノ儘ハ滿役歸郷等ノモノヲ除キ其他ノ者ハ東海鎮守府ヘ照會セハ該費悉皆償却相成候儘ニ候哉又ハ本人資力限り追徴シ尙不足スルハ其家元ヨリ辨償爲致候儘ニ有之候哉

第四條 下士兵卒等單身旅行中盜難ニ罹リ亦ハ旅費金遺失等ニテ歸途(滿役歸郷等)モノハ除ク送支ル旨ヲ以テ救護方申出候モノ有之トハ事實取調相違無之ニ於テハ衣服ナキモノハ衣服購求費宿泊ヲ要スルモノハ其宿泊料ヲ練營貸與シ可然哉

附令 十七年一月廿四日

同之趣左ノ通可相心得事

第一條 在職ノ下士卒旅行中死亡スル者有之其死體引渡方ノ儘ハ直ニ東海鎮守府ヘ照會スヘキ儀ト心得ベシ

但親戚故舊ヨリ死體引取方出願スルトハ下士金拾五圓卒金拾圓ヲ埋葬料トシテ下附スヘキニ付該金額ハ同府ヨリ受取ルヘシ

第二條 前條ニ於ケル埋葬料其他ノ費用ハ前段伺之通東海鎮守府ニ於テ處辨スヘキニ付該費目ヲ區分シ各關書ヲ以テ其都府照會セシムヘキ儀ト心得ベシ

第三條 前段伺之通

第四條 旅行中盜難又ハ旅費金遺失等ニテ困難ノ者アルハ明治十一年乙第十號當省遠旅行證規則第三條ニ比準シ事實相違ナキ者ハ一時救護ヲ加ヘ其費用ハ前二條ノ通同府ヘ照會スヘシ

●下士兵卒旅行中一時救護ノ儘ニ付茨城縣ヨリ海軍省ヘ伺十六年十二月十九日海軍下士兵卒ニシテ單身旅行中重症飢餓等ニ迫リ一時ノ救護又ハ假埋葬セシ者引渡

戶籍門

○戶籍法(明治四年四月四日)

今般府藩縣一般戶籍ノ法別紙之通改正被仰出候條管内普ク布告シ可申事

戶籍檢査編製ハ來中年二月一日ヨリ以後ノ事ニ候得共右ニ關係スル諸般ノ事ハ今ヨリ處置致ス可ク尤三府及各開港場ハ人民幅嶼ノ地ニテ取締向迷ニ不相立候テハ難相成ニ付送籍入籍並旅行寄留ノ者ヘ鑑札渡方寄留表取調方等當六月廿九日ヨリ後ル可ラサル事

但不審ノ廉ハ民政部省ヘ可承合事

右之通被仰出候事

人生始終ヲ詳ニスルハ切要ノ事務ニ候故ニ自今人民天然ヲ以テ終リ候者又ハ非命ニ死シ候者等埋葬ノ處ニ於テ其時々其由ヲ記錄シ名前書員數共毎歲十一月中其管轄廳又ハ支配所ヘ差出サセ十二月中辨官ヘ可差出候事

右之通管内社寺ヘ可觸達候事

(戶籍門) (戶籍法)

方及諸費ノ儘本年八月廿五日度島縣同ニ對スル御指令ニ據リ其時々東海鎮守府ヘ照會可致ハ勿論ナレド右ハ官私(官命ヲ帶フル者或ハ私申ニ出ル者)ノ別ナリ之ニ係ル費用ハ悉皆下附セラルヘ御主趣ニ候哉

附令 十七年二月十九日

書面埋葬費ハ伺之通其他ノ費用ハ事故ヲ明記シ更ニ可伺出事

戸數人員ヲ詳ニシテ撰テラザラシムルハ政務ノ最モ先シ重スル所也夫レ全國人民ノ保護ハ
 太政ノ本務ナルコト素ヨリ云フヲ待ダス然ルニ其保護スヘキ人民ヲ詳ニセテ何ヲ以テ其保護
 スヘキコトヲ施スチ得ンヤ是レ政府戸籍ヲ詳ニセサルヘカラスナル儀ナリ又人民ノ各安康ヲ得
 テ其生ヲ遂ル所以ノモノハ政府保護ノ庇蔭ニヨラサルハナシ去レハ其籍ヲ逃レ其數ニ漏ル
 、モノハ其保護ヲ受ケサル理ニテ自ラ國民ノ外タルニ近シ此レ人民戸籍ヲ納メサルヲ得サ
 ルノ儀ナリ中古以來各地方民治趣チ異ニセシヨリ僅ニ東西ヲ隔ツレハ忽チ情態ヲ殊ニシ聊カ
 遠近アレハ即チ志行ヲ同フセス隨テ戸籍ノ法モ終ニ錯雜ノ弊ヲ免レンス或ハ此籍ヲ逃レ或ハ
 彼籍ヲ欺キ去就心ニ任セ往來規ニヨラス沿襲ノ習人々自ラ度外ニ附スルニ至ル故ニ今般全
 國總體ノ戸籍法ヲ定メラル、ヲ以テ普ク上下ノ通義ヲ辨ヘ宜ク粗略ノコナカルヘシ

第一則 戸籍舊慣ノ錯雜アル所以ハ族屬ヲ分ツテ之ヲ編製シ地ニ就テ之ヲ收メサルヲ以テ
 遺漏ノ事アリト雖モ之ヲ檢査スルノ便ヲ得サルニ依レリ故ニ此度編製ノ法臣民一般(華
 族士族卒祠官僧侶平民迄ヲ云以下准之)其住居ノ地ニ就テ之ヲ收メ専ラ遊スナキヲ旨ト
 ス故ニ各地方土地ノ便宜ニ隨ヒ豫メ區畫ヲ定メ每區戸長並ニ副ヲ置キ長並ニ副ヲシテ其
 區内戸數人員生死出入等ヲ詳ニスル事ヲ掌ラシムヘシ

十一年第十七號布告ヲ以テ郡區町村編製法ヲ頒布シ一町村ニ戸長一員ヲ置クノ制
 トス

第二則 戸長ハ必ス長ト副トニ限ルヘカラス時宜ヨリ長副數名アルモ妨ケナシトス

但戸長ノ務ハ是迄各處ニ於テ莊屋名主年寄觸頭ト唱ル者ニ掌ラシムルモ又ハ別人ヲ用
 ニルモ妨ケナシ

第三則 凡ソ區畫ヲ定ムル際ハ一府一郡ヲ分テ何區或ハ何十區トシ其一區ヲ定ムルハ四五
 町若クハ七八村ヲ組合スヘシ然レモ其小ナルモノハ數十ニ及ヒ大ナルモノハ一二ニ止ル
 モ都テ其時宜ト便利トニ任セ妨ケナシ 華族士族住居ノ地從前武家地屋敷地
 同様タル業ヨリ待ス

但急ニ區畫ヲ定メ難キ所ハ假ニ便宜ニ從ヒ一村一町ニテ檢査セシムルモ妨ケナシ官ノ學
 校兵隊屯所等又ハ大社大寺ノ別ニ區域ヲナセシハ其官司ノ吏員其社寺ノ執事等ニテ戸
 長ノ事ヲ扱ハシムルモ妨ケナシ

第四則 戸長其區内ノ戸籍ヲ式ノ如ク之ヲ集メ二通ヲ清書シ更ニ第一號ト第二號ト式ノ如
 ク其區内總計ノ戸籍表ト職分表トヲ作り其集ル所ノ籍ハ戸長ニ備ヘ置キ清書二通りト共
 ニ其支配所ニ差出スヘシ支配所之ヲ其廳ニ差出シ其廳之ヲ第五號第六號ノ式ノ如ク其管
 内總計ノ戸籍表ト職分表トヲ作り戸籍一通ハ其廳ニ備ヘ置キ一通ニ廳印ヲ押シ表ト共ニ
 六ヶ年目ニ改メ太政官ヘ差出スヘシ(支配所トハ管轄内廣遠ノ處別ニ一小部ヲ置キ支配
 セシムル所ヲ云フ總テ出張所トイフノ類ナリ)

但支配所ナキ所ハ直ニ其廳ニ出スヘシ以下准之

第五則 編製ハ爾後六ヶ年目ヲ以テ改ムヘシト雖モ其間ノ出生死去出入等ハ必ス其時々戸
 長ニ届ケ戸長ハ其廳ニ届出テ(支配所アルモノハ支配所ニ届支配所ヨリ其廳ニ届ク)其廳

(戸籍門) (戸籍法)

之ヲ受ケ人員ノ増減等本書ヘ加除シ毎年十一月中戸籍表ヲ改メ十二月中太政官ヘ届出ス
ヘシ(加除ハ生ル、モノト入ルモノヲ加ヘ死者ト出ルモノヲ除ク類チ云フ)

○内務省令第三號

戸籍表式ヲ改正シ第一表ヨリ第七表マテハ毎年十二月三十一日チ
以テ調査シ第八表ハ六年目毎ニ十二月三十一日チ以テ調査シ各翌年三月廿日限リ
差出サシム

○内務省令第廿二號

戸籍ハ戸籍用紙ヲ以テ之ヲ造リ各戸チ別葉ニ登記シ一町村毎ニ
帳簿ニ編製スヘシ

但便宜ニ因リ一町村チ數冊ニ合綴スルコト得

戸籍ハ副本チ造リ郡役所ニ納メ置クヘシ區長ニ於テ戸籍ヲ取扱フルハ之ヲ管轄廳
ニ納メ置クヘシ

若シ事項多クシテ欄内ニ餘白ナキトキハ用紙ヲ以テ其欄上ニ掛紙シ之ニ登記スヘ
レ

但本紙ト掛紙トノ續目ニハ官印ヲ捺スヘシ

戸籍ハ字畫チ明瞭ニ記載シ濫ニ添削スルコト得ス若シ錯誤脱漏ニ依リ添削スルル
ハ之ニ認印ヲ捺シ且其刪ルヘキモノハ朱線チ畫シ原文チ存スヘシ

戸籍簿ノ改製ヲ要スルルルハ管轄廳ノ許可ヲ受ケテ之ヲ爲スヘシ

戸籍簿燒亡紛失シタル時ハ郡役所又ハ管轄廳ニ納メ置キタル副本ニ據リ製編スヘ
シ

戸籍簿ノ改製又ハ編製チ爲シタル時ハ郡長又ハ管轄廳ニ差出シ其檢査チ受クヘシ
但改製ニ係ル原戸籍簿ハ少ナクモ五十年間之チ保存スヘシ

○内務省令第廿一號

戸籍取扱手續ニ依リ管轄廳又ハ郡役所ニ納ムル戸籍簿副本及諸
届ハ之チ保存スルニ止メ加除異動チ登記スルニ及ハス又寄留ニ關スル届書ハ管轄
廳又ハ郡役所ヘ送付ニ及ハス

○内務省令第拾九號

出生アリタルルルハ十日以内ニ届出ヘシ
上 死者アリタルルルハ埋葬以前ニ届出ヘシ
同 上 應戶主廢嫡改名復姓身分變換其他願濟ノ上戸籍ニ登記スヘキ事
項其許可ノ指令ヲ受領シタル日ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第六則

管轄廳ニ於テ戸籍專任ノ吏員チ置キ其事ニ擔當セシムヘシ若シ遺漏粗略ノ事アル
ニ於テハ其吏員並ニ戸長戸長ナキハ大社ノ實タルヘシ

第七則

區内ノ順序チ明ニスルハ番號チ用フヘシ故ニ每區ニ官私ノ差別ナク臣民一般番號
チ定メ其住所チ記スニ都テ何番屋鋪ト記シ編製ノ順序モ其號數チ以テ定ルヲ要ス
但區内ノ屋敷亡所トナリ又ハ一戸チ割テ二戸トシ二戸チ合セテ一戸トナスコトアルル共
由チ戸籍ニ記シ番號ハ其儘据置六ケ年目ニ至リ改ムヘシ

第八則

各地方貫屬或ハ平民等事務アリテ全戸他ノ管轄所ニ引移ルモノハ其由チ本貫管轄
(戸籍門) (戸籍法及ヒ戸籍取扱手續)

應へ願出其應ヨリノ送リヲ取り在留地ノ應ニ届出其所ノ籍ニ編入スヘシ又故アリテ元ノ管轄應へ引移ル時ハ之ヲ戻スヲ其始出ル時ノ如クシ其所ノ籍ニ編入スヘシ

但當時全戸既ニ引移リシ官員ノ如キハ其官省ヨリ名前書ヲ在留地ノ應ニ達シ夫ヲ證トシ其住居ノ地區ニテ其籍ヲ收ムヘシ又本貫管轄應ニハ其由ヲ其官省ヨリ達シ其應之ヲ聽キ其所ノ籍ヲ除クヘシ尤此ヨリ後引移ルモノハ此限ニアラス送籍スルヲ本條ノ如クスヘシ(第八則ヲ云)若シ全戸引移ルト雖モ情故アリテ本貫管轄應ノ籍ニアルヲ願フモノ其地寄留ノ部ニ入レ情願ニ任スルモ妨ナシ

十二年第八號達ヲ以テ士族貫籍替ノ儀管轄應ニ出願ニ不及直ニ戸長へ届ケシム

第九則 他ノ管轄地ニ引移ル時元ノ應ヨリ送籍スルニハ其常人ヨリ元住所ノ組合並ニ戸長ニ其由ヲ届ケ長副連印シ其應ニ届ケ其應之ヲ受ケ其應聽知ルノ證ヲ押シ當人ニ渡スヘシ但管轄内廣遠ノ場所別ニ支配所アラハ其支配所ニテ之ヲ達セシメ往來困却ノ弊ナカラシムルヲ要ス

第十則 他ノ管轄所ヨリ此管轄所ニ入籍スル時ハ元ノ管轄所ノ證ヲ持參シ其入ル所ノ戸長ニ其由ヲ通シ戸長其相違ナキヲ糾シ其所ノ籍ニ入ルヘシ而シテ戸長其元應ノ證ト其入籍セシ事ノ由ヲ時々其應ニ届シヘシ

第十一則 管轄内甲ノ區ヨリ乙ノ區ニ移ルカ如キモ第十則迄ノ例ヲ見合スヘシ但管轄内ナルヲ以テ送籍ハ戸長ヨリ之ヲ致シ入籍ノ上其入ル所ノ戸長ヨリ其應ニ届ケ

其應之ヲ聽キ即チ本書ニ加除スヘシ(加除ハ甲ノ籍ヲ除キ乙ノ籍ニ入ルノ類ヲ云)但其區ニ於テ時々加除スルハ亡論ナルヘシ

○内務省令第五二號 送籍ヲ請求スル者アルキハ戸籍用紙ヲ以テ送籍狀ヲ作り直ニ入籍地ノ戸長區長へ發送シ其送籍ノ事項及ヒ發送ノ年月日ヲ登記目録ニ記入スヘシ

○同 上 人別ノ送籍狀ニハ其人別ニ關シ戸籍ニ登記シタル事項及ヒ戸主ノ氏名身分住所ヲ記載スヘシ

○同 上 入籍ヲ届出ルキハ原籍地戸長區長ヨリ送達シタル送籍狀ハ照査シ入籍ノ手續ヲ爲シ五日以内ニ入籍報知書ヲ原籍地戸長へ發送スヘシ原籍地戸長ニ於テ之ヲ受領シタルキハ其受領ノ年月日ヲ登記目録送籍狀發送年月日ノ下ニ記入シ直ニ右記入ノ日ヲ以テ除籍スヘシ

○同 上 全戸ノ送籍狀ニハ戸籍ニ登記シタル事項ヲ遺漏ナシ記載スヘシ

○大阪府同 十八年十二月 戸主死亡シ父再相續ノ後廢戸ノ上嚮ニ分籍シタル次男ノ死跡ヲ他人ニテ繼キタル戸主ノ家族ニ入籍センコトヲ出願スルモ聞届ケルコトヲ得ス

○岩手縣同 十八年三月 單身分家ノ後妻ヲ迎ヘ子ヲ擧ルモノ妻ヲ引連レ本家へ復籍苦シカラス

○京都府同 十八年二月 子女携帶分籍セシ者退隱又ハ死亡シ其子女相續ノ後廢戸ノ上本家へ復籍苦シカラス

(戸籍門) (戸籍法及ヒ戸籍取扱手續) 二一五

- 京都府 七月 實家へ復籍ノ母ハ父死後復籍ヲ許スト雖モ繼母ニ於テハ之ヲ許サス
- 東京府 七月 生家へ復籍ノ養母ハ雙方ノ叶議ト雖モ復籍スルヲ許サス
- 廣島縣 一月 除族者相續ノ爲メニアラスレテ老病保護ノ爲メニ復籍スルヲ得ス
- 島根縣 九月 舊刑法ニ處セラレタル除族ノ養子離縁セラレ、其ハ士族籍ノ實家ニ復籍スルヲ得
- 東京府 二月 復籍ハ本人一代ニ限り遺族へ不相成先代先々代ニテ分家ノモノハ家名ヲ廢シ本家へ復籍不相成
- 島根縣 五月 養父母離縁復籍ノモノ生計上等ノ都合ニヨリ再ヒ養父母トシテ入籍スルヲ得ス
- 愛知縣 五月 祖父母等ハ族ノ如何ニ拘ラス孝養ノ爲メ入籍スルヲ得
- 千代田縣 十二月 戸主失踪中ハ長男ノ承諾ヲ得サレハ家族ノ送籍縁組等ヲナスヲ得ス
- 福島縣 六月 祖父ノ離縁シタル實父ヲ我籍へ入ルヲ許ス
- 新潟縣 七月 郡區長ノ許可ヲ要スヘキモノヲ戸長誤リテ送入籍ヲナシタルハ訂正スルニ及ハス

● 滋賀縣 十二月 送籍證ヲ受取リタル后其取消ヲ請求スルヲ得

● 千代田縣 十二月 偽籍發覺處刑ノ後ハ偽籍ノ妻及養子ハ各實家へ復サシムヘシ

● 長野縣 七月 遺胎ノ徵候アリテ他家ニ再醮分娩シタル子女ハ先夫ノ籍ニ編入スヘシ

● 神奈川縣 九月 非戸主ヨリ全戸送籍願出ルモ關届ケルヲ得ス

● 島根縣 七月 繼母ノ入籍ヲ爲サ、リシモノ戸主死亡后長男ヨリ繼母ノ入籍ヲ出願スルモ關届ケルヲ得ス

第十二則 全戸引移ラス又ハ一時公私ノ用ニテ寄留スルモノハ其本貫管轄廳ノ鑑札ヲ持參シ寄留地戸長ニ通シ其寄留スル所ノ廳ニ名前書ヲ添ヘ鑑札ヲ差出シ其廳之ヲ受ケ即チ其廳ノ鑑札ト引替遣スヘシ

鑑札ニハ當人名任所職分ヲ記スヘシ而シテ其者歸國スル節ハ同様ノ例ヲ以テ元ノ鑑札ト引替歸國スヘシ

但管轄内廣遠ノ場所別ニ支配所アラハ其支配所ニテ引替シムヘシ故ニ鑑札ハ豫メ支配所へモ備ヘ置クヲ要ス

鑑札引替ノ節其戸長ハ其役場大社大寺ハ執事ニ差出ス名前書ニハ官員ハ當人兵隊ハ隊長證印ヲ自餘ハ戸主備主請人證印スルヲ要ス

三號見合スヘシ

四年七月廿二日布告ヲ以テ寄留鑑札ヲ廢ス

第十三則 修行又ハ奉公ノ爲メ他國ニ寄留スルモノモ第十二則ノ例タルヘシ

(戸籍門) (戸籍法及ヒ送籍手續)

全戸引移リシ官員等ノ内寄留情願ノ者モ第十二則ノ例タルヘシ(第八則但書ト見合スヘシ)

但是迄修行又ハ奉公イダシ寄留スル者及ヒ事務アリテ寄留スルモノ其本貫ノ應ニ届ケ鑑札請取第十二則ノ例ヲ以テ引替ヘシ若シ道路懸隔リ當人ヨリ本貫ノ應ニ届ケ難キ事故アルモノハ其寄留地ノ應ニ於テ戸主備主請人等ノ證書ヲ出サシメ其應ヨリ直ニ其本貫ノ應ニ掛合鑑札受取ヘシ但自今以後ハ此例ニアラス

○内務省令第十九號 他府縣又ハ他郡區ニ寄留シタルキハ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ他人ノ所有地若クハ自己又ハ他人ノ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出且同時ニ本籍地戸長ヘ届書ヲ發送スヘシ

寄留地ヲ去ルキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ其他ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出ヘシ

○寄留者本籍地ニ歸リタルキハ戸主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ
○布告第四號 寄留者ノ内官員神官華士族僧尼舊神官ハ當人兵隊ハ隊長平民ハ戸主備主請人ノ内證印シ戸長ヘ届出ヘシ(軍人附城屬方五年十月) 大藏省達ニアリテ參照
○布告第五拾號 各地方寄留ノ者諸願届等其寄留地ノ管轄廳ヘ差出スヘシ
○大阪府令 寄留人ノ諸願届ハ本貫ノ了知ヲ要スル事項ノ外本籍ニ通知スルコトヲ要セ

山口縣 同六月 僧侶其町村ニ定籍シ者庫裏ニ寄留スルモ寄留ト稱スルノ限ニアラス
新潟縣 同三月 無住無戸ノ地ヲ本籍ト定メ他町村ニ寄留スルコトヲ得
群馬縣 同三月 裁判被告中又ハ身代限財產取調中ト雖モ轉籍寄留等スルコトヲ得
高知縣 同三月 寄留ト旅行ハ九十日内外ヲ以テ區別ス
石川縣 同二月 他府縣ヘ出寄留中本籍移轉スルキハ本人ヨリ其旨ヲ寄留地戸長ヘ届出シテ可シ又移轉地戸長ヘハ本人ヨリ更ニ寄留届ヲ爲サシメテ前住地戸長ヨリ送籍ノ際應ニ受取セシ出寄留届書ヲ引繼キ移轉地戸長ニ於テハ其引繼書ニ依リ出寄留簿ヘ登記シ尙ホ引繼キニ依リ取扱ヒタル事項ヲ記載セシメ其取扱ヲ結了スヘシ

第十四則 凡ソ旅行スルモノ官員ハ其官省等ノ鑑札ヲ所持シ自餘ハ臣民一般其管轄廳ノ鑑札ヲ所持スヘシ 寄留ノモノハ其所持故ニ旅行ヲ以テ渡世トスルモノ、如キハ急速ノ便ヲ得ル爲メ豫メ其鑑札ヲ申受置モ妨ケナシトス 第十二則但書ノ通所置シ
但其管轄廳ノ鑑札ニハ當人名住所ト職分ヲ記スヘシ名住所及職分ヲ變セシ時ハ右鑑札ヲ引替ヘシ

四年七月廿二日布告ヲ以テ旅行鑑札ヲ廢ス
第十五則 驛遞旅宿ニ於テハ其鑑札ヲ認メ之ヲ宿帳ニ記シ止宿セシムヘシ此證據ナキモノハ止宿セシムヘカラス

(戸籍門) (戸籍法)

第十六則 宿帳ハ七日目毎ニ隠遞ハ其驛出帳驛遞掛ノ改ヲ受ケ自餘ハ其戸長ヘ出シ改ヲ受ケヘシ旅籠屋ニ於テハ都テ逗留三日以上ハ其戸長ニ届ケ人民輻輳スルニ都府ノ如キハ其時々戸長ヨリ其隠ニ届ヘシハ十日以上ハ寄留トシ第十二則ノ手續ヲナスヘク旅人病氣又ハ異變ノ節速ニ届ケ出ルハ勿論ナリ

但戸籍改ノ節滞留スルモノハ其所持ノ鑑札ニ突合セ検査スヘシ

第十七則 各地ニ出張スル官員出入トモ其管轄廳ヘ届ケ其出張先ノ地方廳ヘモ届クヘシ

但地方ノ廳懸隔リシ場所一時出張シ或ハ急遽ノ事務等アルハ其手續ナキコアルヘシ

第十八則 僧侶ハ其得度ノ地ヲ以テ本貫トシ他寺ニ轉住スル時ハ送籍シ行脚遍參スルモノ寄留地ニ於テ鑑札引替ル事第十二則ノ例グルヘシ

六年第八十七號布告ヲ以テ僧侶ノ族籍ヲ定ム

七年一月第八號布告ヲ以テ僧尼族籍編入方ヲ定ム

同年七月第七十四號布告ヲ以テ同年第八號布告ヲ改正ス

第十九則 鑑札ヲ所持シテ出奔死亡シ或ハ刑ニ處セラレ歸國セサル者ハ其所ノ官司ヨリ其由ヲ本貫ノ廳ニ達シ鑑札ヲ送り還スヘシ

第二十則 六ヶ年目毎ニ戸籍ヲ改ムルニ當リテ其戸籍取集メ上ハ日限ヲ定メ其區々ニ於テ長並副區内一戸毎ニ其差出ス處ノ戸籍ト現在ノ人員ニ突合セ相違ナキヲ點檢スルヲ以テ法トスヘシ

六年第百四拾貳號布告ヲ以テ第二十則第二十二則第二十三則六ヶ年目戸籍改ノ條ハ追テ達スル迄施行ニ及ハストス

寄留ノ者ハ曾テ届ケ出シ名前書ヲ以テ人員及所持ノ鑑札ニ突合セ相違ナキヲ證スルヲ以テ法トスヘシ凡テ寄留ノモノハ戸籍改ノ前第十二則第十三則ノ例ニ從ヒ鑑札ヲ受ケ名前書ヲ差出置ヘシ

但其土地ノモノニテ其土地ニ修行又ハ奉公シテ他家ニアルモノハ戸籍改ノ日限ニハ歸宅シテ改ヲ受ク可シ若シ體ナル證據アリテ其日限ニ歸宅シ難キモノハ其證據ヲ以テ證トスルモ不得已ヘシ

六年第百八十號布告ヲ以テ守札渡方ヲ中止ス

第二十一則 凡ソ戸籍ヲ検査スルハ遺漏アルヘカラス又重複スヘカラスニツノ者ノ弊アレハ検査ノ要ヲ失フ尤甚シトイフヘシ故ニ戸長ヲ設ケ地ニ就テ戸籍ヲ收ムルハ遺漏ノ弊ヲ防ク所ト雖モ其戸籍ヲ出入スルニ當リテ出入ハ他ノ管轄内ヲ出此管轄内ニ入深ク注意セサレハ又重複ノ弊ヲ免ル能ハス故ニ六ヶ年目毎ニ戸籍ヲ改正スルニ當リ其戸籍ヲ検査スルノ月ハ天下府藩縣一般二月一日ヨリ五月十五日ヲ以テ終ルヲ法トスヘシ此間凡

第二十二條 六ヶ年目毎ニ二月一日ヨリ五月十五日迄凡百日ノ間ハ戸籍ノ出入ヲ止ムヘシ但不得止事故アルニ由リ其人ハ移轉セシメ他ノ所ニ行カシムト雖モ戸籍ノ朔ハ其本住所ノ廳ニテ之ヲ取集ムヘシ此百日ノ間ニ一般ノ戸籍調終ルヲ待テ五月十六日ヨリ送籍

(戸籍法)

(戸籍法)

入籍ノ事ヲ處置スヘシ

但戸籍検査ノ日ニ當リテ二月一日ヨリ五月十日不得已移轉セシモノハ送籍入籍ノ時月十六日ハ必ス其由ト其月日ト本書ニ書顯スヘシ

第二十三則 六ヶ年目毎ニ五月十六日迄ニ戸籍検査既ニ終リ其應ニ於テ六月中第四則ノ例ノ如ク其管轄内總計ノ戸籍表ヲ作り第五號式本書共ニ七月中太政官ヘ差出スヘシ第四則

但一紙ハ其應ニ留置毎年出ス所ノ表ノ基トスヘシ

第二十四條 寄留者ノ届書ハ其寄留スル支配所ニテ支配所ナキ其應其時々之ヲ記録シ寄留表ヲ第七號式ノ如ク製シ出入人員増減ヲ隔月検査シテ其應ニ出シ其應之ヲ受ケ毎年十二月太政官ヘ差出スヘシ

但支配所アルハ某支配所ト表ノ左傍ニ記スヘシ

第二十五則 三都府ハ人民輻湊ノ地ナルヲ以テ寄留表ハ他ノ藩縣ニ拘ラス隔月検査ノ時々即チ太政官ヘ差出スヘシ

第二十六則 民産調ノ如キハ一般ノ御布告アルヘシト雖モ此迄地方官ニテ戸籍中家産等書職サセ來リシハ其儘出スヘシ

第二十七則 戸籍表ノ用紙ハ厚紙ヲ用ヒ戸籍ノ用紙ハ美濃紙ノ寸法ヲ準トシ公用ノ野紙ヲ用フヘシ戸長ト其應ヘ收ムル分ハ其土地求メ易キ適宜ノ品ヲ用フヘシ故ニ每區戸長ヘ本

書分ノ公用野紙ヲ其應ヨリ下渡スヘシ

第二十八則 各地ノ戸籍一例ナルヲ要スレハ字ノ細大行ノ高低ハ其記事ヲ標別スル爲メナルヲ以テ能ク注意シ成丈ケ細字ニ記スルヲ要ス

第二十九則 此迄厄介ト號セシモノ或ハ縁故アリテ養育スルモノ等ハ其族屬ト續柄ヲ肩書ニシ共事由ヲ其名前ノ上ニ記スルヲ式ノ如クスヘシ

第三十則 華族等ノ從僕其邸内ニ住居シテ一戸ヲナセルモノハ式ノ如ク其主人ノ次ニ記レ社中寺内ニアルモノ此例ニ準スヘシ

第三十一條 凡ソ僧尼ハミナ式ニ依テ其本貫得度ノ年月及ヒ其所ヲ記シ院内受職ノ外ハ皆弟子ヲ以テ記スヘシ

第三十二則 穢多非人等平民ト戸籍ヲ同フセサルモノ、如キハ其最寄ノ區ニテ其戸長ヘ名前書ヲ出サセ年齢發疾等ヲ其人員男女ヲ分チ戸籍表ニ書入シ差出シ應ニテモ戸籍表ニ入ルハ式ノ如クスヘシ

四年八月廿八日布告ヲ以テ穢多非人等ノ稱ヲ廢シ一般民籍ニ編入ス但生死出入其最寄戸長ニテ取扱寄留旅行ノ規則等平民同様ノ例ニ從ヒ名前書ヲ六ヶ年

目ニ出サシムル戸籍ノ如クスヘシ

千葉縣伺 出生死亡等ニテ届出又ハ登記ヲ怠リタルモノハ前日ニ遡リ記載スヘシ

第三十三則 都テ書式ハ臣民トモ體裁一ナレハ彼此相通シ參用シテ妨ナシ

(戸籍門) (戸籍法)

十九年十月内務省訓令第二十號ヲ以テ戸籍登記書式ヲ定ム

●京都市 同六月七日 兄ノ跡ヲ繼キタルモノハ實兄誰相續人ト記載スヘシ

●京都府 同六月七日 家子アルモノ、養子ハ相續ヲ爲スヘキモノト雖モ實子ノ次ニ列記スヘシ

●岡山縣 同八月 生兒命名前死亡シタル者ハ冒頭ニ生死ノ年月日及ヒ事由ヲ詳記スヘシ

●千葉縣 同八月 分家後出生ノ兒子ハ生家ニ子女アルコト拘ラス長男女ト記載スヘシ

●同根室縣 同五月 母ノ後夫ハ分家スルト雖モ戸主ト非戸主トノ別ナク繼父ト稱シ繼父ヨリ指シテ妻前夫某幾男女ト記載スヘシ

●大阪府 同五月 養女ハ其家ヲ相續セシムヘキ者ナリト雖モ養女ト記載スヘシ

●大坂府 同五月 戸籍法書式ト法律ト稱呼ヲ異ニスルモノハ戸籍法ニ據リ戸籍法ニ明文ナキモノハ律面ノ文字ヲ用フヘシ

●名東縣 同四月 雙子三子順序ハ前出ノ者ヲ以テ兄弟トス

●公卿諸侯ノ稱ヲ廢シ華族ト稱ス

●華族令ヲ定メ其戸籍ハ宮内大臣之ヲ管掌ス

●凡ソ華族一家ノ戸籍ハ宮内大臣之ヲ管掌スルモ國民一般ノ義務ニ屬スル部分ハ地方廳ト分掌スルニ付進テ達アルマテ華族令第九條婚姻願ヲ

●公卿諸侯ノ稱ヲ廢シ華族ト稱ス
●華族令ヲ定メ其戸籍ハ宮内大臣之ヲ管掌ス
●凡ソ華族一家ノ戸籍ハ宮内大臣之ヲ管掌スルモ國民一般ノ義務ニ屬スル部分ハ地方廳ト分掌スルニ付進テ達アルマテ華族令第九條婚姻願ヲ

除シノ外從前ノ通

大夫士以下ノ稱ヲ廢シ士族ト改稱ス

士族家督相續養子貫屬替等出嗣ニ不及戸長へ届出ヘシ

戸主死亡スト雖モ失踪ノ遺族アルキハ族籍ハ失ハス

士族ニシテ貸座敷營業及ヒ娼妓嫁ヲナスコトヲ得ス

士族ニシテ脱籍洩籍ノモノ編籍スルキハ平民タルヘシ

士族ノ夫妻アリ夫刑死スルモ遺妻ハ士族タルノ分限ヲ失ハス

重罪ノ刑ニ處セラレタル士族ノ家族ニシテ一家舉テ平民トナルモ其分籍

ヲナスニ及ハス出願セシメタル上平民籍ニ編入スヘシ

戸主公權剝奪セラレタルキハ其子孫ヲシテ襲族セシムヘシ但シ停止ニ

該ルモノハ子孫襲族スルヲ要セス

公權剝奪セラレタル者ハ其刑ノ言渡ト全時ニ分籍スヘシ

但停止ニ該ル者ハ此限ニアラス

公權剝奪セラレタル者復權ヲ得タルキハ復籍スルコトヲ得ルモ更ニ其族

ヲ以テ立籍スルコトヲ得ス

公權剝奪セラレタル者復權ヲ得ルキハ其襲族者家名ヲ其者ニ譲リ更ニ

戸主トナルコトヲ得

●全 第四條 (戸籍門) (華士族除族平民ニ關スル布告布達及伺指令要領)

●此兒島縣伺 十八年十一月 公權剝奪ハ其人ヨリ奪フモノニテ其家ヨリ奪フニアラス故ニ士族ノ戸

主ニシテ此處分ヲ受ケシモノハ子孫親族又ハ他人ヲ以テ家督ヲ相續セシムヘシ

●全 第四條 妻ハ夫ニ隨フモノナレハ夫除族分籍スルルハ妻モ亦ダ一般平民ト異ナルヲナシ

●全 第五條 士族單身戸主ニシテ死刑ニ處セラレタル跡ハ親族ノ協議ヲ以テ其血族又ハ他人ヲシテ該家ヲ相續セシムルヲ得

●岡山縣伺 十五年六月 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ華士族ノ養嗣子トナルヲ得ス

●福岡縣伺 十五年六月 養子タル除族者養家へ復籍相續セントスルハ凡テ實子ト全シ

●島根縣伺 十五年九月 舊刑法ニ處セラレタル除族ノ養子離縁セラル、トハ士族ノ實家へ復籍スルヲ得

●廣島縣伺 十五年九月 除族者相續ノ爲メニアラス老病保護ヲ名トシテ復籍スルヲ得ス

●布 四年八月 穢多非人ノ稱ヲ廢シ一般民籍ニ編入ス

●失蹤逃亡ニ關スル布告布達及伺指令要領 除族者相續シ又ハ其行方知レタル時ハ十日以内ニ届出ツヘシ

●内務省令第九號 失蹤者歸復シ又ハ其行方知レタル時ハ十日以内ニ届出ツヘシ

●長野縣伺 十八年一月 逃亡失蹤ノ者年齢八十歳ニ至リタルトハ除籍スル成規ノ處八十歳以上ニテ逃亡失蹤ノ者ハ逃亡失蹤後三十六ヶ月ヲ經過スルトハ除籍スヘシ

●郡馬縣伺 十六年八月 失蹤逃亡ノ年限ヲ計算スルハ其踪ヲ失ヒ又ハ船晦セシ日ヨリ起算スヘシ

●木府伺 十六年七月 失蹤者出沒船晦スルモノハ最初届出ノ日ヲ以テ起算スヘシ

●千代縣伺 十五年五月 失蹤年限起算方ハ届出ヲ怠リタルモノナルモ其近隣ノ保證アルトハ前日ニ溯リ失蹤ノ日ヨリ起算スヘシ

●栃木縣伺 十六年十月 失蹤跡廢戸主等ニ係ルモノハ本人ノ承諾ナキモ行政上ノ處分タルヘシ

●島根縣伺 十年二月 逃亡ニ付斷縁ノ夫復歸スルルハ本人望ノ地ニ定籍スヘシ

●姓名印章ニ關スル布告布達及伺指令要領 華族ヨリ平民ニ至ル迄自今姓名並ニ家號共改稱不相成

●布告第五百三十八號 通稱名乘兩用ノモノ一名ニ定メシム

●布告第五百三十九號 自今平民必ス苗字ヲ用ユヘシ

●布告第五百四十號 僧侶得度濟ノ者僧運印ノ上改名願出ルトハ届出クルヲ得

●復姓名ハ五年二百三十號並ニ九年五號公布ニ拘ハラヌ届出クルヲ得

(戸籍門)

(失蹤逃亡ニ關スル姓名印章ニ關スル布告布達及伺指令要領)

● 十六年坂八府月
● 十五年縣入月
● 十四年縣入月

士民トモ營業ノ爲メ先代ノ名ヲ襲クヲ許ス
商業ノ都合ニ依リ祖先又ハ先々代ノ名ヲ襲クヲ得
醫師若クハ商人營業上差支ト見認ムルモノハ襲名ニアラス他ノ名ニ改
ムルヲ得

● 山形縣十月
● 滋賀縣五月
● 木府年一月
● 全府年五月
● 京都府年五月
● 宮城縣年一月

累代ノ通字稱用ノ爲メ改名スルハ次三男ト雖モ爲スヲ得
商業上ノ都合ニ因ルルハ先代名ノ一字ヲ襲クヲ得
營業ノ都名及ヒ祖先ノ由緒等ニ仍リ改名スルヲ得
御臨號同稱ハ不苦ト雖モ恐悚ノ意ヲ以テスルルハ改名ヲ許ス
養子其家ノ通字ニ改名スルモ離縁ノ後復ヒ舊名ニ復スルヲ得
士族ノ子弟農商ヲ營ミ或ハ農商家ニ養子トナリ營業上ニ差支アルモノ
ハ改名スルヲ得

● 愛知縣八月
● 高知縣十月
● 高木縣年一月
● 枋木縣年六月
● 十札縣年四月

商業上止ムヲ得サルキハ屢ハレ中假稱セシ名ニ改ムルヲ得
家族ノ男子舉テ改名スルヲ得
按摩渡世ノ者其師ノ付與シタル名ニ改ムルヲ得
送籍證ト現在名ト異ルモノ壬申年二百三十五號公布以前ニ屬スル者ハ改
名スルヲ得

● 兵庫縣四月
● 和歌山縣七月
● 石川縣八月
● 九府年四月
● 本府年四月
● 木府年四月
● 千島縣年十一月
● 十山縣年九月
● 十山縣年五月

同居中ニ同名アリト雖モ姓異ルルハ改名スルヲ得
檢校勾當座頭等ノ稱ヲ一般ノ通稱ニ用ユルヲ得
名稱ハ洋語ヲ用ユルヲ得ルモ文字ハ必ス漢字ヲ用ユヘシ
婦人嫁スト雖モ生家ノ苗字ヲ用ユ
連レ子ハ其入籍スル處ノ苗字ヲ用ユ
屋號堂樓ノ改稱ハ勝手タルヘシ
實印ニ我姓名ニ非サル文字ヲ彫刻スルヲ得
實印ヲ他人ニ預クルハ五年自九十七號ニ於テ訖度可及所置トアルモ
十四年七十二號布告ニ照シ處分スヘキモノニアラス
甲村ノモノ乙村ニ地所ヲ所有スルルハ證明ノ爲メ其村ニモ印章ヲ取
置クヲ得
實印彫刻中至急ヲ要スルルハ地所賣主ノ調印ナキモ戶長與印ニ其證ヲ
記載シテ書換フルヲ得

● 德島縣十一月
● 愛媛縣十二月
● 三正縣年十月
● 十六年十月

○ 親族稱呼ニ關スル何指令要領
妻ノ實家ノ妹ヲ養女トナスルハ妻即チ其姉ハ養母ト稱スヘシ
姉輩ノ相續人トナリタルモノハ其姉輩并ニ姉ヲ養父母ト稱スヘシ
元養子タル養父母分家スルモ養父母ノ名稱ハ變セス家女タル養父養母
(戶籍門) (姓名印表ニ關スル布告布達及何指令要領)(親族稱呼ニ關スル何指令要領)二三三

●島根縣伺
十六年一月

ト離縁スレハ養叔母タルヘシ
家女タル養母他へ嫁シ復歸スレハ叔母トナリ他ヨリ入籍シタル養母他
へ嫁シ復歸スレハ姉ノ續キタルヘシ

●高知縣伺
十五年五月

民法上親族ト稱スルハ祖先以來本支等ノ縁故アル者及ヒ現今ノ續柄ア
ル者ノ總稱ナリ

●石川縣伺
十五年九月

民法上ノ親族トハ續柄ノ遠近ト交際ノ親疎トチ以テ區別スヘキモノニ
アラス

●大坂府伺
十五年七月

繼父ノ迎ヘタル後妻ニハ繼母ノ名稱ナシ
外孫チ以テ繼承セシムルハ之ヲ養子ト稱スヘシ

●滋賀縣伺
十五年八月

高祖父ノ子女トハ續柄ノ名稱ナシ
私生子ヨリ母ノ夫ヲ指シテ繼父ト稱スヘシ

●岩手縣伺
十四年三月

離縁ノ家女ハ無縁タリト雖モ其兄弟ハ養方兄姉ト稱スヘシ
絶家年ヲ經テ再興シタル者ト雖モ養父子ト稱スヘシ

●神奈川縣伺
十五年二月

○結婚離婚等ニ關スル布告布達及ヒ伺指令要領

●布告
四年八月

華士族平民互ニ結婚ヲ許ス
外國人民ト結婚ヲ許ス

●長崎縣伺
十五年八月

女子結婚年齢ノ制限アラス

●愛媛縣伺
十八年四月

婚姻年齢ニ制限ナシト雖モ幼年ノ者ハ可成結婚セシメサル様注意スヘシ
養女又ハ他ヨリ來レル縁女ニシテ未婚者戸主死亡跡相續限際ノ后直チ
ニ他へ嫁スルヲ得

●高知縣伺
十八年十月

乙家ノ二男甲家女子ノ婿養子トナリ離縁復籍ノ後乙家ノ長男チ又甲家
女子ノ婿養子トナスヲ得ス

●京都府伺
十八年一月

養父ノ庶子ニ養兄ノ女ヲ娶スハ叔姪ノ血縁アル者ニ付結婚不相成
亡兄弟伯叔父母又ハ甥姪ノ配偶者ト結婚ノ上届出ツルモ受理スヘキモ
ノ、ニアラス

●山形縣伺
十八年二月

實家廢絶シタル養女チ婚嫁スルニアラスシテ他へ遣ハスハ復籍スル處
ナキニ依リ養家離縁ノ上直ニ差遣ハシ苦シカラス

●山形縣伺
二十年二月

戸主ノ父隱居シ其妻チ(他ヨリ入籍ノ者)離婚シ其身他へ入籍ノ儀止チ
得サル事情アルモノハ聽許苦シカラス

●高知縣伺
十八年七月

但シ離婚シタル妻チ其儘戸主ノ家族ニ据置クヲ得ス
養子又ハ妻ニシテ失踪逃亡等ニ係ル者ヲ養父又ハ夫ヨリ養實又ハ夫妻

●栃木縣伺
十八年六月

兩家叶談ノ上離縁願出スルキハ二十四ヶ月ヲ過キ聞届不苦但シ不得止
速ニ離縁ヲ要スル事情アルモノハ十ヶ月後ハ聞届シルヲ得

●(戸籍門)

無期徒刑ニ處セラレタル者ノ妻ト雖モ夫承諾ナキ時ハ離縁スルヲ得

●(結婚離婚等ニ關スル布告布達伺指令要領)

三五

● 群馬縣 十八年三月
 ● 京都府 十六年六月
 ● 栃木縣 十六年七月
 ● 青森縣 十六年三月
 ● 島根縣 十六年四月
 ● 山形縣 十六年六月
 ● 新潟縣 十六年六月
 ● 栃木縣 十六年九月
 ● 大坂府 十六年一月
 ● 東京府 十六年八月

生家斷絶シタル養子失踪後二十四ヶ月ヲ過キ單ニ一方ノ親族ヨリ離縁ヲ出願スルハ開届不苦
 前夫ノ遺胤分婉前ト雖モ事情不得止キハ後夫ヲ聘スルヲ得
 幼戸主ノ父(養子)失踪シ生計營キ難キハ其父ヲ生家ニ復籍シ更ニ母ヘ後夫ヲ迎フルヲ得
 實母ナキハ繼父ヲ迎フルヲ得ス
 幼年戸主ノ母ヘ迎ヘタル後夫其當時入籍ノ手續ヲナサ、リレハ戸主丁年後ト雖モ入籍スルヲ得
 叔姪ノ名義アルモ血縁ナキモノハ結婚スルヲ得
 婿養子其婦(女)ヲ離縁シ全居ノ儘更ニ其妹ヲ他ノ養女トナシタル上妻トナルヲ得
 養家亡妻ノ姉妹ト配偶シタル者ハ一旦斷縁他家ノ養女トナスノ手續ヲナサシムヘシ
 商業ノ爲メ他國ヘ旅行音信ナキ者ノ妻止ムヲ得サルハ失踪者ノ例ニ準シ離縁スルヲ得
 徒流刑ニ處セラレタル者ノ妻離縁ト雖モ夫ノ承諾アラサルハ行政上

● 新潟縣 十六年十月
 ● 群馬縣 十六年十一月
 ● 大坂府 十五年六月
 ● 栃木縣 十五年五月
 ● 大坂府 十五年八月
 ● 福井縣 十五年四月

許可スヘキモノニアラス
 逃亡者ノ離縁ハ親族アラサル時ハ隣佑若シハ知友ノ連署ヲ以テスレハ開届シルヲ得
 養子離縁ニ臨キ其妻ノ去就ハ夫婦ノ協議ニ任セ養父母ノ拒絕スヘキ節ナシ
 戸主失踪中遺族(妻ヲ)ハ失踪ノ年限家族ノ有無ニ拘ハラズ他ニ縁付シヲ得
 養嗣子ヲ有スル寡婦ノ後夫ヲ聘スルハ九年第五十八號公達ニ準スヘシ
 女戸主ノ母ヘ後夫ヲ迎フルハ士族ト雖モ之ヲ爲スヲ得
 左ニ記載シタルモノト相婚スルヲ得
 實養祖父母ノ兄弟姉妹
 實養子孫ノ鰥寡
 養祖父母父母ノ子孫
 兄弟姉妹又ハ祖父母父母ノ兄弟
 姉妹ノ前配偶者
 弟ノ妻タリシヲ養子ノ妻トスルヲ得ス
 清國人ト結婚ノ節證書授與ニ不及許婚指令ノ日ヲ以テ除籍スヘシ

(戸籍門) (結婚離婚等ニ關スル布告布達及指令要領) 二二七

●陸軍省甲第十二號

陸軍々人結婚條例ヲ定ム

●十二年七月

婦タル者其夫死亡又ハ離縁ヲ受ケシ日ヨリ三百日ヲ過キサレハ二人以上遺胎ノ徴ナキ保証アル者ノ外再婚ヲ許サス

●大坂府十一月

上遺胎ノ徴ナキ保証アル者ノ外再婚ヲ許サス

●布告第六十二號

夫婦離縁ノ際夫之レヲ肯シセサルハ裁判所へ訴へ出へシ

●六月五月

○相續ニ關スル布告布達及伺指令要領

●二十八號

華士族家督相續方ヲ定ム

●島根縣三月

華士族單身戸主公權剝奪セラレタルハ跡相續期限ハ十三年第三號公布ニ依ルヘシ

●全十四年一月

平民家督相續取扱ハ華士族ニ準ス

●石川縣七月

控訴期限中ハ始審執行ヲ停止スルモノナルヲ以テ相續ノ願ハ許可スヘカラス

●熊本縣二月

尊長ノ存意ヲ以テ相續人ヲ定メ得ヘキハ外親族ノ叶議ヲ要スルニ及ハス

●愛知縣八月

相續人ニ係リ親族外ニ故障ヲナスモノアリト雖聞届ケ苦シカラス

●和歌縣九月

戸主一年以上ノ刑ニ係リ其家族ヨリ養子ヲナシテ相續セシメントスルニハ戸主ノ父母若クハ親族ノ叶議ヲ要ス

●岡山縣一月

登籍ナキ失踪戸主復籍スルハ尋常戸主相續ト同シカルヘシ

- 愛知縣八月
- 和歌縣九月
- 岡山縣一月
- 熊本縣二月
- 石川縣七月
- 全十四年一月
- 島根縣三月
- 六月五月
- 布告第六十二號
- 十二年七月
- 大坂府十一月
- 陸軍省甲第十二號

●愛媛縣十二月

弟ヨリ家名ヲ其兄へ讓ルコトヲ得ヘシ

●岐阜縣十一月

弟ヲ以テ相續ナシシムルモノハ養子ト稱スヘカラス相續人ト稱スヘシ

●山口縣六月

甲ノ家族乙へ付籍中甲實家悉ク死亡スルハ該付籍者ハ自然甲ノ家名

●廣島縣九月

相續セサルヲ得サル義トス

●鹿兒島縣五月

失踪中ノ兄ヲ相續人ニ立ルモ苦シカラス

●石川縣四月

但單身戸主失踪逃亡ノ場合ニ於テハ相續方相成ラズ

●第二十號

養父失踪後十ヶ月ヲ經過ノ上ハ養子戸主家名ヲ養母ノ遺棄ニ讓リ復籍スルヲ得

●千葉縣五月

單身戸主死亡又ハ除籍ノ日ヨリ滿六ヶ月以内ニ跡相續者ヲ届出サルモノハ總テ絶家トス

●第三號

單身戸主死亡後親族ノ都合ヲ以テ相續ヲ延期スルヲ得ス

●第十三號

但六ヶ月内ニ出訴中ノ事由ヲ届出ルニ於テハ裁判確定迄猶豫ヲ與ヘ

●華士族

單身死亡後相續人ヲ定ムルハ五十日ヲ過シヘカラス若シ不得止

●事故

アルモノハ六ヶ月ノ猶豫ヲ與フ

●(戶籍門)

(相續ニ關スル布告布達及伺指令要領)

●二三九

二三九

● 東京府 同 十五年三月

者ト稱シ再ヒ相續スルノ權ナレ
實家及ヒ本人ノ承諾アルニアラサレハ養子戸主ノ退隱ヲ聞届クルコト
得ス

○ 第二十八號布告

家督相續ハ必ス惣領ノ男子タルヘシ

● 山口縣 同 十六年一月

嫡出女子ニシテ庶出男アルキハ其男相續權チ有ス

● 滋賀縣 同 十六年十月

私生子ハ其父已レノ子ト認メ入籍シタル日ヨリ庶子トナシ父其母正婚
ノ日ヨリ嫡子トス

● 福島縣 同 十八年十二月

連子チシテ實家ノ父ノ跡目チ相續セシムルキハ承祖ノ孫ト稱スヘシ

● 大坂府 同 十八年五月

戸主死亡後傍系ノ男子數人アル場合ニ於テハ親族ノ叶議ニ任スヘシト

● 栃木縣 同 十八年九月

離弟一人ノミナルキハ其弟ニ相續ノ權アルモノトス

● 全 上

實長男子有タル戸主退隱其父再相續チ爲スト雖實長男ニハ相續權アル
モノトス

● 山口縣 同 十八年六月

前條ノ場合ニ於テ再相續者 實長男ヨリハ祖父相續ノ後ニ於テ男子チ舉
クルモ實長男 再相續ノ相續權ハ動カサルモノトス

● 福島縣 同 十三年十二月

父退隱ノ上長男ニ家督ヲ讓リタル後チ更ニ其長男 退隱セレメ再相
續チ爲スモ其長男 退隱ハ再ヒ其父 再相續ノ跡目チ相續スヘキ權アリトス

● 山口縣 同 十八年六月

家族ニ男子アリト雖戸主ノ遺女獨子ナルトキハ相續ノ權チ有ス

● 福島縣 同 十三年十二月

前出ノ庶子アリト雖後出ノ嫡子ニ相續權アルハ勿論ナリトス

● 栃木縣 同 十三年四月
● 福島縣 同 十四年十二月

結婚前出生ノ子結婚後ノ届ニ係ルモノハ出生ノ年月日ニ遡リ戸籍ニ記
載スヘシ

● 神奈川縣 同 十五年六月
● 静岡縣 同 十八年二月

他ヨリ復籍ノ次三男ト雖モ其家ニ相續人アラサルキハ相續ノ權チ有ス
有子ノ寡婦ニ入夫前夫ノ跡相續セシキ其子女ノ相續權ニ付テハ親族ノ
叶議ニ任セ若シ叶議整ハサルキハ入夫ノ子女ニ相續セシムルモノトス

● 東京府 同 十六年三月

親族ノ叶議ヲ以テスレハ現夫ノ女子ヲ措キ先夫ノ長男チ相續人トスル
コトヲ得

● 静岡縣 同 十六年十月

戸主一男子チ遺レテ死亡シ其養弟跡目相續ノ後又一男子チ遺レテ死亡
ス其跡チ祖父ニテ屬キタルキハ正當ノ孫相續ノ權チ有ス

● 大坂府 同 十五年十月

一旦廢嫡シタルモノト雖更ニ嗣子タルノ届チナスキハ再ヒ相續ノ權チ

● 京都府 同 十六年七月

實子アラサレハ養女ニ相續ノ權チ生ヌルモノトス

● 京都府 同 十六年四月

分家後ニ出生シタル子女ハ本家ニ遺シタル子女ノ有無ニ拘ハラヌ之チ

● 滋賀縣 同 十六年七月

長男トス

● 福島縣 同 十五年六月

二三男ト雖他ニ相續人アラサルキハ相續ノ權チ有ス

● 福島縣 同 十五年六月

女子ニ迎ヘタル嗣養子チ離縁スルキハ實男子ニ相續權ハ移ルモノトス

(戸籍門)

(廢戶主、嫡子、廢嫡等ニ關スル布告布達及伺指令要領)

● 京都府 四月
● 鹿兒島縣 十月
● 愛媛縣 四月
● 神奈川縣 十月
● 第十一號 布告
● 第六八號 布告
○ 第五十八號 布告
● 第九年 六月
● 岡山縣 六月
● 十五年 六月
● 山梨縣 一月
● 十五年 一月
● 滋賀縣 四月
● 十八年 四月
● 滋賀縣 五月
● 十八年 五月

送籍證ヲ偽造シテ入夫トナリタルモノハ戸主ノ代數ニ加ヘスト雖其生子ハ相續ノ權ヲ有スルモノトス
其家ニ相續スヘキ者アラサルトキハ除族ノ長男ヲ復籍セシムルヲ得
他ヨリ復籍ノ長男ヲ聞キ女子相續スルヲ得ス
廢嫡トハ相續權ヲ有スル者ヲ廢スルヲ云フ
家督相續ハ必ス總領ノ男子タルヘシ若シ亡没或ハ廢篤疾等不得止事故アレハ其事故ヲ詳ニシ次男三男又ハ女子ニ相續願出ツヘシ
子女アル者養子入夫等ヲ以テ相續人トナスハ親族叶議ヲ以テ願出テ其事不得止モノハ聞届ッ
立嫡違法ノ法律ハ已ニ消滅シタリト雖庶チ立嫡ヲ廢スルハ從來ノ規定ニ從ヒ出願セシムルモノトス
廢嫡ハ平民ト雖モ華士族全權取扱フヘシ
茲ニ戸主ツリ長男、子女、子孫ト遺シテ死亡ス依テ戸主ニ於テ其遺妻長男ノ養子タルモトナシト他ヨリ寡婦ニ婚養子ヲ迎ヘントスルニハ長男ノ遺子ニ相續セサルヘカラス
但結婚ニ付テハ別段ノ手續ヲ要セス
犯罪人無擔帶兒チ地方ニ於テ引受ケ定籍シタルハ實受人アルハ假令

● 神奈川縣 九月
● 十八年 九月
● 同
● 同
● 島根縣 四月
● 十八年 四月
● 高知縣 六月
● 十八年 六月
● 岐阜縣 二月
● 十六年 二月
● 同
● 同
● 京都府 四月
● 十六年 四月
● 同
● 同
● 東京府 六月
● 十四年 六月
● 同
● 十五年 十月

獨子ナリト雖モ廢嫡ノ手續ヲナシ得サルモノニ付父母ノ承諾アルニ於テハ直チニ差遣ハシ苦シカラス
長次女アリ七、長女ニ婚養子ヲナシテ戸主ト爲シタル後其養子ヲ離縁シタルトハ母若クハ長次女何レチハ相續セシムルモ親族ノ叶議ニ任カス
長女獨ニ養子ヲ迎ヘ、戸主トナシタル後其戸主ヲ離縁シ母ニ死ハ已ニ相續シタルトハ其長女ノ養子ト對シテ相續權アルモノトス
失踪ノ長男ヲ廢嫡スルハ失踪後十ヶ月ヲ經過セサレハ聞届カタシ
私生子ヲ有スル女子入夫ヲ迎ヘントスルニ出願セシムルニ及ハス
長男ニシテ廢スヘキ事由アラサルハ長女ヲ以テ相續セシムルコトヲ得ス
次男ニシテ嗣子タルモノヲ廢スルモ全上タルヘシ
分家後ニ擧ケタル兒女アルニ本家ヨリ實子ヲ呼取り相續セシムルハ其兒女ヲ廢嫡スヘシ
庶子ト雖モ其獨子タルハ他ヘ養子女等ニナスノ際出願スヘキモノトス
長次女ヲ有スルモノ長女ヲ他ヘ遣ハシ又ハ次女ヘ養子ヲ迎フルハ廢嫡ニ屬セサルモノトス

○ 庶子私生子ニ關スル布告布達及ヒ伺指令要領

(戸籍門) (廢戶主、廢嫡等ニ關スル布告布達及伺指令要領)

○第六一號布告
○六年一月
但全布告

妻妾ニアラサル婦女ニシテ分娩スル兒ハ一切私生子ヲ以テ論ス
男子ヨリ私生子ヲ已ノ子ト認メタルハ婦女住所ノ戸長ノ允許ヲ得テ
其子男子ヲ父トスルコトヲ得

●飾原縣
十月三
十月三

父ノ見認メタル私生子ハ母籍ニ置クト雖モ庶子ノ稱アリ

●石川縣
十月十
十月十

私生子ヲ男子ニ於テ認メタルハ庶子ト稱スヘシ

●埼玉縣
十月四
十月四

妾ハ法律上公認スヘキモノニアラサルニ付キ妾ノ生ミタル兒子ヲ妾服
ノ子タル名義ヲ以テ編籍スルコトヲ得ス

●京都府
十月三
十月三

妾服及ヒ私生子ノ入籍シタルモノハ總テ庶子ト稱シ庶子中長幼ノ順序
ヲ以テ嫡出ノ子ノ次ヘ登録スヘシ

●福井縣
十月二
十月二

私生子ハ其母正婚ノ日ヨリ嫡出タルノ權利ヲ有ス

●福島縣
十月四
十月四

送入籍ノ手續ヲ完了セサルモノハ夫婦ト公認スヘキモノニ無之ニ付其
子女ハ庶子タルヘシ

○養子女ニ關スル布達及ヒ伺指令要領

○第二百九號布達
八年十二月

婚姻養子女ノ取組若シハ離婚離縁等戸籍ニ登記セサル内ハ其効ナキモ
ノト看做ス

○司法省丁第四十
六號達十年六月

前條ノ場合ニ於テ其登記ヲ怠リシ者アリトモ既ニ親族近隣ノ者モ夫婦
若シハ養子女父ト認メ裁判官ニ於テモ其實アリト認ムル者ハ夫婦若シハ

●愛媛縣
十月十二
十月十二

養父子ヲ以テ論ス可シ

●山口縣
十月十
十月十

姉姪ノ相續人ハ養子ト稱スルコトヲ得

●德島縣
十月四
十月四

他家ニ入嫁セシ妹ノ配偶者ノ養子トナルコトヲ得ス
但不得止事情アルモノハ先代ノ養子トシ配偶者ノ相續人トナスハ苦
シカラス

●愛媛縣
十月六
十月六

附籍戸主死跡ヘ養子ヲナスコトヲ得

●青森縣
十月五
十月五

家族養子女ヲナスコトヲ得ス

●京都府
十月九
十月九

全時ニ養父母両名ヲ攜帶スル嫌ヒアルモノ、外尊屬親ヲ攜帶シ養子ト
ナルコトヲ得

●福井縣
十月十
十月十

亡歿後ハ年長者ヲ直ニ養子トシ苦シカラス

●山口縣
十月三
十月三

死跡ヲ相續シタルトキ先代ハ其相續者ヨリ幼少ナルモ養父母ト追稱ス
ルコトヲ得ヘシ

●東京府
十月二
十月二

亡長男ノ妻ヲ養子女トナスハ苦シカラス

●同年
十月九
十月九

外孫ヲ以テ養子女トスルハ苦シカラス

●長崎縣
十月四
十月四

嗣子ニ定メサル養子女人アルハ養父ノ死跡相續ハ長幼ノ序ニ從フヘシ

(戸籍門)

(私生子ニ關ス布達伺指令要領)

● 茨城縣 十年七月

後見人タル者ハ丁年以上ノ者ニ限ル且戸主ニ非サル者ハ後見人ヲ附スニ及ハス

二五〇

● 栃木縣 十年二月
● 茨城縣 十年七月

附籍人ナリト雖幼年ナルトキハ必ス後見人ヲ立ツヘシ
丁年以上ノ戸主ニ後見人ヲ置キ届出ルモノアルモ受理スルノ限リニアラス

戸主丁年以上ナリトモ白痴又ハ瘋癲ナル者ハ親屬協議上後見人ヲ置クモ妨ケナシ

但後見人ハ幼少者ノ後見人同一ノ權利アルモノトス

女戸主ト雖也丁年ナレハ後見人ヲ要セス

● 高知縣 十年三月
● 函館縣 十年一月
● 和歌山縣 十年一月
● 八尾縣 十年一月
● 八尾縣 十年一月

後見人タルヘキモノナキトキハ強ヒテ設クルコトヲ要セス
後見人ヲ置クモ届出ナキトキハ其効ナキモノトス

後見人アル間ハ幼主ノ實印ヲ用ユルニ及ハス該家ニ係ル願届ハ總テ後見人ノ實印ノミヨテ進退スヘシ

戸主幼少ナル爲メ母ハ後夫ヲ迎ヘ後見人トナスコトヲ得

後見人ハ成ルヘシ戸主ヲ撰ムヘシ

親族叶議ヲ以テ撰定シタル後見人ハ其身代ノ如何ヲ問フニ及ハス

父母ニ於テ後見人タルキハ親族ノ叶議ヲ要セサルモノトス

● 千葉縣 十年二月
● 三重縣 十年三月
● 高知縣 十年七月
● 徳島縣 十年七月

● 愛知縣 十年二月
● 東京府 十年七月

母祖母ハ自他ノ家ニ拘ハラス其子孫ノ爲メニ後見人タルコトヲ得
母祖母ノ其子孫ノ爲メニ後見人タルコトヲ得ルハ其寡婦タルノ中ニ限ル

父祖父ノ存意ヲ以テ他人ヲ後見人ニ定ムル場合ニ於テハ親屬ノ叶議ヲ要セス

婦人ノ後見ハ母並ニ祖母ノ外ハ戸女主タルモノニ限ルヘシ

後見人撰定ニ際リ離縁ノ父母故障申立ツルモ受理スヘキモノニアラス

失踪又ハ旅行中ナル後見人ヲ改撰セント欲スルコトハ親族ノ叶議ヲ以テスレハ本人ノ承諾ヲ要セス

戸主及ヒ後見人ノ連印ナキニ外親屬ヨリ其後見人ヲ解放スルコトヲ得

後見人ハ一己ノ存意ヲ以テ代人ヲ委任スルコトヲ得

後見人ハ其家ノ遺物相續人タルコトヲ得ス

後見人ハ戸主ノ財産ヲ買受クルコトヲ得ス

● 鳥取縣 十年四月
● 東京府 十年八月
● 高知縣 十年九月

兵 事 門

◎改正徵兵令

(兵事門)

(改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續命令要領)

第一章 總則

第一條 全國ノ男子年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ハ總テ兵役ニ服ス可キモノトス

第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ別チテ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三箇年ニシテ年齡滿二十歲ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

條例第五十五條 現今豫備兵役中ノ者ハ最初豫備軍ニ編入セシ年ノ四月廿日ヨリ起算シ四箇年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後々々備兵役ニ服セシム但定期ニ在ラスシテ臨時豫備軍ニ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ四箇年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

條例第五十六條 現今後備兵役中ノ者ハ最初後備軍ニ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算シ五箇年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム但定期ニ在ラスシテ臨時後備軍ニ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ五箇年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム

第五條 國民兵役ハ年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲迄ノ者ニシテ常備兵役及ヒ後備兵役中ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルモ若シハ臨時ニ演習或ハ觀兵

ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアルヘシ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコト許サス

〔伺〕十七年七月舊刑法ニ據リ懲役一年以上及ヒ國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者ハ明治十四年十二月第八十一號布告新舊比較ニ照シ重罪ノ刑ニ當ル者ノニ非サレハ凡テ徵集ノ部分ニ屬ス

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置タル島嶼ノ壯丁ハ悉皆之ヲ警備隊ニ充ツ該地内ニ於テ服役セシム

但在時間ハ一箇年以内トス (明治十九年勅令第七十號ヲ以テ追加改正ス)

〔伺〕十七年八月十日陸軍徵兵檢査合格者ト雖モ抽籤前ニ在テ海軍志願兵徵募規則ニ依リ合格トナリタルモノハ水兵ニ採用スルコト得ス但壯丁名簿中本人姓名ノ頭ニ其事由ヲ摘載スヘシ

事務取扱手續第一項 近衛局及ヒ鎮臺ハ十一月一日ノ現員ニ依リ翌年ノ所要徵員表ヲ製シ十一月十五日迄ニ之ヲ陸軍省ニ開申スヘシ

條例第三十二條 毎年徵集スヘキ陸軍新兵ノ員數ハ陸軍卿之ヲ告示シ海軍新兵ノ員數ハ

(兵庫門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續指令要領)

海軍卿之ヲ告示ス可シ

二五四

條例第三十三條 鎮戢司令官ハ其告示ニ基キ後備軍司令官ヨリ差出ス所ノ人員ヲ率トシ
 軍管徵集人員配當表第十式ニ作リ之ヲ陸軍省ニ開申シ又管内府縣廳及ヒ府縣駐在官ニ通
 牒ス可シ府縣廳ニ於テハ之ヲ管内ニ告示ス可シ

第十誓式

徵集人員配當表

師	管第	明治何年何					兵種 府縣
		近歩兵	騎兵	砲兵	現役工兵	計	
一	第						
	二						
	計						

軍管徵集人員配當表

海軍現兵			陸軍現役								
水兵	火夫	職工	計	職工	看護卒	輜重輸卒	輜重兵	工兵	砲兵	騎兵	

(兵車門)

(改正徵集人員配當表手続簡指令要領)

二五五

考 備	計														

條例第五十三條 近衛諸兵ハ總テ品行方正ニシテ且体格最健全ナル者ヨリ之ヲ撰フ可シ
 其身幹砲兵ハ五尺五寸以上步兵騎兵工兵ハ五尺三寸以上ノ者タルヘシ
 事務取扱手續第十五項 近衛兵適當ノ者不足スルハ其不足ハ鎮臺諸兵適當ノ者ヨリ身幹
 體格品行ヲ撰ミ之ヲ補フヘシ

條例第五十四條 鎮臺ニ屬スル諸兵ノ身幹砲兵ハ五尺五寸以上步兵騎兵工兵輜重兵ハ五
 尺三寸以上ノ者タル可シ若シ不足スルトキハ砲兵ハ五尺四寸以上步兵騎兵工兵輜重兵
 ハ五尺二寸以上ノ者ヲ以テ之ニ充ツ仍ホ不足スルトキハ臨時共定尺ヲ減スルコトアルヘ
 シ

事務取扱手續第十項 砲兵ニ編入スヘキ者ハ體格最健全ニシテ視力清明ナル者ヨリ之ヲ

撰フヘシ

事務取扱手續第十一項 騎兵ニ編入スヘキ者ハ成ルヘク資質敏捷ニシテ馬匹ヲ使用スル
 ニ慣レ其體格ハ筋骨肥滿ニ過ス又瘦瘠ニ失實ス上體ト下體トヲ比較シテ股脚稍長キ者
 ヨリ之ヲ撰フヘシ

事務取扱手續第十二項 工兵ニ編入スヘキ者ハ成ルヘク木工、石工、竹工、船工、車工、鍛工、鞞
 工、桶工、泥工、馬具職、厩根職、茅屋根職、木挽職、指物職、建具職、穴藏職、井戸堀職、棒削職、
 節職、袖職、舟夫等ヨリ之ヲ撰フヘシ

事務取扱手續第十三項 輜重兵ニ編入スヘキ者ハ成ルヘク馬匹ヲ使用スルニ慣レ且讀書
 算術ヲ爲シ得ルモノヨリ之ヲ撰フヘシ

事務取扱手續第十四項 歩兵ニ編入スヘキ者ハ職業又ハ技術ノ有無ヲ問ハス身體輕捷ニ
 シテ銃器ヲ執リ能ク勞動ニ堪ユル者ヲ採用スヘシ

條例第五十五條 陸軍雜卒又ハ職工トシテ徵集スル者ハ身幹五尺以上ニシテ雜卒又ハ職
 工ノ勤務ニ適當ノ者ヨリ之ヲ撰フ可シト雖モ若シ所要ノ人員不足スルトキハ其體格五
 種兵ニ亞ク者又ハ身幹四尺九寸以上ニシテ各其勤務ニ堪フ可キ者ヨリ之ヲ撰フ可シ
 事務取扱手續第十六項 雜卒若シハ職工適當ノ者不足スルハ其不足ハ體格ノ五種兵ニ亞
 ク者ヨリ之ヲ補ヒ尚ホ不足スルハ身幹四尺九寸以上ニシテ體格甲種ノ者ヨリ之ヲ補
 フモノトス

(兵衛門) (改正徵兵事務條例徵兵事務取扱手續指令)

條例第五十六條 海軍兵ハ左ニ掲ケル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ撰フ可シ其身幹水兵火夫ハ五尺以上ヲ定尺トス

第一項 航海學又ハ機關學卒業ノ者

第二項 西洋形船舶ニ乗組ノ者

第三項 瀛車或ハ諸製造所等ニ於テ機關手又ハ火夫ノ業ニ從事スル者

第四項 現ニ前諸項ノ職業ニ從事セスト雖モ一箇年以上嘗テ之ニ從事セシ者

第五項 日本形五百石未滿ノ船舶ニ乗組ノ者

第六項 日本形五百未滿ノ船舶ニ乗組ノ者

〔伺〕十七年八月四日東京鎮守使 陸軍ニ於テ先入兵及ヒ入營延期トナリシ者其年海軍兵ニ適當スルト雖モ抽籤ノ法ヲ用ヒスノ海軍現役ニ服セシムルノ限ニアラス

條例第五十七條 海軍職工トシテ徵集スル者ハ身幹四尺九寸以上ニシテ其勤務ニ適當ノ者ヨリ之ヲ撰フ可シ

第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアルヘシ但常備兵役ノ至期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 年齡二十歳ニ滿タスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得

〔伺〕十七年八月十日 徵兵令第十條ノ志願兵ハ兵種ヲ撰フモ妨ケナシ

條例第二十一條 徵兵令第十條ニ據リ現役志願ノ者ハ其願書第四十二式ニ戶長郡區長ノ與書附印ヲ受ケ徵兵檢査所ニ出願ス可シ但檢査所ニ往復ノ旅費ハ合格者ニ限り官給ス

第二十四書式

志願兵願書

府(縣)郡(區)町(村)番地住

族及職業

姓名

年月日生

右私或ハ私何男爵嗣子承祖ノ孫等徵兵令第十條ニ據リ現役志願仕候間御檢査被成下度尤御採用ノ上ハ定期ノ服役年期中家事ノ故障ヲ以テ一切苦情申立間敷候此段奉願候也

府縣郡區町村番地

族及職業

戶主 姓名印

年月日
徵兵署
御中

前書之通相違無之候也

年月日

戶長 姓名印

條例第二百二十二條 徵兵令第十七條第十八條第一項乃至第三項及ヒ第十九條ニ當ル者年

(兵事門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續令要領)

齡滿二十七歲以下ニシテ現役ヲ志願スル者ハ前條ノ手續ヲ以テ徵兵検査所ニ出願ス可シ但旅費ハ前條ニ同シ

〔伺〕十七年八月四日東京鎮守使例第二百二十二條志願ノ者ハ海軍兵ニ在テ適當ト定メタル者ニシテ本

事務取扱手續第十九項 徵集相當ニシテ合格ノ者抽籤以前現役ヲ志望スル者ハ徵兵署ニ於テ身幹職業ニ從ヒ現役編入順序ニ據テ許可スヘシ

事務取扱手續第二十項 徵兵事務條例第二百二十二條ニ當ル志願者ハ徵兵令第十條ニ當ル者ノ次ニ列シ又前條ノ志願者ハ尙ホ其次ニ列シ之ヲ現役ニ編入スヘシ

第十一條 年齡十七歲以上滿二十七歲以下ニシテ官立府縣立學校小學校及文部大臣コ於テ認メタル之ト同等ノ學校ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願

ニ因テ一箇年間陸軍現役ニ服セシム十九年勅令第七十號追加改正ス其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアルヘシ但シ備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

〔伺〕十七年八月九日愛媛縣令第四十條第四十一條ニ當ル入管延期及ヒ先入兵ノモノニアラテ同第

十一條ニ據リ一年志願ヲ爲スト雖モ無論條例第三百三條之限外タルベシ
條例第三百三條 徵兵令第十一條ニ據リ一箇年間現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ毎年四月一日ヨリ同月十五日迄ニ其願書第三十二式ヲ戶長ニ差出スヘシ戶長ハ之ニ奧書証印シ那區長ヲ經テ五月一日限リ府縣廳ニ差出シ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ送ルヘシ廿年間令第三號ヲ以テ改正ス

第二十三書式

一年志願兵願書

府縣郡區町村番地主

族及職業

姓名

年月日生

右私或ハ私何男養嗣子ニ承祖孫等ニ候處徵兵令第十一條ニ據リ食料被服等ノ費用トシテ金一百圓上納可仕候間御検査ノ上一箇年間歩兵看護卒ニ看護馬卒ノ現役ニ御徵集相成度別紙某學校卒業證書並ニ學業履歷書相添此段奉願候也

府(縣)郡(區)町(村)番地住

族及職業

戶主 姓名 印

年月日

徵兵署

御 中

前書之通相違無之候也

戶長 姓名 印

(兵事門)

(改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續簡指合要領)

條例第四百四條 志願者ハ當分ノ内各自ノ志望ニ由リ步兵看護卒及ヒ看馬卒ノ内ニ就キ種類ヲ撰ミ出願スルコトヲ得

〔同〕十七年八月四日 條例第四百四條志願兵歸休ヲ命シタルモノ申變ニ際スルハ勿論平時操練復習ト雖モ他ノ現役歸休兵ト全シク召集ス
同條志願兵一ケ年服役中ニ於テ更ニ一般ノ現役兵トナリ三ケ年間服役セント欲シ願出ルモノト雖モ最初一ケ年間ハ其志願兵タルノ性質ヲ變セサルモノトス
同條志願兵豫備兵後備役ニ服スルトハ一般ノ兵卒ト同一ニ取扱フベシ

事務取扱手續第十七項 徵兵署ニ於テハ一年志願者ノ人員ヲ調査シ種類ヲ分チ府縣駐在官ヨリ所屬後備軍司令官ヲ經テ毎年十一月十日限り所管鎮營ニ申告シ鎮營ニ於テハ一軍管ニ取纏メ同月三十日限り之ヲ陸軍省ニ開申スベシ

事務取扱手續第二十一項 一年志願兵合格ノ者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒス年齢ノ順序又同年齡ノ者ハ誕生日日ノ順序ニ從ヒ別ニ府縣及ヒ種類等ニ一貫ノ番號ヲ附スベシ

條例第五百五條 食料被服等ノ自辨金ハ一名金一百圓ニシテ其現品ハ官ヨリ之ヲ支給ス但自辨金ハ九月一日迄ニ府縣廳ヲ經テ鎮營ニ納ムベシ (廿年間分第三號) (ヲ以テ改正ス)

徵兵令第十一條第二項ニ據リ若干月ニシテ歸休ヲ命シタル者ニハ殘金ヲ返附スベシ
條例第六條 志願兵入營前ノ扱ハ總テ現役當籤ト異ナルコトナシ

入營後第八十五條但書ニ當ル事故ヲ生ゼシトキハ第八十六條及ヒ第八十七條ヲ適用ス
條例第七條 步兵志願者ハ各軍管ニ之ヲ編メ別段ノ教育ヲ受ケシメ看護卒看馬卒志願

者ハ各軍管ノ其部ニ屬シ教育ヲ受ケシムベシ

條例第八條 志願兵現役一ケ年ヲ經レハ六個年間豫備役ニ服スベシ

條例第九條 志願兵中品行方正勤務勉勵ニシテ技藝ニ熟達シ下士ノ任ニ堪フヘキ者ニ

ハ其適任證書ヲ付與スベシ

又教育上拔群ノ結果ヲ得タル者ハ豫備役下士ニ任シ士官適任證書ヲ付與ス可シ

條例第十條 志願兵檢査所往復及ヒ入營歸郷ノ旅費ハ總テ自辨トス

條例第二十三條 徵兵令第十一條及ヒ第十八條第二項ノ卒業證書ハ學期二ケ年以上ノ

學校ニ於テ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル證書ニ限ル

〔同〕十七年八月四日 條例第二十三條學期二ケ年以上ノ學校云々ハ必ス該校ニ於テ修業二ケ年以上ノ課程ヲ卒リタル證書ニ限ラス他ノ學校ヨリ轉學シ若シクハ家庭獨學ノ者入學シ該校ノ學期二ケ年以上ニ於テ二ケ年以上ノ課程ヲ卒リタル證書ヲ得タル者モ本條卒業證書ノ効力ヲ有ス

第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行壯方正ナル者及ヒ官立公立學校小學校ヲ除ク及文部大臣ニ於テ認メタル之ト同等ノ學校ノ步兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期末ヲ終ラスト雖モ

歸休ヲ命スルコトアル可シ (十九年勅令第七十號追加改正ス)

〔同〕十七年四月一日 愛媛縣 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者郷里ニ在ル賭博犯ハ軍衛ニ於テ處分スル限リニ在ラス又罰期中ハ召集時呼チ爲サス

第十三條 豫備兵ハ戰時若シハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平

(兵事門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續指令要領)

常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一度六十日以内之ヲ召集シ又兵員實査ノ爲メ毎年一度點呼ヲ爲ス但海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ

第十四條 後備兵ハ戰時若シハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲ス平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メニ召集シ及ヒ兵員實査ノ爲メニ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

〔同〕十七年八月 條例第六書式人別表備考中第二項第三項家屋地租ハ月主及ヒ本人ニ於テ所持スル者ノハ各別ニ之ヲ記載ス

第十五條 國民兵ハ戰時若シハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ハ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集シ隊伍ニ編制シ軍役ニ充ツ

第三章 免除及ヒ猶豫

第十六條 兵役免除スルハ癩疾又ハ不具等ニシテ徵兵檢査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十七條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルル又ハ戰時若シハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

〔同〕十七年五月十 憲兵現役中ノ兄弟モ令第十七條第一項ニ據リ處分ス

〔同〕十七年七月 現役兵ノ兄弟一人ハ徵兵令第十七條第一項ニ據リ猶豫トナルモ前年徵兵ニテ再役志願ノ上服役者ノ弟及ヒ志願ニテ現役者ノ弟等徵兵相當ノ節ハ現役兄志願ト否トヲ撰ハス令第十七條第一項ニ據リ猶豫ニ屬ス

〔同〕十七年八月 令第十七條第一項第二項ノ兄弟ハ同令第十條第十一條ノ現役志願者ノ

〔同〕十七年八月十 條例第二百二十六條兄弟同時徵集ニ當リ共ニ合格スル者ニ於テ令第三

〔同〕十七年七月十 三十六條ノ届出ヲ怠ル者先入兵ハ徵集シ一人ハ猶豫ニ屬ス

〔同〕十七年七月十 令第十七條第一項第二項中ニ海軍卒モ含有ス

條例第二百二十六條 徵兵令第十七條第一項ノ兄弟同時徵集ニ當リ檢査ノ上共ニ合格スル

トキハ情願ニ據リ三人ヲ猶豫スヘシ

前項ノ者他府縣ニ寄留シ該地ニ於テ檢査ヲ受ント欲スルルハ各自届出ヲ爲ス年ノ三月十五日迄ニ其旨ヲ寄留地戸長ニ願出テ本籍戸長ニ届出可シ(廿年閣令第三號)

〔同〕十七年八月四日東京領事 令第十七條第一項兄弟同時徵集ニ應スル者兄弟共ニ合格スルルハ情願ニ因リ必ス一人ヲ猶豫ス若シ情願セサルハ兄ヲ徵集シ弟ヲ猶豫ス又兄弟三人以上アトキト雖モ猶豫スベキ者ハ一人ニ限ル

條例第二百二十九條 徵兵令第十七條第一項ノ現役兵ノ兄或ハ弟一人ハ徵集ヲ猶豫スヘシ

ト雖モ現役中ノ者其年現役滿期或ハ脱走中又ハ歸營償勸中ナルトキハ徵集ニ應スヘシ

條例第二百二十五條 兵令第十七條第一項及ヒ第二項ノ兄弟ハ同戸籍中ノ實兄弟ニ限ル

〔同〕十七年八月 條例第二百廿五條同戸籍中ノ實兄弟ニハ異父兄弟モ含有ス

條例第二百二十七條 武官并ニ陸海軍生徒ノ兄弟ハ徵兵令第十七條第一項第二項ニ據ルノ

限ニ在ラス

〔同〕十七年八月十 條例第二百二十七條武官ト稱スルハ下士以上ヲ指ス

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若シハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟

一八

〔伺〕十七年八月十日 令第十七條第二項中西南ノ役出張死及ヒ負傷セシ巡査ハ含有セス

〔伺〕十七年八月十日 令第十七條第二項三人ノ兄弟中甲ハ現役中死没シシガ自然相續ノ相

續戸主トナリタル時丙者ハ甲者ノ現役中死没シタル故ヲ以テ徵集猶豫トナル

〔伺〕十七年九月 分家又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ本令第

條例第百二十八條 豫備兵後備兵召集中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若シハ疾病ニ罹リ免

役シタル者ノ兄弟徵集ニ當ルトキハ徵兵令第十七條第二項ニ據リ徵集猶豫ニ屬スヘシ

第三項 戸主年齢満六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

〔伺〕十七年八月十日 條例第百二十六條兄弟中協議相整ハス互ニ進退ヲ争フ場合ト雖モ兄

弟徵集シ第ヲ猶豫ス

〔伺〕十七年二月五日 令第十七條第三項ノ嗣子トハ養實ノ區分ナシ

〔伺〕十七年九月十日 令第十七條第三項ノ戸主ハ男女ヲ論セス總テ六十歳以上ノ者ヲ指稱

ス

〔伺〕十七年八月十日 令第二十三條揭示條項ノ外ハ養嗣子ニシテ令第十七條第三項ノ名稱

ヲ得ル者ハ各自届出後ニ係ルモノト雖モ徵集猶豫ニ屬ス

〔伺〕十七年八月十日 除族ニ依リ其族ヲ失ヒ跡ヲ續キタル戸主及ヒ更ニ定メタル嗣子承祖

ノ種ハ猶豫ニ屬セス公權制尋ハ重罪ノ附加刑ナルヲ以テ其刑ニ處セラルハ、ニ依リ跡

ヲ續タル戸主及ヒ更定ノ嗣子相續人ハ猶豫ニ屬ス

〔伺〕十七年八月十日 六十歳以上ノ戸主後子嗣ヲナシ事故アリ雖モ再ビ該後子ヲ從縁セ

シムル者検査時限外ニ係ルモ猶豫ニ屬セス

條例第百四十一條 徵兵令第十七條第三項第二十二條第三項及ヒ第七項ニ掲クル六十歳

又同令第二十二條第五項及ヒ第九項ニ掲クル五個年ハ徵集ニ應スヘキ年ノ一月ヲ以テ

分界ト爲スヘシ

〔伺〕十七年八月 令第十七條第四項ノ瘵疾不具等トハ其症徵服然タル者ノミニ限リ之ニ

齊シキ重病又ハ老衰等ニ罹リ一家維持シ難キ情實ヲ以テ出願スル者アルモ徵集猶豫

ノ限リニアラス

〔伺〕十八年九月 條例第百四十一條年齢ノ分界ハ令第廿二條第三項ノ前戸主ニハ關係ナ

キ若大坂府ヘノ指令ニ付テハ前戸主ノ年齢ヲ計算スルハ其隠居シタル時ヲ以テ分界

ト爲スヘキモノトセバ五十九歳ノモノ戸主ヲ稱メ五十歳ノ養嗣子其跡ヲ繼キ戸主ナ

リ十歳ノ長男ノ隠居者ニ有スル者ノ如キ其長男適齡ニ至レハ現戸主六十歳以上トナル

モ前戸主祖六十歳未滿ニシテ戸主ヲ罷メルヲ以テ徵集猶豫ニ屬セサルカ如シト雖モ

大坂府ヘノ指令ハ相續其順序ヲ失シタル令第廿二條第三項ニ屬シテ指示サレタル者ニ

シテ前陳ノ如キ正當ノ順序ニヨリ相續シタルモノハ無論第拾七條第三項ニ因リ徵集

猶豫ニ屬スヘシ

條例第百四十五條 徵兵令第十七條第四項及ヒ同令第二十二條ノ諸項ニ當ル瘵病又ハ不

具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ハ徵兵検査所ニ呼出シ検査ス可シ但起居

〔兵車門〕 (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續指令要領)

二六七

自在ナラサル疾患ニシテ車駕等ヲ用ユルモ出頭スル能ハサル者ハ府縣駐在官醫官及ヒ府縣兵事課長其家ニ就キ検査スルコトアル可シ

條例第四百十六條 前條ノ者他府縣ニ寄留シ該地ニ於テ検査ヲ受ケント欲スルトキハ適齡者ノ各自届出ヲ爲ス年ノ三月十五日迄ニ其旨ヲ寄留地戸長ニ届出本籍戸長ニ届出ヘ

〔伺〕十七年八月十 令第十七條第四項及ヒ令第二十二條諸項ニ當ル痲疾不具等ノ者他府縣ニ於テ検査ヲ受ケル場合甲縣ニ於テ其適齡者ハ已ニ検査済抽籤ノ場合ニ至ルモ右

地方等ニテ其通知ノ未タ到達セサルトキハ抽籤セシメ得ヘシ

第五項 戸主

〔伺〕十七年七月 痲疾不具重罪ノ事故アル戸主其嗣子承祖ノ孫ヲ痲疾不具重罪等ノ事故

者徵集猶豫ニ屬ス

〔伺〕十七年七月 全家失踪又ハ單身ノ戸主ニテ失踪五個年ヲ經過シ其跡ヲ續キタル戸主

ト雖モ徵集猶豫ニ屬ス

〔伺〕十七年八月 戸主死亡男子ナク又ハ男子アルモ幼穉ニシテ相続シ難ク其寡婦若クハ

女子戸主トナリ該女戸主ハ入婿戸主トナル者ハ其女戸主年齡六十歳未満ナルトハ徵集猶豫ニ屬セス

〔伺〕十七年八月 舊律除族ノ刑ニ處セラレ戸主トナリタルモノ徵兵適齡ナルトハ除族ノ

際戸主非戸主ノ別ナク令第十七條第五項ニ照シ猶豫ス

〔伺〕十七年八月 六十歳未満ノ者隠居シ其嗣子或ハ承祖ノ孫ヘ戸主ヲ譲與シ實家ヘ復籍

或ハ分家又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタルモノ再ヒ該家ニ復歸シタルトキ其戸主

或ハ承祖ノ徵集スル年ノ一月ニ至リ既ニ父六十歳以上トナルモノハ徵集猶豫ニ屬ス

〔伺〕十七年八月十 棄兒無籍人ニシテ一戸新立ノ戸主ハ猶豫ニ屬セス

〔伺〕十七年八月十 嗣子失踪シ未タ五年ヲ經サル内戸主死亡シ他ノ者ニテ其跡ヲ繼キ

〔伺〕十七年八月十 舊法ニ依リ戸主ニシテ除族ノ刑ニ處セラレ尚戸主トナルモノハ通常分

家ノ戸主トハ異リ法律上異動ヲ生セシモノナレハ該戸主及其嗣子承祖ノ孫ハ父ノ年

齡ニヨリ徵集猶豫ニ屬ス

〔伺〕十七年八月 戸主幼年且身體弱等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムト能ハサルニ據リ戸主

ヲ罷メ年齡六十歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼キ戸主トナリ數年ヲ經テ前戸主健康ニ復

シタルヲ以テ再ヒ戸主トナル者ハ徵集猶豫ニ屬ス

〔伺〕十七年八月 令第二十二條第二項第三項第四項ニ當ル嗣子承祖ノ孫ニシテ死跡ヲ

相續ノ者ハ令第十七條第五項ニ據リ徵集猶豫ニ屬ス

條例第八十五條 徵兵令第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルハ抽籤以前該條項ニ當ル者ニ

限ル但戸主若シハ父兄等死没シ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレ或ハ痲疾不具等トナリ本人ヲ

要スルニ非サレハ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルトキハ詮議ノ上郷里ニ歸休セシメ又

ハ第一豫備徵員ニ編入ス

(兵事門)

(改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續指令要領)

抽籤後養子又ハ他家ノ相續人トナリ前項ノ事故ヲ生スルモ詮議ニ及ハス

〔伺〕十七年八月四日 徴兵事務條例第百四十九條先入兵ニテ爾後徴兵令第十七條第十八條

第四五六八及第十九條ニ該當スト雖モ徵集猶豫ノ限ニ非サルヲ以テ入營ノ上全條例

第九項ヲ除クハ及第十九條ニ該當スト雖モ徵集猶豫ノ限ニ非サルヲ以テ入營ノ上全條例

ハス 第八十五條但書ニ當ル事故ヲ生シ一家ノ生計ヲ營ム能ハサル者ハ歸休等ノ除籍ニ及

〔伺〕十七年八月二日 條例第八十五條第二項ノ養子ニハ養嗣子モ含著シ相續人ニハ戸主モ

包含ス尚養弟妹婿等ノ如キ其名稱ノ何タルヲ問ハス抽籤後籍ヲ他家ニ移シタル者ハ

總テ除籍ニ及ハス

條例第八十六條 前條但書ニ當ル者ハ戸主又ハ親族ノ者ヨリ其事由ヲ詳記シ戸籍寫若ク

ハ刑名宣告書寫若クハ醫師診斷書^{第五}並ニ同郡區内現役兵ノ戸主タル者二人以上ナリ

テ事實ヲ證セシメ兵長郡區長與會證印ノ上郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ差出シ該官

ハ後備軍司令官ヲ經テ近衛局領臺或ハ鎮守府ニ申牒ス可シ但癩疾不具等ノ者ハ陸海軍

醫官ヲシテ地方醫師診斷書ノ當否ヲ判定セシメ又ハ府縣駐在官及ヒ其地陸海軍醫官ヲ

シテ其家ニ就キ檢査セシムルコトアルヘシ^(廿年閣令第三號)

〔伺〕十七年八月十日 徴兵事務條例第八十六條ニ當リ第八十五條但書ニ據リ事故中出ルモ

ノハ近衛局領臺若クハ鎮守府ニ宛テ府縣駐在官郡區駐在官共ニ署名押印スヘシ

第五書式 其一 醫師診斷書

診斷書

府(縣)郡(區)町(村)番地住

族及職業

姓名

年日

右ハ天資強實或ハ何々ニシテ病ニ罹リシトナシ或ハ何病ニ罹ル云々何年何月
何日來何症ヲ發シ爾來何々ノ症候^{現症候ヲ精密}アルヲ以テ何症ト診斷シ何々癩
ヲ與ニ何々ノ法ヲ施シ已ニ何週ヲ經過セシ處何々症增加スルニ由リ或ハ何々ノ
症ヲ遺スニ由リ遂ニ危篤ニ陷ル者或ハ所詮治癒ス可ラサル者ト及診斷候也

府(縣)郡(區)町(村)番地住

主任醫姓名 印

府縣病院長^{病院ナキ地方ハ内務省開業免狀所持}

年月日

姓名 印

先天不具ノ者ニシテ治療ヲ加ヘサル者ハ其景況部分ヲ明細ニ記載スヘキ病院長ニ於
テ醫師ノ診斷書狀其病症及治療法等番按シ成規ニ適合スルモノト見ルルハ與會調印

〔兵事門〕

〔改正徴兵令事務條例徴兵事務取扱手續簡指令要領〕

スヘシ其二書式
亦依之
第五書式 其二 醫師診斷書

府(縣)郡(區)町(村)番地住
族及職業

姓名
年 月 日 生

右ハ何年何月何日山林樵伐ノ際或ハ何々ノ時何部ヲ打撲シ何骨ヲ折斷ス或ハ何
ノ部ニ何々ノ傷ヲ被リ即日何術及何綱帶ヲ施シ或ハ何々法ヲ施シ何々劑ヲ與ヘ
何々之症ハ治癒スルヲ得ルモ何々症ヲ遺シ或ハ何々ノ症ヲ繼續スルニ由リ所詮
治癒ス可ラサル者或ハ爾後何ヶ月ヲ經サレハ治癒セサル者ト及診斷候也

年 月 日

府(縣)郡(區)町(村)番地住
主任醫師 姓名 印

右診斷書調査候處不都合無之候也

府縣病院長病院ナキ地方ハ內務
省開業免狀所持醫
姓名 印

年 月 日

〔同〕十七年八月十日 條例第八十五條但書ハ抽籤後入營前ニ係ルモノモ含有ス
〔同〕八日愛知縣

〔同〕十七年八月十日 徵兵事務條例第八十六條第九十八條ニ據リ出願スルモノハ近衛局鎮
密又ハ鎮守府宛ニスヘシ

〔同〕十七年八月十日 從前徵兵ニ關スル醫師診斷書ニ病院長等ノ與書ヲ爲スハ官ヨリ命セ
サルモノニ付其手數科ハ本人ノ負擔トス

〔同〕十七年八月十日 憲兵下士卒撰舉規則第十五條及下士服役規則第十五條診斷書々式ハ
條例第五書式ニ比準ス

〔同〕十七年八月十日 條例第五書式醫師診斷書與書肩書中府縣病院所在地遠隔スル郡町村ニ
於テハ最寄內務省免許醫ヲシテ與書押印セシムルモ妨ケナシ但十七年內務省乙第四
號達ニ因リ醫術開業免狀ヲ有スル者ハ此限ニ非ス

條例第八十七條 前條ノ者生兵或ハ二等若水兵若シハ二等若火夫ノ卒業後ナレハ郷里ニ
歸休セシメ又卒業以前ナレハ之ヲ第一豫備徵員ニ編入ス

條例第八十八條 近衛兵ニシテ前條ニ據リ歸休セシメ又ハ第一豫備徵員ニ編入スル者ハ
近衛局ヨリ本籍所管ノ鎮臺ニ通牒シ該鎮臺ノ管理ニ屬ス可シ

條例第一百十一條 戰時若シハ事變ノ際兵員ヲ要スルトキハ左ニ掲グル項目ノ順序ニ從ヒ
徵集ス可シ

- 一 徵兵令第四十條ノ事故止ミタル者
- 二 補充員

- 三 第一豫備徵員
- 四 徵兵令第十七條ニ當リ徵集ヲ猶豫セシ者

(兵出門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續簡指令要領)

五 第二豫備徵員

〔同〕十七年八月十日 第六日 神奈川縣 條令第三十一條 揭示ノ第十八條第三項ノ生徒ハ抽籤セサルモノナリト雖也 同例第百十一條第三項ニ含有ス 但檢査合格スルトキハ補充員ノ未番號ニ屬キ其兵種一貫ノ番號ヲ附スヘキモノトス

條例第百十二條 豫備徵員ハ年次ヲ逐ヒ服役日尙淺キ者ヨリ當籤番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

條例第百十三條 第百十一條第一項第二項第三項ニ掲クル者ヲ徵集スルノ手續ハ平常補充員ヲ徵集スルニ同シ

條例第百十四條 第百十一條第四項第五項ニ掲クル者ヲ徵集スルトキハ府縣廳ニ於テ臨時徵兵署ヲ設ケ徵集ノ準備ヲ爲ス可シ

條例第百十五條 臨時徵兵署ニ於テハ檢査所并ニ巡廻日割ヲ定メ後備軍司令官及ヒ府知事縣令ニ開申ス可シ但府縣廳ニ於テハ兵長ヲシテ壯丁引繼メテ指定ノ日時場所ニ出頭セシムヘシ

條例第百十六條 檢査巡行ノ諸員ハ府縣駐在官醫官府縣兵事課長地方醫員及ヒ筆生トス但郡區長郡區駐在官ハ檢査所ニ出頭シ同所ノ事務ヲ補助ス可シ

條例第百十七條 身體檢査竣ルノ後府縣駐在官ハ臨時徵兵署ニ於テ府知事縣令ト商議シ徵兵令第十七條ニ當ル者ハ各項目ニ番號ヲ分テ第二豫備徵員ハ各年度ニ番號ヲ分テ抽籤ヲ施行ス可シ

條例第百十八條 一府縣ノ臨時徵兵事務全ク竣ルノ後府縣駐在官ハ人別表檢査表ヲ點檢シ兵種及ヒ部類ヲ分テ人別表ハ臨時徵員明細名簿トシ檢査表ハ臨時徵員檢査名簿トシ籤簿ト共ニ營所後備軍司令官ニ差出シ該官ハ之ヲ一師管ニ取繼メ兵種ヲ分テ人員表ヲ製シ名簿ト共ニ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ差出シ鎮臺司令官ハ其軍管人員表ヲ製シ之ヲ陸軍省ニ開申ス可シ

條例第百十九條 臨時徵兵事務ハ本章ニ掲クル諸條ヲ除クノ外定期徵兵事務ニ準シ便宜處分ス可シ

第十八條 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第一項 教正ノ職ニアル者

第二項 官立府縣立學校小學校及文部大臣ニ於テ認メタル同等ノ學校ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者十九年勅令第七十三號ヲ以テ追加改正ス

〔同〕十七年八月十日 條例第百二十三條ニケ年以上ノ課程ヲニケ年未滿ニシテ卒業シ教員ノ職ニ在ルモノモ令第十八條第二項ニ據リ其事故存スル間徵集ヲ猶豫ス

條例第百三十四條 徵兵令第十八條第一項第二項第三項第四項第十九條第二十條第五項及ヒ第二十一條ニ當ル者其事故止ミタルトキハ學校長若クハ所屬長ヨリ本人所管ノ府

縣廳ニ通牒ス可シ

〔同〕十七年六月三日 十六年文部省第二十號達ニ據リ應請卒業證書ヲ得教員タル者ハ猶豫ニ屬セズ

〔兵事門〕 (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續令等類)

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

條例第三百三十二條 徵兵令第十八條第三項ノ生徒ニシテニケ年以上ノ課程ヲ卒リタル者

ハ同令第三十一條ニ據リ第一豫備徵兵ニ編入スヘキヲ以テ徵兵検査時限ニ至レハ郡區長ヨリ其學校ニ通牒シ最寄ノ徵兵検査所ニ出頭セシメ身体ノ検査ヲ受ケシムヘシ

條例第三百三十三條 徵兵令第十八條第三項ニ掲ケタル官立大學校ニ準スル官立學校ハ左

ノ如シ (廿年開令第三號) (ヲ以テ改正ス)

一 高等師範學校

二 東京農林學校

三 札幌農學校

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

第五項 身幹未タ定尺ニ滿ダサルモノ

條例第四百十三條 徵兵令第十八條第五項第六項ニ當ル者ハ事故ノ存スル間徵集猶豫ニ

屬スト雖モ毎年検査所ニ出頭シ身體ノ検査ヲ受ク可シ

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサルモノ

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

〔同〕十七年十二月 布哇國へ出稼寄留ノ者ハ猶豫ニ屬セス

〔同〕十七年二月 本項禁錮以上ニ該ルヘキ云々ハ現ニ發覺スル所ノ所爲當該官吏ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘシト認知スル者ヲ云フ

〔同〕十七年八月 賭博犯之處分未決者ハ既ニ處分ヲ受ケ徵兵中之者ト同様徵集猶豫ニ屬ス

第九項 公權停止中ノ者

第十九條 官立府縣立學校小學校及文部大臣ニ於テ認メタル之ト同等ノ學校ニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス (十九年勅令第七十三號ヲ以テ追加改正ス)

〔同〕十七年六月三 令第十九條ニ相當シ徵集ヲ猶豫セラレタル生徒事故アリ一旦退校ノ上更ニ原級へ入校シ或ハ在學中其目的ヲ高尙ニシテ官立學校へ轉校シタル者検査時

限内ニ係ラサルハ最前猶豫セラレタル年ヨリ通算シ尙本條ニ依リ徵集ヲ猶豫ス

〔同〕十七年八月 豫備門等之生徒ハ令第十九條ニ準ス又同條官立府縣立學校之生徒トアルハ縣立師範學校豫科生徒モ含テス

〔同〕十七年八月十 第一項 令第十九條官立府縣立學校ニ於テ修業一ケ年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六ケ年以内徵集ヲ猶豫ストアリ而シテ事務條例第三百三十條ニ在テ七

ケ年間其資格ヲ失ヒタルハ徵集スト有之爰ニ縣立師範學校修業中之者徵兵適齡ノ

年ハ初等科一ケ年ノ課程ヲ卒リ中等科修業中ノ故ヲ以テ令第十九條ニ依リ猶豫ニ屬

シ仍ホ修業中高等科ヲ卒ルニ於テハ遠ニ六ケ年ヲ過越スルニ至ル者有之ハ事務條例

第三百三十條ニ據リ七ケ年間ハ猶豫可相成哉

〔同〕九月 第一項 高等科修業中ノ者ト雖モ六ケ年ヲ過クレハ徵集スヘキモノトス

(兵事門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續簡令要領)

條例第百三十五條 徵兵例第十九條ニ掲クル修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒トハ該校ニ於テ其課程ヲ卒リタル者ノモ限ラス他ノ學校ヨリ入學シ一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ニ編入セラレタル者亦該條ニ據リ徵集猶豫ニ屬スヘシ

〔同〕十七年八月日

車務條例第百三十五條他ノ學校ヨリ入學云々トアルハ甲學校官立私

立ニ於テ一ヶ年以上ノ課程ヲ卒業シ直ニ乙校ヘ官公職セシモノニ限ラス并テ其學校

ニテ同様ノ課程ヲ卒ヘタル後故アツテ退校數月ヲ經テ更ニ他ノ校ニ入學シ其學カ

以テ一ヶ年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ニ編入セラレタルモノモ徵集猶豫ニ屬ス

第二十條 左ニ掲クル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ

第一項 官吏以上及ヒ兵長

〔同〕十七年八月日

モ准官吏ハ該條項ニ據リ召集猶豫スルノ限リニアラス

條例第百三十六條 官吏以上及ヒ兵長ハ徵兵令第二十條第一項ニ據リ召集猶豫ス

〔同〕十七年七月十日

縣立師範學校書記ハ明治十五年太政官達八號ニ准官等十一等以下十

七等以上トアルモ徵兵令第二十條第一項ニ合テササルモノトス

第二項 教導職

〔同〕十七年八月日

官立公立學校文部大臣ニ於テ認メタル同等ノ學校教員(十九年勅令第七十三)

第三項 官立公立學校

〔同〕十七年八月日

官立公立學校教員ニシテ官立縣立學校ノ卒業證書ヲ所持セサルモ訓

導職ニ任

〔同〕十七年八月日

官立公立學校第三項ニ依リ復習點呼ノ爲メ召集ヲ爲サス

第四項 府縣會議員

第五項 官立府縣立醫學校及文部大臣ニ於テ認メタル之ト同等ノ學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者(十九年勅令第七十三)

〔同〕十七年八月日

令第二十一條相當ノ者ニシテ既ニ太政官ノ裁決ヲ經タル者同令第三十

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可ラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ

決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアルヘシ

〔同〕十七年八月日

五條ノ届出ヲ怠リタルハ同令第四十三條ニ據リ其届出ヲ怠リタル限ヲ處分シ備ホ

之ヲ徵集ス

第二十二條 左ニ掲クル者ハ第十七條ニ照シ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第一項 附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

條例第百三十七條 附籍戸主及ヒ其嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵兵令第二十二條第一項ニ據リ

徵集スト雖モ其戸主徵兵各自届出期限即チ四月十五日以前ニ一戸ヲ設立スルトキハ徵

兵令第十七條第三項及ヒ第五項ニ據リ徵集猶豫ニ屬ス可シ但分家シ又ハ絶家若クハ廢

家ヲ再興シタル戸主ニシテ更ニ附籍シタル後別ニ一戸ヲ設立スルモ本條ノ限ニアラス

(廿年閣令第三號)

〔同〕十七年八月日

第二項 癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處

セラレタルニ非スレテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承

祖ノ孫

〔同〕十七年八月日

甲家六十歳以上ノ者ノ養嗣子承祖ノ孫甲家ヲ離縁シシ家ヘ復歸ノ上

(兵庫門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續指令要領)

更ニ甲家へ再縁セシ者ハ他ノ子弟ヲ以テ更定セシモノニハアラサルモ當初癩疾不具等ノ故ニアラスシテ離縁セシ者ナルトキ及ヒ六十歳以上ノ者ノ嗣子承祖ノ孫家申向都合ヲ以テ癩病ノ上分籍別戸セシメ後又廢戸復籍更ニ嗣子承祖ノ孫ト定メタル者ハ當初癩疾不具等ノ故ニアラスシテ癩病セシ者ナルヲ以テ令第二十二條第二項ニ據リ徵集スヘキモノトス

〔同〕十七年五月 令第二十二條第二項第五項上段及第八項ノ嗣子承祖ノ孫トアルハ男子ニ限ル

條例第三十九條

徵兵令第二十二條第二項ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵集スト雖モ各自届出ヲ爲ス年ノ四月十五日迄ニ前嗣子承祖ノ孫若クハ相續人同ノ者癩疾又ハ不具等トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬スヘシ(廿年開令第三號)

〔同〕十七年八月 年輪六十歳以上ノ戸主ニシテ嗣子承祖ノ孫又ハ相續人切釋ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ據リ廢病ノ上更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ト雖モ徵集猶豫ニ屬セス

第三項 年輪六十歳未滿ノ戸主癩疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ年輪六十歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼ギタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

〔同〕十七年七月 本項嗣子承祖ノ孫ハ假令徵集ニ應ス可キ年ノ一月ニ至リ戸主ヲ罷メタル者己ニ六十歳ニ至リ或ハ六十歳未滿ト雖モ各自届出ヲ爲ス年ノ九月十五日迄ニ癩疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬セス

〔同〕十七年八月 令第二十二條第三項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ其徵集ニ應スヘキ年ノ一月マテニ前戸主(同ノ者)己ニ六十歳ニ至ルカ又ハ各自届出ヲ爲ス年ノ九月十五日迄ニ癩疾又ハ不具トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬セス

〔同〕十七年八月 令第二十二條第三項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ其徵集ニ應スヘキ年ノ一月マテニ前戸主(同ノ者)己ニ六十歳ニ至ルカ又ハ各自届出ヲ爲ス年ノ九月十五日迄ニ癩疾又ハ不具トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬セス

〔同〕十七年八月 嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ一旦家督相續ノ後ニ至リ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ非ス癩疾又ハ不具等ニ非スシテ穩居シ父再相續最前ノ戸主承祖ノ孫ニシテ其跡ヲ繼ギタルトキハ徵集猶豫ニ屬セス

〔同〕十七年八月 嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ一旦家督相續ノ後ニ至リ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ非ス癩疾又ハ不具等ニ非スシテ穩居シ父再相續最前ノ戸主承祖ノ孫ニシテ其跡ヲ繼ギタルトキハ徵集猶豫ニ屬セス

〔同〕十七年八月 嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ一旦家督相續ノ後ニ至リ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ非ス癩疾又ハ不具等ニ非スシテ穩居シ父再相續最前ノ戸主承祖ノ孫ニシテ其跡ヲ繼ギタルトキハ徵集猶豫ニ屬セス

〔同〕十七年八月 嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ一旦家督相續ノ後ニ至リ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ非ス癩疾又ハ不具等ニ非スシテ穩居シ父再相續最前ノ戸主承祖ノ孫ニシテ其跡ヲ繼ギタルトキハ徵集猶豫ニ屬セス

〔同〕十七年八月 嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ一旦家督相續ノ後ニ至リ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ非ス癩疾又ハ不具等ニ非スシテ穩居シ父再相續最前ノ戸主承祖ノ孫ニシテ其跡ヲ繼ギタルトキハ徵集猶豫ニ屬セス

〔同〕十七年八月 嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ一旦家督相續ノ後ニ至リ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ非ス癩疾又ハ不具等ニ非スシテ穩居シ父再相續最前ノ戸主承祖ノ孫ニシテ其跡ヲ繼ギタルトキハ徵集猶豫ニ屬セス

〔同〕十七年八月 嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ一旦家督相續ノ後ニ至リ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ非ス癩疾又ハ不具等ニ非スシテ穩居シ父再相續最前ノ戸主承祖ノ孫ニシテ其跡ヲ繼ギタルトキハ徵集猶豫ニ屬セス

〔同〕十七年八月 嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ一旦家督相續ノ後ニ至リ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ非ス癩疾又ハ不具等ニ非スシテ穩居シ父再相續最前ノ戸主承祖ノ孫ニシテ其跡ヲ繼ギタルトキハ徵集猶豫ニ屬セス

(兵事門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續令要領)

ハ承祖ノ孫ハ徵集猶豫ノ限ニアラス
但眞宗並舊修驗等世襲ノ者ハ徵兵令第十七條第三項乃至第五項ニ準シ徵集猶豫ニ屬ス

一 無籍者ニシテ原籍不分明新ニ編籍セシモノハ徵集猶豫ニ屬セス

〔伺〕十七年四月八日 新令二十二條第四項ノ戸主死亡シ其跡ヲ繼キタル戸主ハ猶豫ニ屬ス

〔伺〕十七年七月 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主失踪シテ五ヶ年ヲ經過シタル其嗣子若クハ承祖ノ孫ニシテ跡ヲ續キタルトキハ令第十七條第五項ニ依リ徵集猶豫ニ屬ス

條例第三百三十八條 徵兵令第二十二條第四項ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵集スト雖モ其戸主

分家又ハ絶家廢家再興後廢疾不具等トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルトキ又ハ重罪

ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬スヘシ

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

〔指令〕十七年八月廿 規避ノ確証ナクシテ其居所分明ナラサル者ヲ失踪トシ規避シテ其

跡ヲ隠匿スル者ヲ逃亡トス故ニ令第二十二條第五項及ヒ第九項ニハ逃亡ヲ含有セス

〔伺〕十七年八月 四 其失踪ト定ムル期日ハ家出後音信ナキ者ハ家出ノ月ヨリ音信アリシ

者ハ最終ノ音信アリシ月ヨリ起算スヘシ

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主廢疾又ハ不具等ニシ

テ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非ス

シテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

條例第四百十條 徵兵令第二十二條第二項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ其第六項ニ據

リ戸主トナリタル者及ヒ其第七項ノ戸主ハ徵集スト雖モ其徵集ニ應ス可キ年ノ十二月迄ニ前戸主同戸籍者已ニ六十歳ニ至ルカ又各自届出ヲ爲ス年ノ四月十五日迄ニ廢疾又ハ不具等トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル戸主ハ徵集猶豫ニ屬スヘシ(廿年開台第三號)

〔伺〕十七年八月 徵兵令第二十二條第三項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ第六項ニ據リ

戸主トナリシ後前々戸主前條ノ場合ニ至ルトモ徵集猶豫ニ屬セス

第七項 年齢六十歳未滿ノ者廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ

非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸

主

〔伺〕十七年四月二 夫死亡シ子女ナク其寡婦戸主トナリ或ハ父死亡シ男子ナク其女子又

ハ父ノ姉妹戸主トナリ若クハ他家ノ女子ヲ貰受ケ戸主トナシタル者ハ入籍戸主トナ

ルモノ其女子主齡六十歳未滿ナルトハ入籍戸主ハ猶豫ニ屬セス

〔伺〕十七年六月 孤獨ノ女子主夫ヲ迎ヘサレハ一家ヲ維持シ難キヲ以テ入籍ス然ルニ

婚者適齡ナルトキ其婦産業ヲ營ミ能ハザルモ其婚者ハ徵集ス

〔伺〕十七年六月十 戸主死亡シ其男子相續スルモ幼年ニシテ一家ノ生計ヲ營ム能ハス依テ

他人ヲシテ相續セシメ前項戸主ヲ以テ嗣子トナシ后チ相續人ヲ離縁シ嗣子再ヒ戸主

トナルモノ其離縁ノ相續人年齢六十歳未滿ナルトハ徵集猶豫ニ屬セス

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサ

ルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ

(兵務門)

(改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續令要領)

罷メタル跡ヲ繼カス他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

〔同〕十七年八月 戸主死去シ男女子アルモ初稱ニシテ家計保持シ難ク不止得他ノ子弟ヲ以テ家名相續セシメ戸主トナリ而シテ該幼稱者ヲ戸主ノ嗣子ト定メタルモ嗣子ハ猶豫ニ屬シ戸主ハ猶豫ニ屬セス

第九項 戸主失踪シテ五ヶ年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戸主

〔同〕十七年八月 戸主(年齢六十歳未満又)失踪五ヶ年ヲ經サルモノ、跡ヲ繼キタル戸主トナルモ其戸主徵集ニ應ス(キ年)ノ一月既ニ五ヶ年ヲ經過セシモノニ非サルハ猶豫ニ屬セス
〔同〕十七年八月 令第二十二條第九項ノ戸主ハ適齡ノ際前戸主失踪セシヨリ五ヶ年ヲ過キタルハ六十歳前後ノ區別ナク猶豫ニ屬ス

條例第百五十八條 新徵兵令第二十二條ノ諸項ニ當ル者ト雖モ其事柄ノ明治六年一月十日即チ徵兵令制定以前ニ係ル者ハ該條項ヲ以テ處分スルノ限ニ在ラス

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項(除ク)第十九條第二十一條ニ當ル者ト雖モ第三十五條ニ示レタル徵兵各自屆出期限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス(號追加改正ス)

條例第百三十一條 各自屆出後即チ四月十六日以後ニ於テ徵兵令第十八條第一項第二項第三項第四項(除ク)第十九條及ヒ第二十一條ニ當ルモ徵集猶豫ノ限ニ在ラスト雖モ其年十一月廿一日以後翌年四月十五日迄ニ該條項ノ名稱ヲ得タル者ハ徵集猶豫ニ屬ス(號追加改正)

第四章 徵兵區及ヒ抽籤

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從フ其軍管ニ從フモノヲ軍管徵兵區ト爲シ師管ニ從フモノヲ師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從フモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但シ府縣ノ管地則師管ニ分屬スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク又警備隊ノ置タル島嶼ハ各別ニ一區ト爲ス(十九年勅令第七十三號)ヲ以テ追加改正ス
軍管及ヒ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲ク

第	軍管師管	國名
第	武藏ノ内	麴町區 神田區 日本橋區 京橋區 芝區 麻布區 赤坂區 四谷區 牛込區 小石川區 本郷區 下谷區 淺草區 横濱
一	區 荏原郡 南豐嶋郡 北豐島郡 南足立郡 北足立郡 東多摩郡 西多摩郡 南多摩郡 北多摩郡 久良岐郡 橘樹郡 都筑郡 新坐郡 入間郡 高麗郡 比企郡 横見郡 秩父郡 兒玉郡 那珂郡 賀美郡 大里郡 旃羅郡 榛澤郡 男衾郡 相模 甲斐 伊豆 上野 信濃ノ内 南佐久郡 小縣郡 更級郡 下高井郡 北佐久郡 埴科郡 上高井郡 上水内郡 下水内郡	

(兵事門)

(改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續簡指令要領)

一第	二第	三第	四第	五第
武藏ノ内 本所區 深川區 南葛飾郡 北葛飾郡 南埼玉郡 北埼玉郡 安房 上總 下總 常陸 下野	陸前ノ内 仙臺區 名取郡 磐城 岩代 羽前 越後 佐渡	陸前ノ内 宮城郡 栗原郡 登米郡 本吉郡 桃生郡 牡鹿郡 氣仙郡 陸中 陸奥	尾張ノ内 名古屋區 愛知郡 海東郡 海西郡 知多郡 東筑摩郡 西筑摩郡 南安曇郡 北安曇郡 信濃ノ内 東筑摩郡 西筑摩郡	三河 遠江 駿河 伊勢 志摩 紀伊ノ内 南牟婁郡 北牟婁郡

三第	四第	五第	六第	七第	八第
尾張ノ内 東春日井郡 日井郡 丹羽郡 美濃 加賀 能登 越中 飛騨 越前	攝津ノ内 東區 西區 南區 北區 東成郡 住吉郡 紀伊ノ内 和歌山區 名草郡 海部郡 那	播磨ノ内 神戶區 西成郡 島上郡 豐島郡 能勢郡 八郡郡 菟原郡 武庫郡 川邊郡 有馬郡 播磨 淡路 若狹 丹波 丹後 但馬 美作 備前 因幡 伯耆	安藝 備後 備中 出雲 石見 隱岐 周防 長門	阿波 讚岐 伊豫 土佐	肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩
七第	六第	五第	四第	三第	二第
渡島 後志 石狩 天監 北見 膽振 日高 十勝 釧路 根室 千歳	豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 壹岐 對馬	肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩	攝津ノ内 神戶區 西成郡 島上郡 豐島郡 能勢郡 八郡郡 菟原郡 武庫郡 川邊郡 有馬郡	尾張ノ内 東春日井郡 日井郡 丹羽郡 美濃 加賀 能登 越中 飛騨 越前	武藏ノ内 本所區 深川區 南葛飾郡 北葛飾郡 南埼玉郡 北埼玉郡 安房 上總 下總 常陸 下野

(兵事門)

(改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續指合要領)

軍管ハ軍團ノ諸兵師管ハ師團ノ諸兵ヲ徵集ス

徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハス北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎮臺ヲ設クル迄函館縣管下函館江差福山三個所ヲ限り之ヲ行ヒ第二軍管ノ管轄ニ屬セシム

條例第一條 徵兵事務官ハ左ノ如シ

一 鎮臺後備軍司令官 二 營所後備軍司令官 三 府縣駐在官 四 郡區駐在官

五 醫官 六 府知事縣令 七 府縣兵事課長 八 郡區長

事務取扱手續第三項 毎年新兵徵集ノ季節ニ至レハ鎮臺司令官後備軍司令官府縣駐在軍郡區駐在官軍醫其他後備司令部書記等ニ巡回ヲ命スヘシ

條例第二條 鎮臺後備軍司令官ハ其軍管内徵兵ノ事ヲ掌ル

條例第三條 營所後備軍司令官ハ其師管内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際府縣徵兵

署ヲ巡行シ兵種ノ撰定簿冊ノ審査兵役免除ノ處分ヲナシ徵集猶豫ニ係ル者ハ府知事縣

令ト商議シ之ヲ裁決ス但鎮臺所在地ニハ營所後備軍司令官ヲ置カサルヲ以テ鎮臺後備

軍司令官其職掌ヲ兼攝スルモノトス

條例第四條 府縣駐在官ハ其府縣内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際醫官及ヒ府縣兵

事課長ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行シ壯丁検査ノ事ヲ掌ル

條例第五條 郡區駐在官ハ其郡区内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際名簿検査ノ事ヲ

掌ル

條例第六條 醫官ハ毎年新兵徵集ノ際一等軍醫以下軍醫以上ヲ以テ之ニ充ツ

一等軍醫ハ後備司令官ニ從ヒ府縣徵兵署ヲ巡行シ壯丁ノ身材骨格兵役ニ適スルヤ否ヲ

検査スルコトヲ掌ル

二等軍醫以下軍醫試補以上ハ府縣駐在官ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行ス其職掌一等軍醫ニ

同シ

事務取扱手續第四項 一等軍醫ノ人員ハ一師管徵兵區ニ一人トシ二等軍醫以下軍醫試補

以上ノ人員ハ一府縣徵兵區ニ一人乃至三人トス

條例第七條 毎年新兵徵集ノ際前諸條官員ノ外海軍將校ヲシテ後備軍司令官ノ事務ニ參

セシムルコトアルヘシ

條例第八條 府知事縣令ハ管内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際府縣徵兵署ニ於テ後

備軍司令官ト商議シ徵集猶豫ノ裁決ヲ掌ル

條例第九條 府縣兵事課長ハ府縣内徵兵ノ事務ヲ整理シ又毎年新兵徵集ノ際府縣駐在官

ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行シ検査ノ事務ヲ補助ス

條例第十條 郡區長ハ郡区内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際名簿調製ノ事ヲ掌ル

條例第十一條 毎年新兵徵集ノ際師管徵兵區ノ諸記録ハ後備軍司令部書記ヲシテ之ヲ掌

ラシム

検査及ヒ抽籤ノ筆記ハ筆生ヲシテ之ヲ掌ラシメ身體検査ノ記録ハ地方醫員ヲシテ之ヲ

(兵事門)

(改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續指令要領)

掌ラシメ又身體検査ノ補助ヲ爲サシムルコトアルヘシ
醫員筆生ハ府知事縣令ノ撰ヲ以テ命スルモノトス

事務取扱手續第五項 後備軍司令部書記ノ人員ハ一師管徵兵區ニ一人トス
事務取扱手續第六項 地方醫員ハ内務省醫術開業券狀ヲ所持スル者ニシテ其人員ハ概テ一
府縣徵兵區ニ四人乃至六人トス又筆生ノ人員ハ徵兵署ニ五人乃至十人トシ検査所ニ三八
乃至七八トス

條例第十二條 徵集猶豫ノ事ニ係リ後備軍司令官ト府知事縣令ト商議整ハサルトキハ各其
事由ヲ具シ陸軍卿ニ伺出可シ但後備軍司令官ハ其所管長官ヲ經由スベシ

條例第十三條 壯丁ノ検査ヲ施行スル爲メ府縣管地ノ廣狹及壯丁ノ多寡ニ應テ集合便宜ノ
地ヲ撰シ若干ノ徵兵検査所ヲ設ク可シ

事務取扱手續第七項 徵兵検査所ハ務メテ壯丁遠路往復滞在等ノ費用ヲ省略スルカ爲メ一
ヶ所概ネ二百人乃至五百人ノ見込ヲ以テ之ヲ設クヘシ

事務取扱手續第八項 徵兵検査所ハ壯丁ヲ裸休ナラシメ全体ヲ検査シ四支ノ運動ヲ爲サ
シムルヲ以テ官舎或ハ社寺等ノ廣潤ニシテ能ク光線ヲ引キ且温暖ナル適當ノ家屋ヲ撰ビ
之ニ充ツヘシ

條例第十四條 各府縣徵兵區ニ於テ其事務ヲ整理スル爲メ毎年新兵徵集ノ期ニ先テ府縣廳
所在ノ地又ハ管内便宜ノ地ニ一ノ徵兵署ヲ設クヘシ但一府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモ

ノハ毎師管ニ一ノ徵兵署ヲ設ク可シ

條例第十五條 徵兵検査所及ヒ徵兵署へ毎年新兵徵集中開クモノニシテ該事務竣レハ之ヲ
閉ツヘシ

條例第十九條 毎年四月一日以前戸長ハ各自届出ヲ爲ヘキ者ヲシテ徵兵令第三十四條第三
十五條第三十六條ノ届出ヲ怠ラシメサル様注意スヘシ(明治二十年閣令第三
三號ヲ以テ改正ス)

條例第二十條 戸長届書ヲ領收セハ其町村ノ戸籍ニ照シ届出ノ者ヲキヤ否ヤヲ調査シ國民
兵入籍者ト徵兵相當者トヲ分チ徵兵相當者ノ各自姓名ノ頭ニ記載シタル個條並ニ事由書
或ハ證書等相違ナキヤ否ヲ審査シ其届書ニ署名押印シ更ニ徵兵令第十七條第十八
條第十九條第二十一條ニ當ル者ト検査ヲ受クヘキ者トヲ區別シ國民兵入籍者ノ届書ト共
ニ書類目錄ヲ添ヘ毎年五月五日迄ニ郡區長ニ差出ス可シ但徵兵令第三十五條但書ニ當ル
者ハ戸長之ヲ調査シ其族職業氏名住所誕生年月日及ヒ隊號ヲ記シ本條ノ書類ト共ニ郡區
長ニ差出スヘシ(明治二十年閣令第三
三號ヲ以テ改正ス)

條例第二十一條 戸長ハ検査ヲ受ク可キ者ノ戸籍ニ基キ人別表第六
式ヲ製シ各自届書ト
共ニ郡區長ニ差出ス可シ但人別表用紙ハ各自届出ノ季節ニ先テ府縣廳ヨリ之ヲ下付スヘ
シ

第六書式 徵兵人別表

(兵事門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續附指令要領)

明 治 何 年 徵										
身尺	幹度	共種	番號	族職	名	誕	生	年	齡	姓
					何 某	年 月 日	何 年 何 日	氏	宗	何 某
					何 某	女 某	全	全	門	何 宗 何 寺
					何 某	女 某	全	全	同	何 宗 何 寺
					何 某	女 某	全	全	備	一會テ刑罰ヲ受ケシコナシ或ハ年月日何罰何々ニ處セラル
					何 某	女 某	全	全		一戸主或ハ本人家屋チ有

(府縣) (區) (町) (村) (番地) 住族及職業

某何男(養子)(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍) 本人戸主ナレバ戸主ト記スヘシ

兵 人 表 別					
妻	嗣子	兄弟	姉妹	男子	女子
何年何月何日婚	長男 何 某	兄 何 某	妹 何 某	二男 何 某	長女 何 某
姻何府縣族何某全	全	全	全	全	全
長(次)女某	全	全	全	全	全
考					
ス					
一地租何圓ヲ納ム					

○産國ト現今ノ管轄府縣ノ異ナル者ハ表首國郡區町村産ト記スル上ニ其府縣ヲ加ヘ又寄留地ノ徵集ニ應スル者ハ府縣及ヒ國郡區町村住ト記スルノ位置ニ寄留地ノ府縣國郡區町村番地ヲ記シテ其下ニ寄留ト書シ而シテ産國及原籍住地ノ府縣國郡區町村番地(國ハ番地)ヲ表首國郡區町村産ト記スルノ位置ニ併記スヘシ

○族職業産ノ區寄ハ華士族何(平民)何ト記ス但女ハ戸主ニ非ザレハ族職業ヲ記スルニ及ハ

(兵事門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續令要領)

○父母亡スル者ハ名ノ下ニ亡ト記シ族職業誕生年齢等ノ區畫ニハ○ヲ記スヘン祖父母養父母亦之ニ同シ

○分家又ハ絶家ヲ再興ノ者ハ生家ノ祖父母ヲ記シ尙生家ト肩書スヘシ

○年齢ハ本人徴集ニ應スヘキ年ノ十二月ヲ以テ計算スヘシ(明治二十年閣令第[同]十七年八月九日(電報)大分縣 人別表中養子ハ養父母ノ併記シ繼父母ハ記スルニ及ハス)

事務取扱手續第二十七項 徴兵事務條例第六書式ノ人別表用紙及ヒ第十二書式ノ検査表用紙ハ府縣廳ニ於テ左ニ示ス雛形ノ如ク美濃紙半葉ニ之ヲ製シ又雛形圖面ノ自幹度尺ヲ製シ検査所及ヒ徴兵署ニ備ヘ置クヘシ

徴兵人別表雛形

曲六寸七分

長一丈一尺

明治		府		縣	
職 業	兵種	身 尺	府	縣	姓
	番號				
誕生		本年一月		誕生	

尺一丈一尺

年 徴 兵 人 別 表

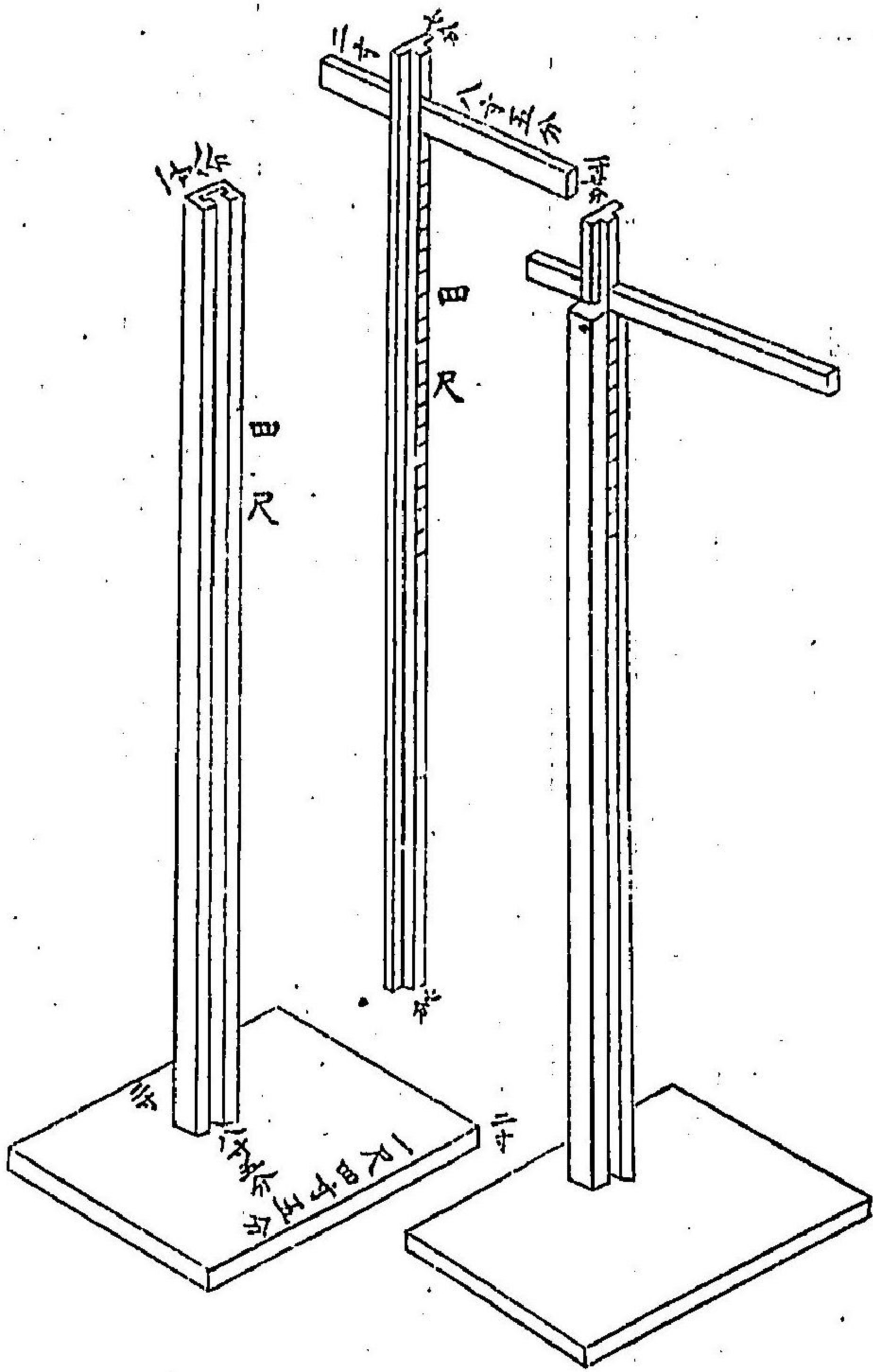
祖 父	祖 母	父	母	養 父	養 母	妻	嗣 子	兄 弟	姉 妹	男 子	女 子
氏 神		宗 門		備				考			

(兵事門)

(改正徴兵令徴兵事務條例徴兵事務取扱手續何指令要領)

(兵部門)

(改正徵兵事務條例徵兵事務取扱手續簡章要領)



○身障度尺之圖

第五一冊
尺曲

尺曲一尺

官檢		徵別		體格		番兵		尺身		府	
之查										縣	
印醫		相骨				號種		度幹			
		髮鼻顏									
之醫地											
印官方						名刻					
掛骨相		眉口額									
掛尺度		痘腮眼									

徵兵検査表雛形

尺曲六寸七分

尺曲一寸二分

〔同〕十七年八月十日
 〔同〕十七年八月十三日
 〔同〕電報局島縣

人別表中義兄弟姉妹ハ記スルニ及ハス
 人別表本人養子ナルトキハ父母ハ發實共ニ記シ祖父母ハ養家ノミ
 ヲ記ス

條例第二十二條 各自届出ノ後身上ノ異動ヲ届出ルトキハ戶長之ヲ調査シ三日以内ニ郡區
 長ニ差出ス可シ

條例第二十三條 郡區長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ各自届書人別表其他諸書類ノ成規ニ適スル
 ヲ否ヲ點檢シ然ル後壯丁名簿^{第七式}及ヒ壯丁異動名簿^{第八式}ヲ製シ卷末ニ署名押印シ各自届
 書人別表其他諸書類ト共ニ五月廿五日迄ニ之ヲ郡區駐在官ニ送致スヘシ<sup>(明治廿年開帳第三
 號ヲ以テ改正ス)</sup>
 ○第七書式其一 壯丁名簿 用紙郡區款名ノ美濃縣紙<sup>以下第八書式其
 三ニ至ル亦同シ</sup>

徵集之部	其何男(養子)(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)	本人戸主ナレハ 戸主ト記スヘシ
何村	士族商	何 某
何町	平民農	何 某
	同	年月日生

定期届出ヲ怠ル者		年月日生
	同	
	同	
弟何某ハ同時ニ徵集ニ當ル者		同
	同	
父廢疾又ハ不具ノ者		同
	同	
	同	
聾啞又ハ癩癘ヲ訴フ者		同
以下倣之		

計 何 人

其年徴兵相當ニシテ検査ヲ受クヘキ者ヲ以テ登記ス連名ノ順名ハ甲村ノ者ヲ書シ終ル
ノ後乙村ニ及ホシ終ニ一郡區ニ編成スヘシ以下第八書式其三ニ至ル亦同シ現役志願兵
及ヒ一ヶ年現役志願名簿ハ本簿ニ准スヘシ
○第七書式其二 壯丁名簿

徴集猶豫之部

某何男(養子)兄(弟)伯(叔)(甥)	本入戸主ナレハ
何村 士族商 ^{(實(養)子)} 父母六十歳何ヶ月	何 某
同	年月日生
何村 平民農	戸主 何 某
同	同

同	同
同	某學校教員
同	同
同	同
同	某學校 何ヶ年課程ヲ卒業ル生
同	同
以下倣之	
計 何 人	

其年徴兵相當コシテ徴兵令第十七條^{第一項第四}第十八條^{第五項第六}第十九條第二十一
條コ當ル者ヲ登記スヘシ

(兵事門) (改正徴兵令徴兵事務條例徴兵事務取扱手續指令要領)

〔同〕二十七年八月 第三十條 徵兵諸名簿登記方ノ儀ハ第七書式備考ニ據リ甲村ノ者ヲ啓シ終ルノ後乙村ニ及ホスハ勿論ノ處名簿明製後ニ係ル異動ヲ生シ更ニ徵集ニ應スヘキ者發肥ノ都合モ有之候ニ付一町村毎ニ名乃至三名ヲ容ルヘキ除白ヲ存シ明製シ可然哉

〔同〕九月 第三十條 一郡區毎ニ除白ヲ存シ置クヘシ

○第七書式共三 壯丁名簿

除役之部	
某何男(養子)(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)	本人戸主ナレハ
何町 平民工	何 某
	重懲役何年
	年月日生
年月日某裁判所宣告	
以下倣之	
計 何 人	

○第八書式共一 壯丁異動名簿

異動徵集之部	
十八年徵兵	
某何男(養子)(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)	本人戸主ナレハ
何村 士族商	何 某
	年月日生
同	
同	
何町 平民雜業	同
戸主ニテ改集猶豫ノ處年月	同
日戸主ヲ港メ届出ヲ怠ル	

十九年徴兵
同
同
十九年徴兵検査ノ 身長四尺七寸
同
同
以下倣之
計 何 人

○第八書式其二

壯丁異動名簿

異動入營延期之部
十八年徴兵
某何里(養子兄弟)伯(叔)甥 本人戸主ト記スヘシ
戸主
何 某
平民農
何村
十八年入營ノ節病氣 十九年検査ノ節同断
年月日生
十九年徴兵
同
同
十九年入營ノ節病氣
同

(兵事門)

(改正徴兵令徴兵事務條例徴兵事務取扱手續指令)

以下倣之

計 何 人

○第八書式其三壯丁異動名簿

異動先入兵ノ部

十八年徵兵

某何男(養子)兄(弟)伯(叔)甥

本人戸主ナレハ
戸主ト記スヘシ

何村 平民農

何 某

十八年徵兵検査ノ
箇失踪十九年同斷

年 月 日 生

以下倣之
計 何 人
○第八書式其三壯丁異動名簿
異動先入兵ノ部
十八年徵兵
某何男(養子)兄(弟)伯(叔)甥
本人戸主ナレハ 戸主ト記スヘシ
何村 平民農
何 某
十八年徵兵検査ノ 箇失踪十九年同斷
年 月 日 生

十九年徵兵

同

同

同

十九年徵兵検査ノ
箇無故登會ヒス

同

以下倣之

計 何 人

十九年徵兵
同
同
十九年徵兵検査ノ 箇無故登會ヒス
同
以下倣之
計 何 人

條例第二十四條 郡區駐在官ハ郡區長ヨリ送致スル所ノ名簿並ニ諸書類ヲ點檢シ其郡區内
ノ壯丁中遺漏或ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ又人別表備考區畫ニ記載スル件々ノ適否ヲ覈査
シ訂正加書シ然ル後名簿ノ卷末ニ署名押印シ諸書類ト共ニ郡區長ニ返附スヘシ

條例第二十五條 郡區長ハ郡區駐在官ヨリ返附スル所ノ名簿ニ各自届書人別表其他諸書類
ヲ添ヘ六月五日迄ニ之ヲ府縣廳ニ差出スヘシ(二十年間令第三)
(號ヲ以テ改正ス)

(兵車門)

(改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續簡指令要領)

條例第二十六條 壯丁名簿調製ノ際區長ハ人別表備考區簿ニ記載スル件々ノ適否ヲ嚴査シ訂正加書ス可シ

條例第二十七條 寄留地ニ於テ徵集ニ應シ又ハ檢査ヲ受ケント欲スル者ハ該部内ノ者ト混セサル爲メ他府縣ヨリ寄留ノ部ト題シ本籍地ニ於テハ他府縣ニ寄留ノ部ト題シ之ヲ別簿ニ作ルヘシ

條例第二十八條 郡區長ハ壯丁名簿壯丁異動名簿整頓前第二十二條ニ據リ身上ノ異動屆書ヲ戶長ヨリ差出ストキハ之ヲ調査シ名簿ヲ訂正スヘシ若シ名簿整頓後ニ係ルトキハ府縣廳又ハ徵兵署或ハ檢査所ニ送ル可シ但徵兵令第三十四條ノ各自届出後身上異動ノ屆書ハ三日以内ニ府縣廳ニ差出ス可シ

條例第三十九條 他府縣ニ籍ヲ轉スルノ異動屆書ハ郡區長ヨリ府縣廳ニ差出シ該廳ヨリ新住地府縣廳ニ通牒ス可シ

●(伺)十七年八月廿五日附岡縣 國民兵入籍届出後二十歳ニ至ル迄ノ間他府縣へ轉籍ハ徵兵事務條例第二十九條ニ依ル

條例第三十條 郡區長ハ壯丁名簿壯丁異動名簿等ヲ府縣廳ニ差出シタル後國民兵入籍者ノ屆書ニ據リ國民兵名簿第九式ヲ調製シ卷末ニ署名押印シ各自届書ト共ニ六月十日迄ニ之ヲ郡區駐在官ニ致送スヘシ(明治二十年閣令第九號ヲ以テ改正ス)

○第九書式 國民兵名簿

用紙美濃紙

姓名	住所 郡(區)町(村)	出生 年月日	族職業 士族 農 平民 工	備考	姓名	住所	出生	族職業	備考

(兵事門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續簡指令要)

備考	姓名	住所	誕生	族職業	備考	姓名	住所	誕生	族職業
						國民兵名簿			
						何府縣			

備考	族職業

●同十七年八月九日滋賀縣
リ之ヲ交付ス 條例第三十條ニ據リ郡區長ニ於テ開製スル國民兵名簿ノ用紙ハ府縣廳ヨ
 條例第三十一條 郡區駐在官ハ郡區長ヨリ送致スル所ノ名簿ヲ點檢シ其郡區内ノ國民兵入
 籍者ノ遺漏或ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ然ル後卷末ニ署名押印シ郡區長ニ返付シ郡區長ハ
 各自届書ト共ニ六月二十日迄ニ之ヲ府縣廳ニ差出ス可シ(明治二十年開令第
 三號ヲ改正ス)
 條例第七十三條 國民兵名簿ハ壯丁名簿調査ノ原籍タルヲ以テ之ヲ府縣廳ニ備ヘ置キ二十
 歳以下ノ者ノ年齢二十歳ニ至ル迄ハ身上ノ異動アル毎ニ訂正ヲ加フ可シ府縣廳ハ國民兵
 名簿ニ從ヒ毎年十二月一日朔ヲ以テ國民兵人員表第二十
 二書式ヲ製シ翌年一月三十一日迄ニ之
 ヲ陸軍省及ヒ鎮臺ニ出ス可シ

○第二十二書式 國民兵人員表

用紙美濃紙

明治何年 十二月一日朔	何府(縣)國民兵人員表	主任官姓名印
年 齡	十 七 歲	十 八 歲
郡 區	十 九 歲	計

(兵事門)

(改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續指令要領)

計	何	人	何	人	何	人	何	人
何	人	何	人	何	人	何	人	何

條例第三十四條 府縣廳ニ於テハ毎年六月十日ヨリ徵兵署ヲ開設シ府縣駐在官暨府縣兵事課長地方醫員及ヒ筆生出頭シ徵兵検査ノ準備ヲ爲ス可シ（明治二十年閣令第...）

條例第三十五條 府縣廳ニ於テハ各自届書人別表其他諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ審査シ戸籍帳ト照較シ遺漏又ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ然ル後徵兵署ニ送致スヘシ

●(同)十七年八月 二日富山縣 徵兵事務條例第三十五條府縣廳ニ戸籍ノ備置無之モ國民兵名簿ヲ以テ戸籍簿ニ代用相成ラス府縣ニ於テ適宜ノ法ヲ設ケ必ス戸籍帳ニ照較スヘシ

條例第三十六條 府縣駐在官ハ府縣廳ヨリ徵兵署ニ送ル所ノ諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ調査シ又壯丁名簿壯丁異動名簿中徵集ニ應ス可キ者ノ總人員ヲ營所後備軍司令官ニ差出ス可シ但營所後備軍司令官ハ之ヲ一師管ニ取繼メ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ呈ス可シ

條例第三十七條 府縣駐在官ハ前條書類調査ノ後府縣兵事課長ト商議シ管地ノ廣狹及ヒ壯

丁ノ多寡ニ應シ検査所並ニ巡回日割ヲ定メ其表^{第十一}面ヲ製シ後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ府縣兵事課長ハ府知事縣令ニ之ヲ開申ス可シ

○第十一書式 検査日割表

徵兵検査日割表

検査所 類別	検査日數	壯丁人員	郡區名	發着月日
某地	自何月何日 至何月何日	何人	何郡	何月何日某地 何月何日某地
某地	自何月何日 至何月何日	何人	何郡	何月何日某地 何月何日某地
計	何日何人	何人	製郡區	自出發 歸着迄 何日

條例第三十八條 検査所並ニ巡回ノ日割已ニ定マルトキハ府縣廳ヨリ郡區長及ヒ戸長ニ達シ戸長ハ之ヲ其町村内検査ヲ受ク可キ者ニ達シ置キ徵集ノ日時ニ至レハ壯丁ヲ引繼メ指定ノ場所ニ出頭ス可シ

條例第三十九條 府縣兵事課長ハ徵兵署ニ於テ筆生ヲシテ人別表ニ基キ検査表^{第十二}ヲ製

(兵田門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續指合要領) 三二三

セシメ検査ノ席ニ備ヘ置ク可シ但検査表用紙ハ検査ノ季節ニ先テ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵器ニ送ル可シ

三一四

○第十二書式 徵兵検査表

明 治 何 年 徵 兵 檢 査 表										
官之印	検査醫	骨相			體質	體格	番兵額種	尺身 度幹	府(縣)國部(區)町(村)番地住(族)及職業	其何男養子(元)弟(伯)叔(甥)(附籍)本人戸主ナレハ
		髮	鼻	額						
	地方醫									何
員之印	掛									某
掛										

産國ト現今ノ管轄府縣ノ異ナル者及ヒ寄留地ノ徵集ニ應スル者産地住地等

配賦方ハ人別表ニ同シ

條例第四十條 壯丁中疾病處刑又ハ逃亡失踪等ニテ検査所ニ出頭セサル者アルトキハ戸主或ハ親族ノ者ヨリ逃亡失踪等ノ者ハ其事由書ニ戸長ノ與書證印憲兵部若クハ警察署ノ證認ヲ受ケ疾病ノ者ハ醫師ノ診斷書書式處刑中ノ者ハ刑名宣告書寫ヲ以テ郡區長ヲ經テ徵兵検査所ニ届出可シ但シ起居自在ナラサル疾患ニシテ車駕等ヲ用フルモ出頭スル能ハサル者ハ其家ニ就キ之ヲ検査シ若クハ他ノ検査所ニ出頭セシムル等府縣駐在官府縣兵事課長商議シテ之ヲ處分ス可シ

●(伺)十七年八月十日 條例第四十條ノ項目中拘留未決者ノ明文ナキモノ拘留未決者ハ猶豫ニ屬セサルヲ以テ届出ニ及ハス

條例第四百三十三條 徵兵検査呼出又ハ入營ニ際スルトキハ民事訴訟ノ爲メ裁判所ノ召喚アリト雖モ検査又ハ入營日時ヲ延期セス

條例第四十一條 徵兵検査所ニ於テ領收スル所ノ諸願届書ハ府縣駐在官府縣兵事課長ト商議シ之ヲ處分シ壯丁名簿壯丁異動名簿ニ訂正ヲ加ヘ若シ處分スルコト能ハサルモノ或ハ成規外ニ係ルモノハ意見書添ハ之ヲ巡行ノ後備軍司令官ニ差出ス可シ

條例第四十二條 検査ハ概テ六月廿日ヨリ始メ第三十四條ニ掲グル所ノ諸員徵兵検査所ヲ巡行シ其事務ヲ調理ス(二十年開令第三號ヲ以テ改正ス)

條例第四十三條 戸長ヨリ検査ノ達ヲ受タル者ハ戸長ニ從ヒ指定ノ日時ニ其場所ニ出頭シ府縣駐在官府縣兵事課長ノ面前ニ於テ身体ノ検査ヲ受クヘシ

(兵事門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取致手續簡指令要領)

三一五

條例第四十四條 身体検査ヲ爲ストキハ郡區駐在官郡區長列席郡區駐在官ハ壯丁名簿壯丁異動名簿中徵集ノ部ニ記載シタル順序ニ壯丁ヲ呼出シ醫官ハ徵兵検査規則ニ據リ體格ヲ検査シ合格ノ者ハ更ニ其體格ノ等位ヲ區別ス不合格ノ者及ヒ身幹四尺九寸未滿ノ者ハ地方醫員ヲシテ之ヲ検査表ニ記註セシメ醫官之ニ捺印シテ府縣駐在官ニ差出ス可シ但四尺九寸未滿ノ者及ヒ不合格者ノ骨相ハ検査表ニ記註スルヲ要セス唯其尺度並ニ骨相ノ部ニ主任ノ醫員捺印ス可シ

事務取扱手續第九項 壯丁ノ身体検査ノ上合格者ノ等位ヲ甲乙ノ二種ニ區別シ休格強壯ノ者ヲ甲種トシ休格甲種ニ亞キ五種兵ニ適セサルモノヲ乙種トスヘシ

條例第四十五條 壯丁ノ身体検査終ル毎ニ府縣駐在官ハ府縣兵事課長ト共ニ人別表ニ據リ本人姓名住所(族)職業父兄ノ姓名等相違ヲキヤ否ヲ尋問ス可シ

條例第四十六條 人別表調査ノ後府縣駐在官ハ検査表ニ據リ發生シテ人別表中身幹尺度ノ區畫ニ各自ノ寸尺ヲ記註セシメ又疾病缺損又ハ身幹四尺九寸未滿ノ者ノ備考區畫ニハ何ノ事故ニ付徵集猶豫疾病缺損ニ付除役等其要領ヲ記註セシム可シ

條例第四十七條 壯丁中癩癩、狂病、白痴、夜盲、聾、啞、遺尿等ノ如キ疾病アリ其狀ヲ申告セントスル者ハ平素其病狀ヲ熟知スル近隣ノ戶主二人以上ノ証書ヲ添テ検査所ニ申出可シ醫官ニ於テ相違ナシト認定スルトキハ之ニ與書證印ス可シ若シ認定スルトコト能ハサルトキハ府縣駐在官ニ致ス可シ駐在官ハ之ヲ徵集ノ部ニ加フ可シ

條例第四十八條 壯丁ノ身体検査終ル毎ニ府縣駐在官ハ府縣兵事課長ト共ニ合格又ハ不合格或ハ徵集猶豫ノ要領ヲ壯丁名簿壯丁異動名簿中ノ各自名姓ノ順ニ記註スヘシ

事務取扱手續第一項 近衛局及ヒ鎮臺ハ十一月一日ノ理員ニ依リ翌年ノ所要徵集表ヲ製シ十一月十五日迄ニ之ヲ陸軍省ニ開申スヘシ

條例第五十條 府縣駐在官ハ人別表備考區畫ヲ案レ訂正ヲ加フ可キモノハ之ヲ加ヘ醫官ニ謀リ身体最モ健全ニシテ近衛兵ニ適當スト思考スルモノハ人別表備考區畫ニ近衛何兵適當ノ文字ヲ記註ス可シ

條例第五十一條 府縣駐在官ハ壯丁ノ職業ニ注意シ海軍兵ニ適當スト思考スルモノハ人別表備考區畫ニ海軍何兵適當ノ文字ヲ記註ス可シ

條例第五十二條 府縣駐在官ハ合格者ノ人別表及ヒ検査表ニ照シ各自ノ身材體能職業ニ應シ豫メ兵種ヲ區別ス可シ

條例第五十八條 兵種ノ區別已ニ竣レハ府縣駐在官ハ府縣兵事課長ト共ニ壯丁名簿壯丁異動名簿人別表検査表其他一切ノ書類ヲ取總メ巡行ノ後備軍司令官ニ差出ス可シ

條例第五十九條 營所後備軍司令官ハ府縣駐在官ノ報告ニ據リ一府縣ノ徵兵検査事務完了ノ日時ヲ量リ巡回日割表^{第十三式}ヲ作り鎮臺後備軍司令官ヲ經テ之ヲ鎮臺司令官ニ開申シ又其巡行ス可キ府縣廳及ヒ府縣駐在官ニ通牒ス可シ

○第十三書式

(兵事門)

(改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續指令要領)

徵兵抽籤巡回日割表 鎮臺(營所)後備軍司令官姓名印

抽籤所	抽籤日		滞在日數		程行		發着	
	日	時	日	時	日	時	日	時
府(縣)徵兵署	何月	何日	何月	何日	何月	何日	何月	何日
全	何月	何日	何月	何日	何月	何日	何月	何日

事務取扱手續第十八項 後備軍司令官徵兵署巡回日割ハ成ルヘク三月十日以前ニ於テ其師管ノ徵兵事務ヲ竣ハル如ク之ヲ定ムヘシ

條例第六十條 府縣廳ニ於テハ後備軍司令官ノ通牒ニ據リ其日時場所ヲ抽籤總代人ニ達シ出頭セシム可シ

條例第六十三條 後備軍司令官ハ府縣巡回期日ニ至レハ徵兵署ヲ巡行シ壯丁名簿壯丁異動名簿其他諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ審査ノ上檢印シ又徵集猶豫ニ關スル書類ハ府知事

縣令ト商議シ成規ニ照シテ之ヲ處分ス可シ

第二十五條 各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵集ス但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ

海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス

事務取扱手續第二項 徵集人員ノ配當ハ歩兵ニ在テハ一師管區内ノ壯丁名簿及ヒ壯丁異動名簿ノ徵集ノ部ニ記載シタル總人員ヲ率トシ他ノ諸兵及ヒ雜卒職工ハ一軍管徵兵區内ノ壯丁名簿及ヒ壯丁異動名簿ノ徵集ノ部ニ記載シタル總人員ヲ率トシ之ヲ府縣徵兵區内ノ壯丁名簿及ヒ壯丁異動名簿ノ徵集ノ部ニ記載シタル人員ニ配當シテ徵兵事務條例第三十三條ノ配當表ヲ作ルヘシ

但近衛諸兵ハ一軍管徵兵區内ノ壯丁名簿及ヒ壯丁異動名簿ノ徵集ノ部ニ記載シタル人員ヲ率トシ府縣ニ配當スヘシ

條例第七十四條 現役兵ハ編入ノ順序左ノ如ク

- 一 徵兵令第四十一條ニ當ル者
年齢ノ順序又同年令ノ者ハ誕生月日ノ順序ニ從フ
- 二 徵兵令第四十條ニ當ル者

第一項ノ者ニ亞キ年令ノ順序又同年令ノ者ハ誕生月日ノ順序ニ從フ

(兵事四) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續指令要領) 三一九

三 徵兵令第十條ニ當ル者

第二項ノ者ニ亞キ年令ノ順序又同年令ノ者ハ誕生日ノ順序ニ從フ

四 現役當籤ノ者

第三項ノ者ニ亞キ當籤番號ノ順序ニ從フ

五 補充當籤ノ者

歩兵ニ在テハ師管徵兵區内其他ハ軍管徵兵區内ニ平均シ當籤番號ノ順序ニ從フ

●同十七年八月十日 條例第七十四條第一項第二項ニ當ルモノ同年令ニシテ誕生日相
同シキモノハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム可シ

條例第七十五條

歩兵ノ補充員不足シ師管徵兵區内ニ於テ現役兵ヲ充實スル能ハサルトキハ營所後備軍司令官ハ鎮守後備軍司令官ヲ經テ鎮守司令官ニ上申シ鎮守司令官ハ他ノ師管ヨリ之ヲ充實シ又他兵ノ補充員不足シ軍管内ニ於テ現役兵ヲ充實スル能ハサルトキハ鎮守司令官ヨリ之ヲ陸軍省ニ開申スヘシ

第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス

府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體檢査終リタル後兵役ニ適ス可キ人員ノ身材職ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號ヲ定メ抽籤セシム

條例第六十四條 後備軍司令官ハ抽籤施行ニ先テ徵兵令第四十一條ニ當ル先入兵同令第四十條ニ當ル入營延期ノ者及ヒ同令第十條ニ當ル志願兵ヲ調査シ現役兵編入ノ順序ニ從ヒ

現役番號ヲ附スヘシ

條例第六十五條 抽籤ハ後備軍司令官府知事縣令府縣駐在官府縣兵事課長郡區長及ヒ郡區駐在官列席シ徵集人員配當表ニ基キ近衛諸兵鎮守諸兵及ヒ海軍諸兵ヲ區別シ雜卒職工亦

其種類ヲ分チ之ヲ行フヘシ

條例第六十七條 抽籤施行ノ際後備軍司令官ハ書記ヲシテ人別表ニ番號ヲ記入シ又籤簿式ニ

四番ヲ調製セシム可シ

籤簿ハ兵種ヲ分チ當籤番號ノ順序ヲ以テ登記シ卷末ニ籤簿掛署名押印スヘシ但籤簿ハ別ニ一部ヲ作り府縣廳ニ備置シヘシ

○第十四書式 籤簿 用紙府縣欸名美濃野紙

向府(縣)現役(補充)步騎(砲)工(輜重)兵(輜重)輸卒(看護)卒(籤簿)	郡區山村
第一番	姓 名
先入兵	
同	

(兵事門)

(改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續簡指令要領)

第二番	入營延期	同
第三番	志願兵	同
第四番	計何人	以下倣之

第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰テ以テ一名乃至三名總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム
 條例第四十八條 身体検査終リタル後郡區長ハ合格者ヲシテ抽籤總代人ヲ撰ハシメ其姓名
 住所ヲ府縣兵事課長ニ通牒ス可シ
 條例第六十六條 抽籤總代人ノ抽キタル籤ヲ確證スル爲メ籤簿掛ハ其籤ヲ總代人ヨリ領收
 レ籤丁名簿姓名ノ頭ニ貼付シ徵兵署ノ割印ヲ押レ然ル後總代人ニ返付スヘシ

〔同〕十七年八月 條例第四十九條ノ抽籤總代人ハ合格者ヲシテ撰定セシムル成規ナルモ
 一郡區壯丁検査數日ニ跨リ撰定方差支ルハ合格者中ヨリ撰定委員ヲ置キ之ヲ撰ハ
 シムルモ妨ケナシ

〔同〕十七年八月 抽籤總代人ハ郡區書記又ハ戶長ヲ撰定スルモ若レカラス

第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應シ籤札ニ兵種番號ヲ記シ籤箱ニ納レ籤簿掛ノ面前ニ
 置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ビ總代人ニ之ヲ抽カレメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監
 シ抽キ擧ケル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取り籤簿ニ氏名番號ヲ記シ籤札ハ總
 代人ニ交付ス
 條例第六十一條 抽籤施行ニ先チ府縣兵事課長ハ徵兵署ニ於テ筆生ヲシテ籤丁名簿及ヒ籤
 札ヲ調製セシメ抽籤ノ席ニ備ヘ置キ又ハ其府縣籤丁ノ總員及ヒ各兵種現役補充ノ徵兵署
 配賦セシメ之ヲ抽籤場所ニ揭示ス可シ
 條例第六十二條 籤丁名簿ハ籤丁ノ姓名住所ヲ記シ又籤札ハ左式ノ如ク厚紙ヲ凡ソ方三寸
 ニ切り之ヲ四ツ折ニシテ中分ヲ拵リ合格者ノ數ニ應シ調製スヘシ

籤札

近衛(鎮監)
 (海軍)
 何兵第何番

條例第六十八條 抽籤施行ノ後徵兵署ニ於テハ人別表ニ據リ番號割符_{第十五}ヲ作り籤簿ニ
 (兵事門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續簡指令異議) 三三三

引合セ徵兵署ノ制印ヲ押シ籤札ニ照シ抽籤總代人ニ交付ス可シ但抽籤總代人ハ受領證書
 第十六式ヲ差出ス可シ

○第十五書式 番號割符

明		徵兵署		治		年		何		月		何		日	
府(縣國郡區)町(村)住族及職業		某何男(養子)兄(弟)伯(叔)附籍 <small>本人戸主ナレハ戸主ト記スヘシ</small>		兵種		何		鎮		番號		臺		現役(補充員)申付候事	
何		某		何		何		何		何		何		何	

近衛兵ノ制符ハ現役ノ上ニ近衛ト記シ又海軍兵ノ制符ハ海軍ト記スヘシ
 又一年志願兵ニ在テハ一ケ年現役申付候事ト記スヘシ

○第十六書式 受領證書

受領證書

現役(補充)步(騎)砲(工)輜重(兵)輜重(輸卒)看護(卒) 第何番 姓 名

同 第何番 姓 名

同 第何番 姓 名

計 何 人

右當籤ニ付番號割符(番號割符并ニ籤札)御渡相成正ニ致領収候速ニ本人共ニ可相渡候也

府(縣)郡(區)抽籤總代人 姓 名 印

年 月 日 徵兵署 御 中

事務取扱手續第二十二項 徵兵令第二十八條ノ籤丁名簿ハ郡區ヲ分チ美濃紙半葉ニ三名若
 シハ四名宛籤丁ノ住所姓名ヲ登記シ而シテ抽籤施行ノ後一人毎ニ之ヲ截チ切り總代人ニ
 付與スヘシ

事務取扱手續ハ第二十六項 徵兵務事條例第十五書式ノ番號割符ノ用紙ハ鎮臺ニ於テ左ニ
 示ス離形ノ如ク厚紙ヲ以テ之ヲ製スヘシ

(兵庫門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續備指令要領)

○番號刺符雛形表

尺曲六寸二分	明 治 何 年 月 日			
	何	鎖	送	送
尺曲五分	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 長一尺一寸四分 尺曲五分 </div>			

此番號刺符ハ入營迄丁寧ニ所持シ若シ損傷遺失スルハ速カニ戸長ニ届出ツヘシ
 ○現役當銀ノ者月長ヨリ入營時口ノ違テ受ケルハ此刺符ヲ所持シ入營ノ上之ツ
 其隊ニ納ムヘシ○現役當銀者入營迄ハ五日間ニ往復スルヲ能ハサル地ニ出ツルヲ
 許サス○入營期ニ臨ミ疾病犯罪等ニテ入營シ難キトキハ事實ヲ詳記シ(疾病ノモ
 ハ醫師診斷書ヲ添ヘ)即日戸長ニ届出ヘシ其事故止ムトキ亦同シ若シ事故延テ十五
 日以上ニ及フトキハ最初届出ノ日ヨリ三十日毎ニ届出其年九月一日ニ至ルモ事故
 猶止マサルトキハ此刺符ヲ添ヘ同月十五日限リ戸長ニ差出スヘシ○入營前甲府縣
 ヲリ乙府縣ニ轉籍又ハ全戸寄留スルハ即日戸長ヨリ甲府縣郡區駐在官ニ届出又乙府縣
 ニ到着ノ上ハ此刺符ヲ添ヘ同様届出又本人ヨリ甲乙府縣郡區駐在官ニ届出ヘシ○
 補充員ニシテ入營シ命セラレタル者入營迄ノ心得ハ現役當銀ノ者同様心得ヘシ○
 補充員入營ノ期ニ臨ミ疾病犯罪ニテ入營スルヲ能ハサルハ補充員ハ十日間ニ往復スル
 ヲ添ヘ(疾病ノ者ハ醫師診斷書ヲ添ヘ)戸長ニ届出ヘシ○補充員ハ十日間ニ往復スル
 ヲ能ハサル地ニ出ルヲ許サス若シ己ムヲ得サル事故ヲ生シ其日限テ越ル地ニ出
 ント欲スルハ事實并ニ往先ヲ詳記シ戸長郡區長ノ與書証印ヲ受ケ郡區駐在官ニ出
 願スヘシ○補充員身上ニ異動ヲ生スルトキハ戸長主或ハ親族ヨリ三日以内ニ戸長ニ
 届出ヘシ○補充員ニシテ甲府縣郡區ヨリ乙府縣ニ轉籍又ハ全戸寄留スルモノハ現役當
 銀者ノ例ニ據ルヘシ○補充員服役年期ハ現役兵ト同シテ四月二十日ヨリ起算シ滿
 一箇年ノ後ハ別ニ命ナクシテ第一豫備徵員ニ編入セラレタルモノト心得ヘシ○第
 一豫備徵員身上ニ異動ヲ生スルトキハ戸長主又ハ親族ヨリ三日以内ニ戸長ニ届出ヘ
 シ○第一豫備徵員ニシテ十五日間ニ往復スルコト能ハサル地ニ旅行セント欲スル
 トキハ其往先ヲ詳記シ戸長郡區長ヲ經テ郡區駐在官ニ届出然ル後旅行セント欲スル
 届出ニ旅行中徵集ノ命アルトキハ之ヲ通報スヘキモノハ姓名住所ヲ記入スヘシ○
 第一豫備徵員ノ年齢滿二十八歳トキハ年ノ四月ニ至レハ此刺符ヲ郡區駐在官ニ納
 ムヘシ

(兵事門)

(改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續命令要領)

〔同〕十七年八月一日總協隊。新兵入營以前番號割符ヲ損傷遺失スル者ハ其趣ヲ速ニ戸長ニ届出サセ
 戸長ハ其事實ヲ取糺シ全ク過失ニ出ル者ハ申山書ヲ徴シ郡區長ヲ經テ直ニ所轄後備
 軍司令部ヘ下付方出願セシメ又入營途中ニ在テハ附添人ヨリ其管所ヘ届出シムヘシ
 條例第六十九條 抽籤竣ルノ後徵兵署ニ於テ左ノ名簿ヲ作ル可シ
 一 除役名簿

徵兵令第七條及ヒ第十六條ニ當ル者ノ部類ヲ分チ第十七書式ニ據リ登記ス
 ○第十七書式 除役名簿 用紙美濃紙

備考	姓 名	住 所	誕 生	族 職 業	住 所		備 考
					郡 (區)	町 (村)	
	某 (弟) (伯) (叔) (甥) 何 某	全	全	士 族	全	全	
	疾病 (缺 損)	全	全	農 平民工	全	全	

徵兵令第七條及ヒ第十六條ニ當ル事項

備考	姓 名	住 所	誕 生	族 職 業	住 所		備 考
					郡 (區)	町 (村)	
	其同男(養子)(兄) (弟)(伯)(叔)(甥) 本人戸主ナレハ 戸主ト記スヘシ	何 町 某 (村)	年 月 日	士 族 商	何 府 縣		
	除役名簿						
	何府縣						

徵兵令第七條及ヒ第十六條ニ當ル事項

年月日宣告 重懲役十年

二 徵集猶豫名簿

徵兵令第十七條第十八條第十九條及第二十一條ニ當ル者ノ部類并ニ條目ヲ分チ第十八書式ニ據リ登記ス但同令第十八條第五項及ヒ六項ニ當ル者ハ年度ヲ分チ別冊ニ登記ス

○第十八書式 其二 徵集猶豫名簿

用紙美濃紙

姓 名	住 所	誕 生	族 職 業	備 考
某 <small>基何男(養子)(兄)(弟) (伯)(叔)(甥)本人戸主 ナレハ戸主ト記スヘシ 何某</small>	郡(區)町(村) 同	年 月 日 同	平民 商 士 族 農 同	戸主 父六十歳三月 嗣子

住 所	誕 生	族 職 業	備 考	姓 名	備 考
郡(區)町(村)	年 月 日	士 族 商	徵兵令第十七條ニ當ル事項 祖父六十五歳 承祖ノ孫	徵集猶豫名簿	何府縣

(兵車門)

(改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續簡指令要領)

備考						姓名

○第十八書式 其二

用紙美濃紙

姓名	某何男(養子)(兄)(弟) (伯)(叔)(甥)本人戸主 ナレハ戸主ト記スヘシ	同	同	同	同	同
住所	郡(區)町(村)	同	同	同	同	同
誕生	年月日	同	同	同	同	同
職業	平民農	士族	商			

備考	徵兵令第十八條 第十九條第二十 一條ニ當ル事項	族職業	士族農	誕生	年月日	住所	郡(區)町(村)	姓名	某何男(養子)(兄)(弟) (伯)(叔)(甥)本人戸主 ナレハ戸主ト記スヘシ	備考	徵兵令第十八條 第十九條第二十 一條ニ當ル事項
	年月日決裁済 某省奉職										年月日 少教正
											年月日入校(團) 陸海軍某校(團) 生徒
											官立某中學校ニ於 テ何ケ年課程ヲ卒 ル生徒

徵集猶豫名簿

何府縣

(兵車門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續何指令要領)

姓 名	備 考	姓 名	備 考	姓 名	備 考	姓 名	備 考

三 先入兵不參名簿

徵兵令第四十一條ニ當ル者ニシテ其年検査ヲ受サル者ヲ第十九書式ニ據リ登記ス
 ○第十九書式 先入兵不參名簿 用紙府縣款名ノ美濃縣紙

十八年徴兵		某何男(子)兄(弟)伯(叔)甥(本)人(戸)主(ト)記(ス)カ(レ)ハ
何村	平民農	何 某
十八年徴兵検査ノ節失踪 十九年同斷二十年同斷		年 月 日 生
十九年徴兵		
同		
何町	士族農	同
十九年徴兵検査ノ節逃亡 二十年同斷		同

(兵事門)

(改正徴兵令徴兵事務條例徴兵事務取扱手續指令要領)

二十年徴兵
同
同
二十年徴兵検査ノ前故ナク 検査ニ参會セズ
同
以下倣之
計 何 人

四 入營延期不参名簿

徴兵令第四十條ニ當ル者ニシテ其年検査ヲ受ケサル者ヲ第二十書式ニ據リ登記ス
 ○第二十書式 入營延期不参名簿 用紙府縣款名ノ美濃紙

十八年徴兵
某何男養子(兄)弟(伯)叔(甥)

何町 平民工	何 某
十八年入營ノ節病氣十九年徴兵検査ノ節同斷二十年同斷	年月日生
十九年徴兵	
何町 士族商	同
十九年入營ノ節病氣二十年徴兵検査ノ節處刑中	同
以下倣之	
計 何 人	

- 五 一年志願兵名簿
- 六 近衛現役兵名簿
- 七 鎮臺現役兵名簿
- 八 海軍現役兵名簿
- 九 近衛補充員名簿

(兵庫門) (改正徴兵令連絡條例兵庫務取扱手續同指令要領)

(兵車門)

(改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續備指令要領)

三四一

現役志願者ハ備考區衙中ニ兵種ヲ分チ其人員ヲ記スヘシ

○第二十一書式 徵兵表

類別	何明治 何府(縣)徵兵表 其二	
	郡區	
壯丁	徵集人員	
異動	先入兵不參人員	
	入營延期不參人員	
	徵集猶豫人員	
總員	除役人員	計

考備	人員	除役	人員
人員	計	計	計
計	計	計	計

猶徵	人員	不參	先入兵	員																	
				充			補														
官立學校教員	現役兵ノ兄弟	兄弟同時徵集	計	刑專裁判未決	計	海軍	砲兵	砲兵	砲兵	砲兵	砲兵	砲兵	砲兵	砲兵	砲兵	砲兵	砲兵	砲兵	砲兵	砲兵	砲兵

(兵車門) (改正徵兵令徵兵事務條例徵兵事務取扱手續簡指令要領)

總 計	人員	除役	徵集	徵集	先入兵	不參人	入營延	期不參	人員	人員	人員
	人員	欠疾	員豫集	身	刑	計	公	病氣	機	停	止
	計	損病	病	短尺	事裁判未決	計	中	中	中	中	中
	計	損病	病	短尺	事裁判未決	計	中	中	中	中	中
	海軍										
	火	水	看	輜	輜	工					
	夫	兵	護	重	重	兵					
			卒	輪	輪	兵					
				卒	卒						

徵集人員										
現役										
近衛		鎮		海軍		近衛		鎮		近衛
砲	騎	砲	騎	砲	騎	砲	騎	砲	騎	砲
兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵